

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果～

(令和6年度)

山梨県保険者協議会

目 次

1.	目的	1
2.	分析対象	3
3.	算出方法	3
4.	統計分析	
	(1) 薬効分類別の使用割合	4
	(2) 年齢階級別の使用割合	9
	(3) 若い世代における薬効分類別の使用割合	32
	(4) 後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合	40
	(5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合	52
	(6) 山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合	55
5.	まとめ	65

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合
～データ分析(数量ベース)～

1. 目的

国では、令和6年3月14日開催された、社会保障審議会医療保険部会において、医薬品の安定的な供給を基本としつつ、後発医薬品の数量シェアを令和11年度末までに全ての都道府県で80%以上を主目標とする方針が示されている。

政府目標の設定を踏まえ、山梨県においても、第4期山梨県医療費適正化計画において、後発医薬品の使用割合を80%とすることを目標としている。

山梨県の、令和6年9月時点での使用割合は86.6%となっており、国及び山梨県の目標は達成しているが、順位は変動していない状況である。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、後期高齢者医療のデータを分析し、幅広い年齢層の状況を把握する資料を作成した。

－山梨県のジェネリック医薬品使用割合(順位)－

単位(%)

対象年月	令和2年度 4月～3月	令和3年度 4月～3月	令和4年度 4月～3月	令和5年度 4月～3月	令和6年度 9月
使用割合	80.8	81.9	83.1	84.7	86.6
順位	35	34	34	34	34

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

一都道府県別ジェネリック医薬品使用割合(順位別)一

単位(%)

	県名	令和2年度 4月～3月	県名	令和3年度 4月～3月	県名	令和4年度 4月～3月	県名	令和5年度 4月～3月	県名	令和6年 9月
	全国	81.4	全国	82.0	全国	83.2	全国	84.6	全国	86.6
1	沖縄	89.0	沖縄	89.3	沖縄	89.9	沖縄	91.0	沖縄	92.1
2	鹿児島	86.6	鹿児島	87.0	鹿児島	88.0	鹿児島	89.3	鹿児島	90.7
3	岩手	86.1	岩手	86.4	岩手	87.1	山形	88.5	山形	90.2
4	山形	85.0	宮崎	85.7	宮崎	86.8	宮崎	88.4	岩手	90.1
5	宮崎	85.0	山形	85.4	山形	86.7	岩手	88.4	鳥根	89.8
6	鳥根	84.9	鳥根	85.3	鳥根	86.4	鳥根	88.1	宮崎	89.8
7	鳥取	84.3	熊本	84.7	鳥取	85.9	熊本	87.5	熊本	89.2
8	群馬	84.1	群馬	84.7	熊本	85.8	鳥取	87.4	群馬	88.9
9	宮城	84.1	鳥取	84.7	群馬	85.6	群馬	87.2	宮城	88.8
10	熊本	84.0	宮城	84.4	宮城	85.5	長野	86.9	山口	88.8
11	富山	83.8	長野	84.3	長野	85.4	宮城	86.9	鳥取	88.7
12	長野	83.8	佐賀	84.1	栃木	85.2	山口	86.8	佐賀	88.7
13	新潟	83.5	山口	84.0	新潟	85.1	新潟	86.8	栃木	88.6
14	山口	83.4	新潟	83.9	山口	85.1	佐賀	86.8	新潟	88.5
15	佐賀	83.4	栃木	83.8	佐賀	85.0	栃木	86.7	長野	88.4
16	福井	83.4	富山	83.6	富山	84.5	福島	86.1	秋田	88.3
17	栃木	83.0	北海道	83.4	福島	84.5	福井	86.0	愛媛	88.1
18	北海道	82.7	福井	83.3	静岡	84.4	長崎	86.0	福島	88.0
19	静岡	82.6	岡山	83.3	長崎	84.3	富山	86.0	福井	87.9
20	岡山	82.5	長崎	83.2	岡山	84.3	秋田	86.0	長崎	87.8
21	長崎	82.5	静岡	83.2	秋田	84.2	静岡	85.9	静岡	87.8
22	福島	82.4	福島	83.1	北海道	84.2	愛媛	85.9	富山	87.6
23	愛媛	82.3	秋田	83.0	福井	84.2	愛知	85.7	愛知	87.6
24	秋田	82.3	愛媛	83.0	愛媛	84.2	岡山	85.7	北海道	87.5
25	石川	82.2	福岡	82.8	愛知	84.1	北海道	85.7	岡山	87.5
26	埼玉	82.2	大分	82.7	埼玉	84.0	埼玉	85.7	埼玉	87.4
27	福岡	82.1	埼玉	82.7	福岡	83.9	大分	85.4	石川	87.2
28	大分	81.9	愛知	82.7	大分	83.8	福岡	85.4	福岡	87.2
29	三重	81.9	石川	82.4	千葉	83.7	千葉	85.3	大分	87.2
30	千葉	81.8	千葉	82.3	三重	83.6	三重	85.2	三重	87.1
31	愛知	81.8	三重	82.3	滋賀	83.5	石川	85.1	千葉	87.0
32	滋賀	81.8	滋賀	82.2	石川	83.5	滋賀	85.0	岐阜	86.8
33	青森	81.6	青森	82.0	青森	83.2	青森	84.8	青森	86.7
34	茨城	81.0	山梨	81.9	山梨	83.1	山梨	84.7	山梨	86.6
35	山梨	80.8	茨城	81.7	茨城	83.0	茨城	84.7	滋賀	86.5
36	兵庫	80.5	兵庫	81.0	岐阜	82.5	岐阜	84.3	茨城	86.5
37	岐阜	80.0	岐阜	81.0	兵庫	82.2	兵庫	83.8	兵庫	85.6
38	神奈川	79.6	神奈川	80.2	神奈川	81.6	和歌山	83.4	和歌山	85.4
39	和歌山	79.4	広島	80.1	広島	81.4	広島	83.2	広島	85.3
40	香川	79.3	和歌山	80.1	和歌山	81.4	神奈川	83.2	神奈川	85.1
41	広島	79.2	香川	80.0	大阪	81.0	香川	82.9	香川	85.0
42	京都	79.2	大阪	79.8	香川	80.8	大阪	82.9	大阪	84.8
43	大阪	79.1	京都	79.6	京都	80.8	京都	82.7	京都	84.6
44	奈良	78.8	高知	79.3	奈良	80.5	奈良	82.1	高知	83.9
45	高知	78.4	奈良	79.2	高知	80.3	高知	81.9	奈良	83.6
46	東京	77.7	東京	78.4	東京	79.9	東京	81.6	徳島	83.4
47	徳島	76.8	徳島	78.4	徳島	79.3	徳島	81.1	東京	83.3

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

※順位付けは、小数点以下四捨五入しない数値を使用

2. 分析対象

- 国保(一般分、退職分、組合分)・協会けんぽ(一般分)、後期高齢者医療の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて分析したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)
- DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを分析対象としている。
- 再審査分を除くレセプトを分析対象としている。
- 令和6年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用
- 今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない以下12の薬剤については対象外としている。(後期高齢者医療のデータも同様)
 - 19. その他の神経系及び感覚器官用医薬品、41. 細胞賦活用薬、
 - 49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、
 - 59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、
 - 64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、
 - 73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

【令和6年9月被保険者数】

- ・山梨県全体 790,489人 (山梨県HPより 令和6年9月1日現在)
- ・国保: 166,040人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和6年9月末現在)
- ・協会けんぽ: 243,120人 (被保険者数154,928人、被扶養者数88,192人)(協会けんぽHPより)
- ・後期: 141,896人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和6年9月末現在)

- 合計(国保+協会けんぽ) 409,160人 (県全体に対する割合 51.8%≒52%)
- 合計(国保+協会けんぽ+後期)551,056人 (県全体に対する割合 69.7%≒70%)

3. 算出方法

- $$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]}$$
で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは
$$[\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]$$
「切替薬剤数」とは
$$[\text{後発医薬品の数量}]$$
の事を示す。
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- 薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

4. 統計分析 (1)薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、83.3%であり、昨年度より2.2ポイント伸びており、国及び山梨県で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.1-4より

	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
使用割合(総数)	81.1%	83.3%	2.2

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別で見ると、使用割合が高い薬剤は人工透析用薬100.0%、アルカロイド系麻薬(天然麻薬)100.0%、歯科口腔用薬96.7%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は放射性医薬品0.0%、その他の個々の器官系用医薬品3.3%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)26.2%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (54/54)	100.0%	放射性医薬品 (0/1,608)	0.0%
アルカロイド系麻薬 (天然麻薬)(169/169)	100.0%	その他の個々の器官系用 医薬品(60/1,816)	3.3%
歯科口腔用薬 (1,997/2,065)	96.7%	診断用薬(体外診断用医薬品 を除く)(145/553)	26.2%

《昨年度との比較》

○昨年度から最も伸びたのは、人工透析用薬であり、62.4ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.1-4より

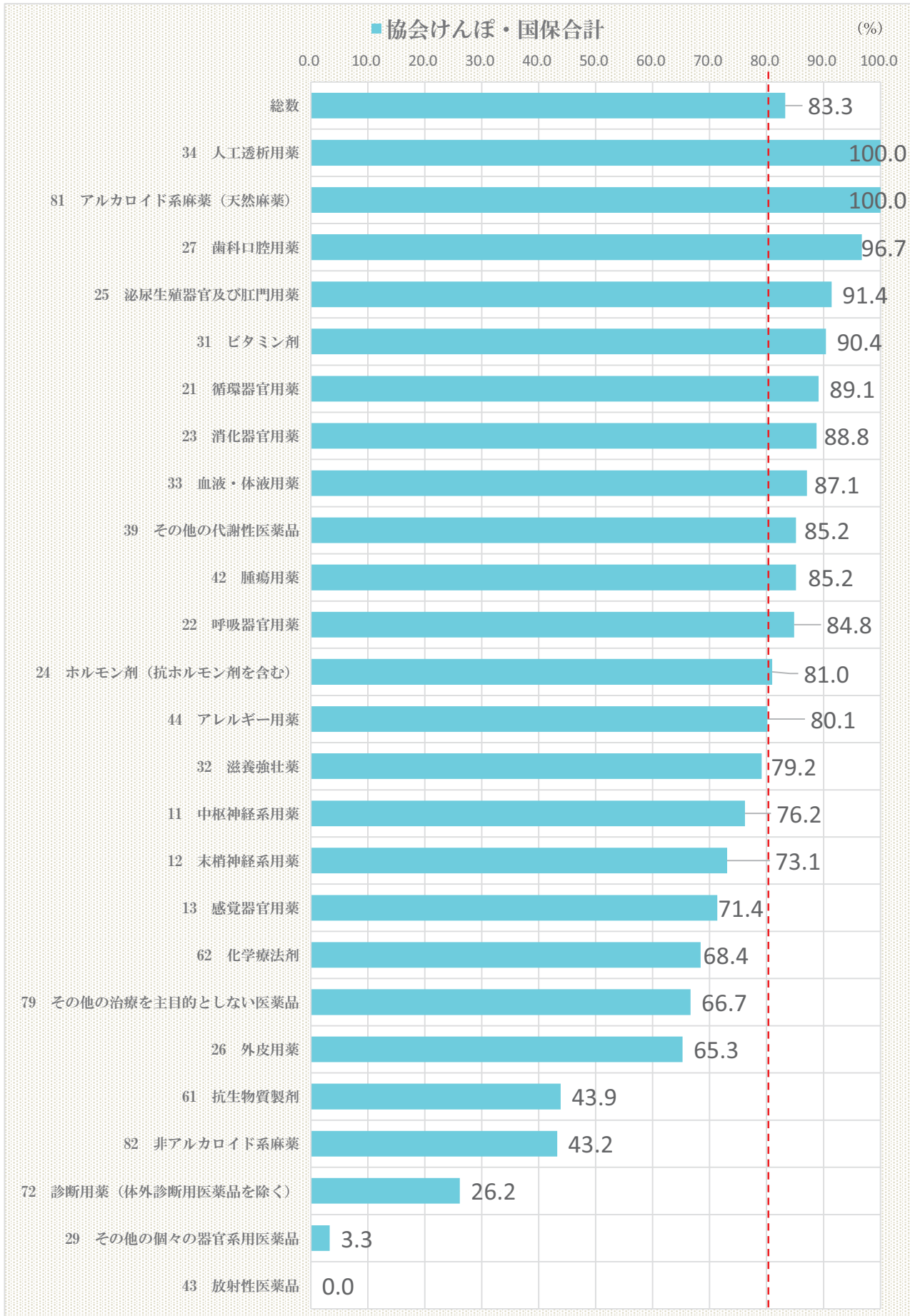
薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
34 人工透析用薬	37.6%	100.0%	62.4
79 その他の治療を主目的 としない医薬品	8.5%	66.7%	58.2
81 アルカロイド系麻薬 (天然麻薬)	58.2%	100.0%	41.8

《ジェネリック医薬品の供給不足》

○後発薬メーカーの品質不正問題を発端とし、医療機関でジェネリック医薬品が品薄状態となっている。※令和7年1月時点で3,339品目(全体の20%)が限定出荷・供給停止

薬効分類別の使用割合

資料No.1-1



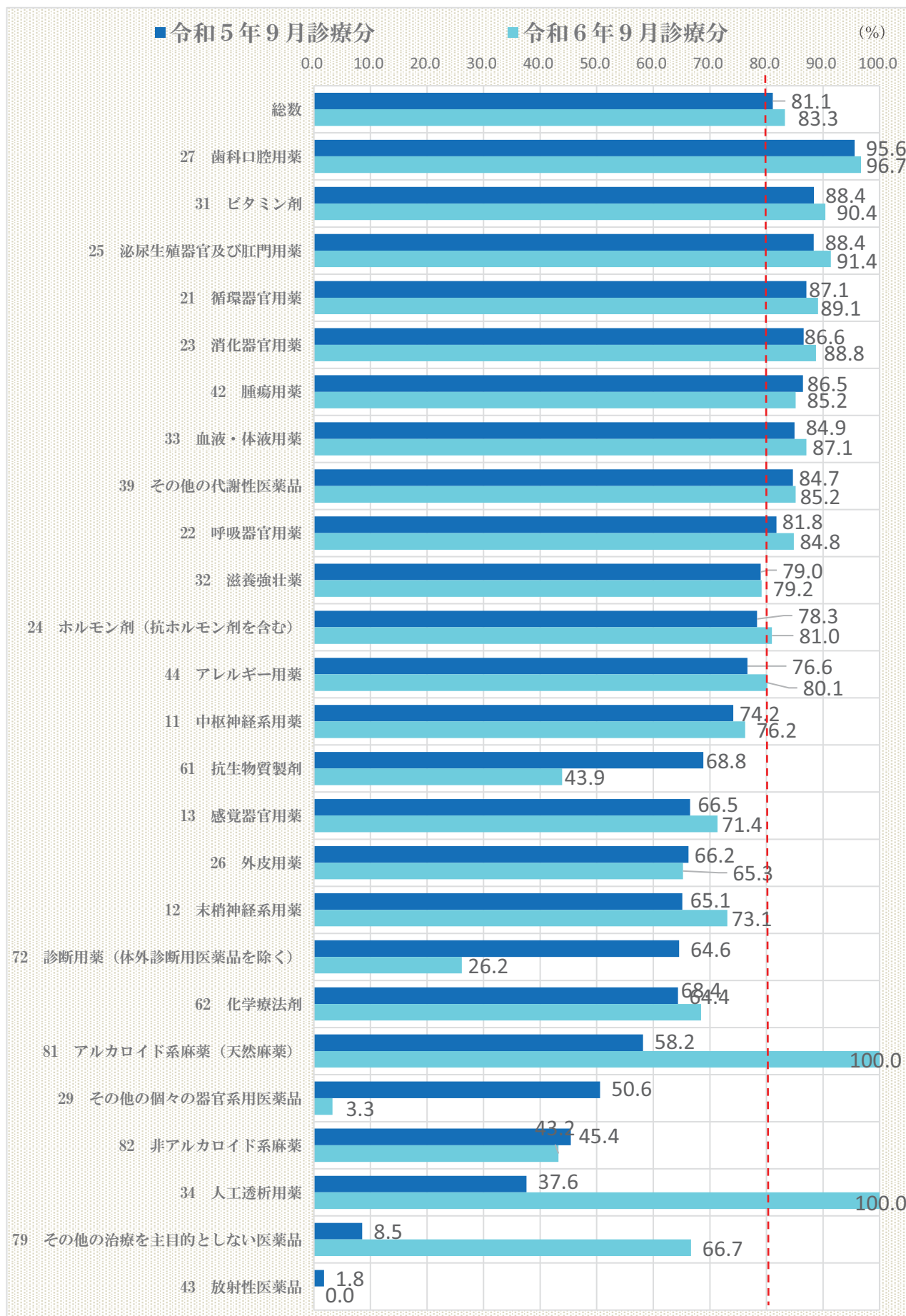
薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	83.3	21,376,905	17,799,432
34 人工透析用薬	100.0	54	54
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	100.0	169	169
27 歯科口腔用薬	96.7	2,065	1,997
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	91.4	270,706	247,442
31 ビタミン剤	90.4	739,349	668,499
21 循環器官用薬	89.1	5,693,050	5,074,940
23 消化器官用薬	88.8	2,782,883	2,470,607
33 血液・体液用薬	87.1	1,615,024	1,406,273
39 その他の代謝性医薬品	85.2	1,505,060	1,281,986
42 腫瘍用薬	85.2	81,720	69,595
22 呼吸器官用薬	84.8	1,097,655	931,294
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	81.0	229,282	185,670
44 アレルギー用薬	80.1	1,358,247	1,088,488
32 滋養強壯薬	79.2	137,508	108,838
11 中枢神経系用薬	76.2	3,802,860	2,898,759
12 末梢神経系用薬	73.1	234,032	171,007
13 感覚器官用薬	71.4	277,819	198,262
62 化学療法剤	68.4	95,054	65,053
79 その他の治療を主目的としない医薬品	66.7	3	2
26 外皮用薬	65.3	1,374,900	897,209
61 抗生物質製剤	43.9	70,053	30,733
82 非アルカロイド系麻薬	43.2	5,436	2,351
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	26.2	553	145
29 その他の個々の器官系用医薬品	3.3	1,816	60
43 放射性医薬品	0.0	1,608	0

薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和5年9月診療分			令和6年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	81.1	23,221,699	18,835,084	83.3	21,376,905	17,799,432
27 歯科口腔用薬	95.6	1,682	1,608	96.7	2,065	1,997
31 ビタミン剤	88.4	752,774	665,543	90.4	739,349	668,499
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	88.4	287,701	254,213	91.4	270,706	247,442
21 循環器官用薬	87.1	6,017,136	5,238,148	89.1	5,693,050	5,074,940
23 消化器官用薬	86.6	2,955,593	2,559,269	88.8	2,782,883	2,470,607
42 腫瘍用薬	86.5	82,220	71,095	85.2	81,720	69,595
33 血液・体液用薬	84.9	1,652,419	1,403,686	87.1	1,615,024	1,406,273
39 その他の代謝性医薬品	84.7	2,020,405	1,710,663	85.2	1,505,060	1,281,986
22 呼吸器官用薬	81.8	1,098,615	898,318	84.8	1,097,655	931,294
32 滋養強壮薬	79.0	125,655	99,261	79.2	137,508	108,838
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	78.3	205,321	160,827	81.0	229,282	185,670
44 アレルギー用薬	76.6	1,328,809	1,018,375	80.1	1,358,247	1,088,488
11 中枢神経系用薬	74.2	4,075,933	3,022,474	76.2	3,802,860	2,898,759
61 抗生物質製剤	68.8	251,672	173,233	43.9	70,053	30,733
13 感覚器官用薬	66.5	294,588	195,878	71.4	277,819	198,262
26 外皮用薬	66.2	1,664,462	1,102,274	65.3	1,374,900	897,209
12 末梢神経系用薬	65.1	268,589	174,985	73.1	234,032	171,007
72 診断用薬(体外診断用医薬品)	64.6	3,284	2,120	26.2	553	145
62 化学療法剤	64.4	116,221	74,797	68.4	95,054	65,053
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	58.2	6,701	3,900	100.0	169	169
29 その他の個々の器官系用医薬品	50.6	3196	1617	3.3	1816	60
82 非アルカロイド系麻薬	45.4	5,876	2,670	43.2	5,436	2,351
34 人工透析用薬	37.6	141	53	100.0	54	54
79 その他の治療を主目的としない医薬品	8.5	480	41	66.7	3	2
43 放射性医薬品	1.8	2,225	40	0.0	1,608	0

4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

《使用割合が山梨県の目標値以下の年齢階級の状況》

- 協会けんぽ、国保分の合計を年代別に見た場合、5歳から19歳までの若い世代の使用割合が低い状況であり、この年代においては、80%未満となっている。
- 具体的には、5歳から9歳が78.5%、10歳から14歳が77.5%、15歳から19歳が76.4%という状況である。

《使用割合が高い年齢階級の状況》

- 年齢別に見ると20歳以上において使用割合が80%を上回る状況にあり、その中でも最も高い年齢階級が65歳から69歳であり、使用割合は84.8%である。

《若い世代の使用割合の低い要因》

- 5歳から19歳の使用割合が低い状況は、保護者がジェネリック医薬品の有効性や安全性に不安を抱いていたり、県内で多くの市町村において18歳まで窓口無料化が実施されていることなどから、ジェネリック医薬品へ変更しようとする動機が働かず、使いなれた薬を希望することが要因の1つと考えられる。

《昨年度との比較》

- 昨年度と比較すると、全ての年齢階級共に使用割合は伸びている。
- 0歳から4歳の年齢階級は、5.8ポイントの最も高い伸びとなっている。
- 使用割合が低い5歳から19歳の年齢階級において、5歳から9歳、10歳から14歳、の年齢階級の伸びは、それぞれ5.4ポイント、2.6ポイントであり、着実に伸びている状況である。

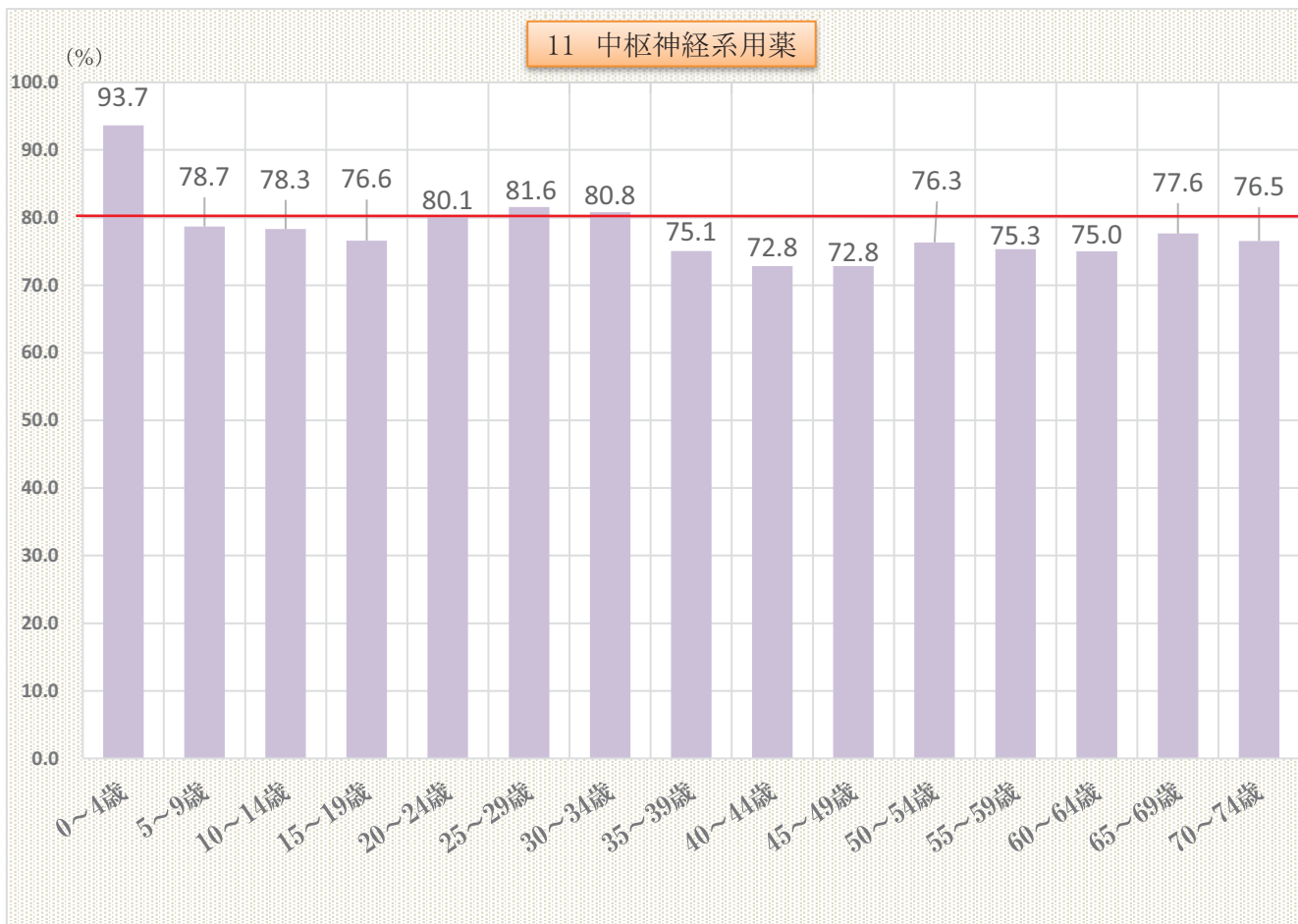
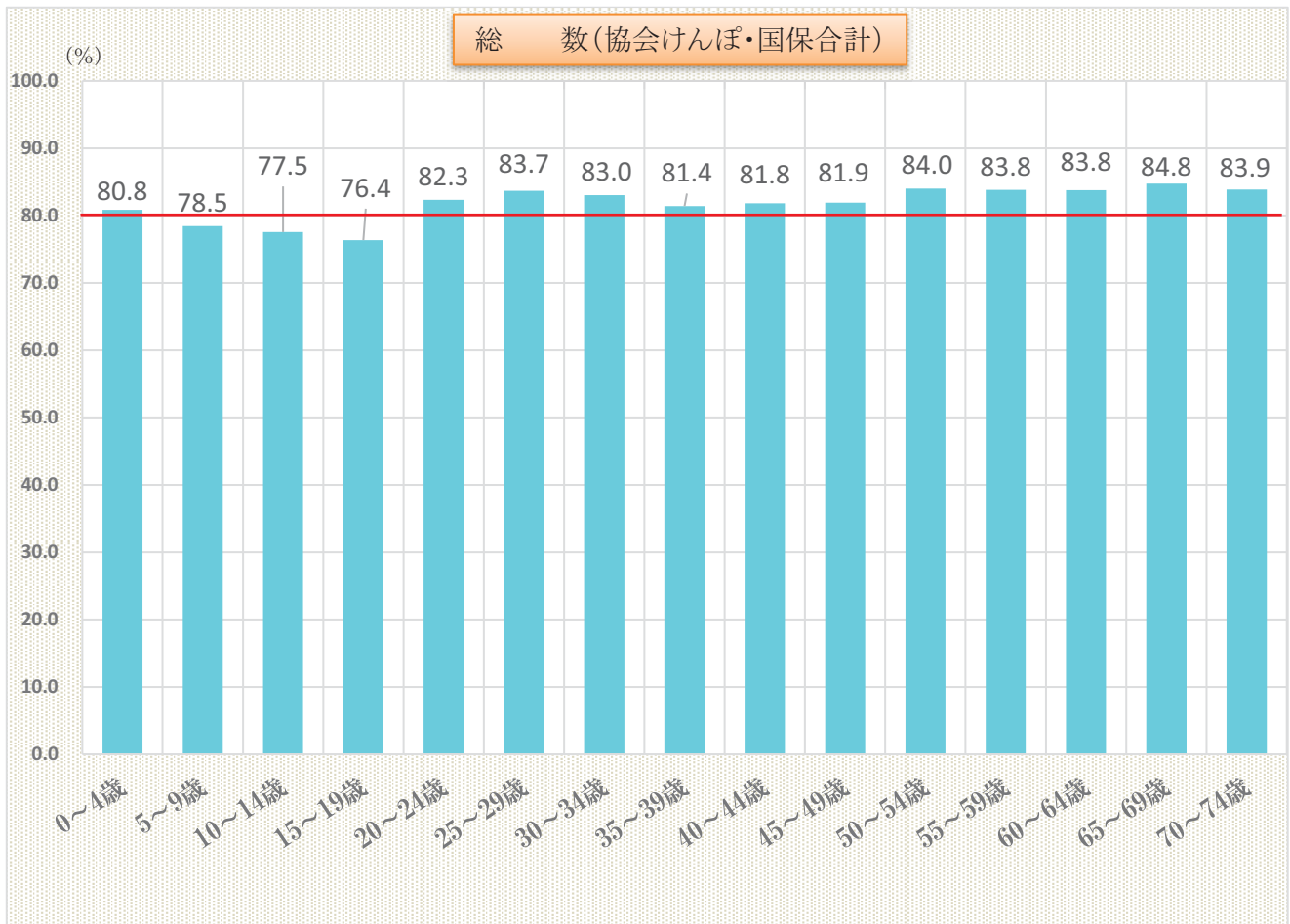
【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	75.0	80.8	5.8
5歳から9歳	73.1	78.5	5.4
10歳から14歳	74.9	77.5	2.6
15歳から19歳	75.6	76.4	0.8
20歳から24歳	81.5	82.3	0.8
25歳から29歳	80.9	83.7	2.8
30歳から34歳	79.9	83.0	3.1
35歳から39歳	79.2	81.4	2.2
40歳から44歳	80.0	81.8	1.8
45歳から49歳	80.5	81.9	1.4
50歳から54歳	81.8	84.0	2.2
55歳から59歳	82.0	83.8	1.8
60歳から64歳	82.3	83.8	1.5
65歳から69歳	82.9	84.8	1.9
70歳から74歳	81.4	83.9	2.5

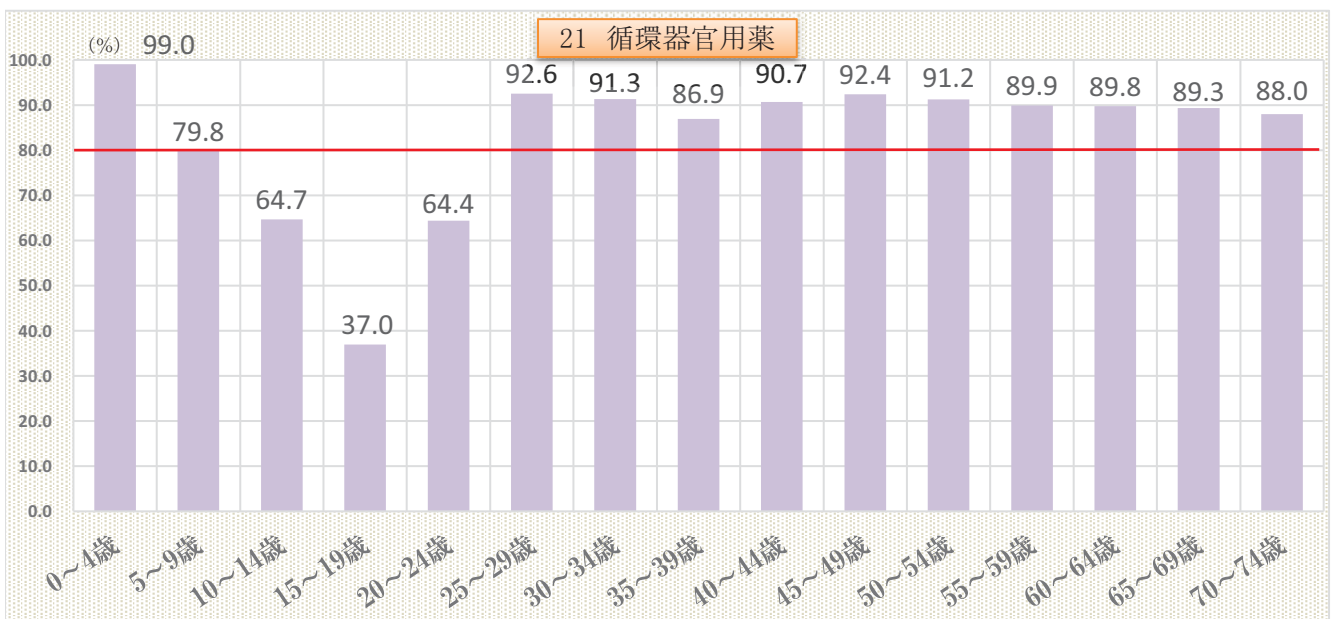
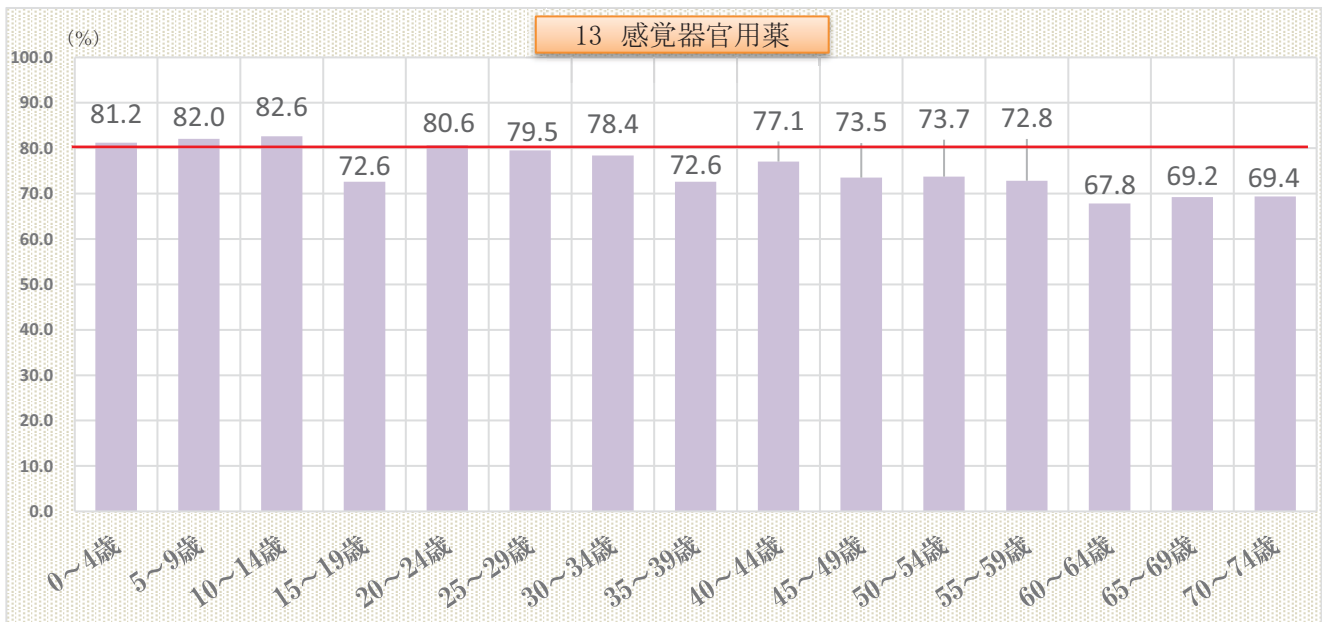
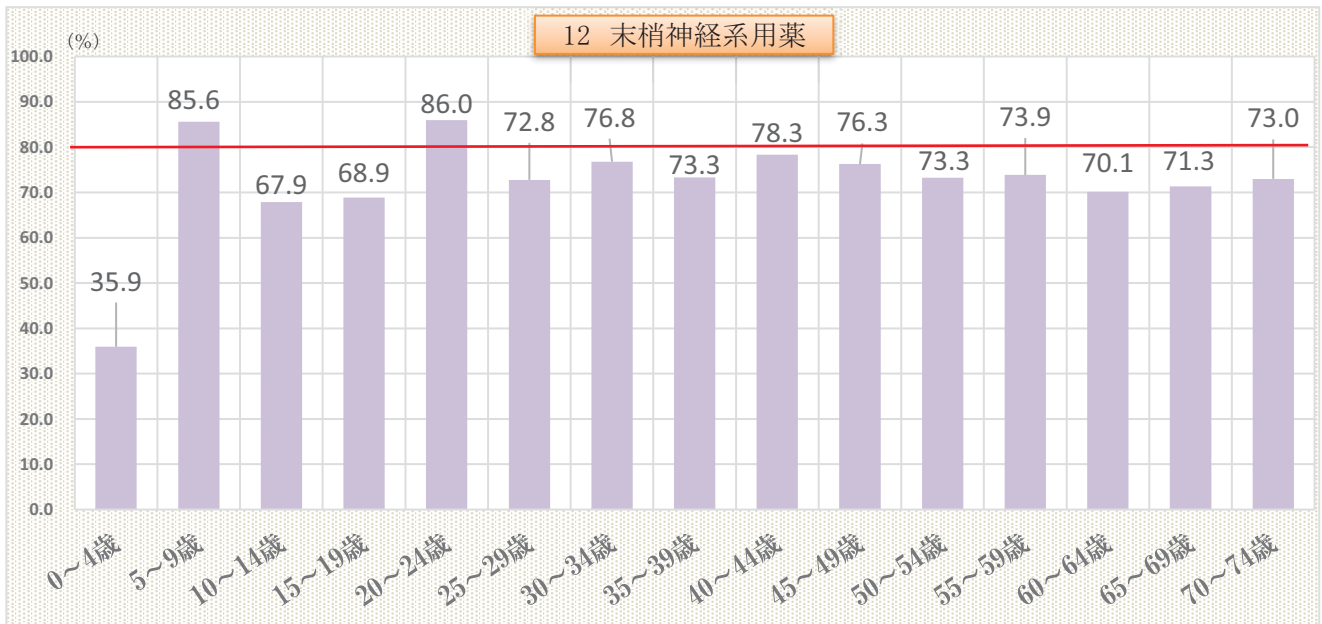
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



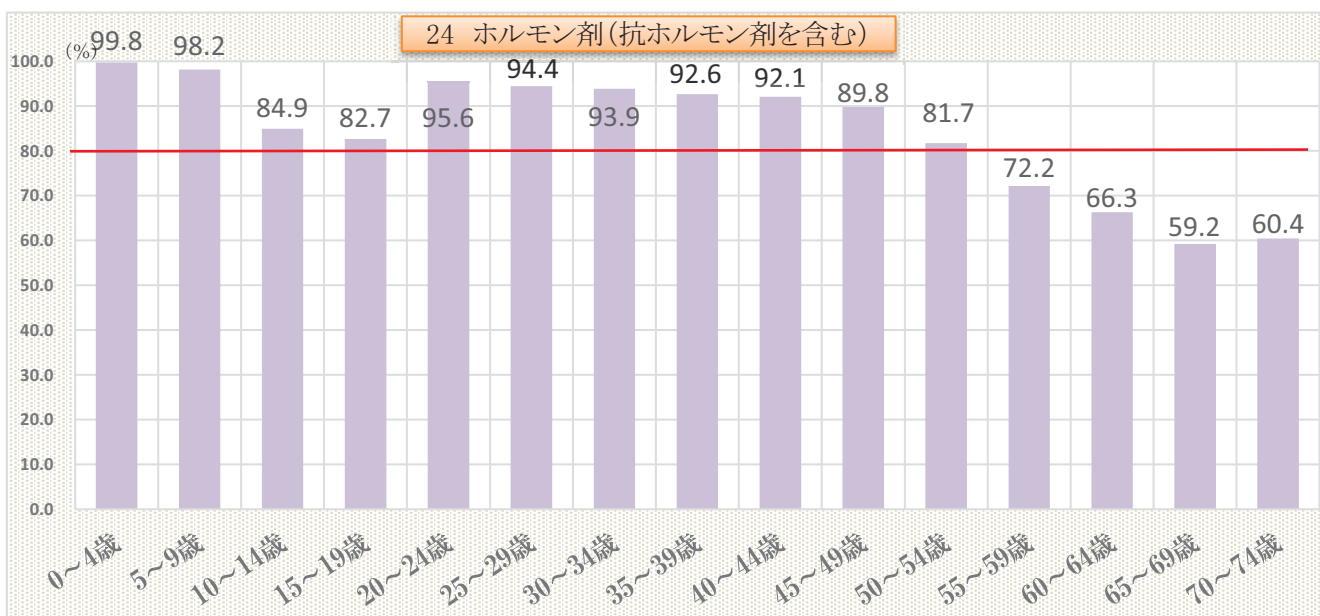
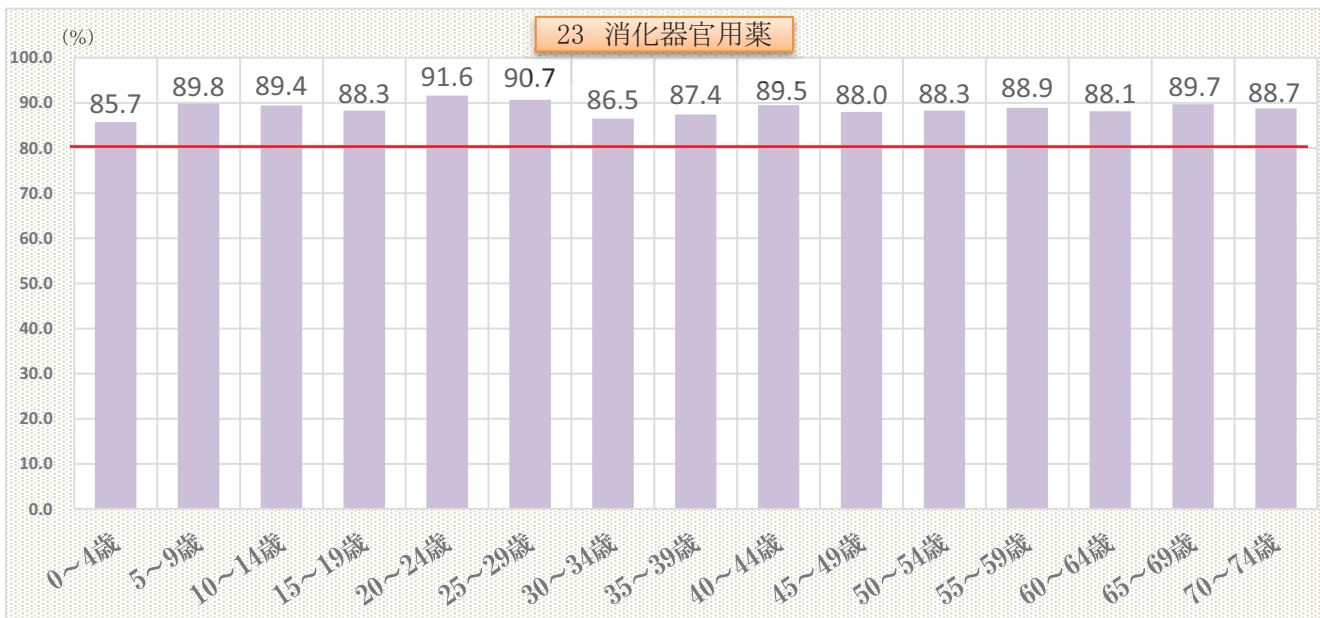
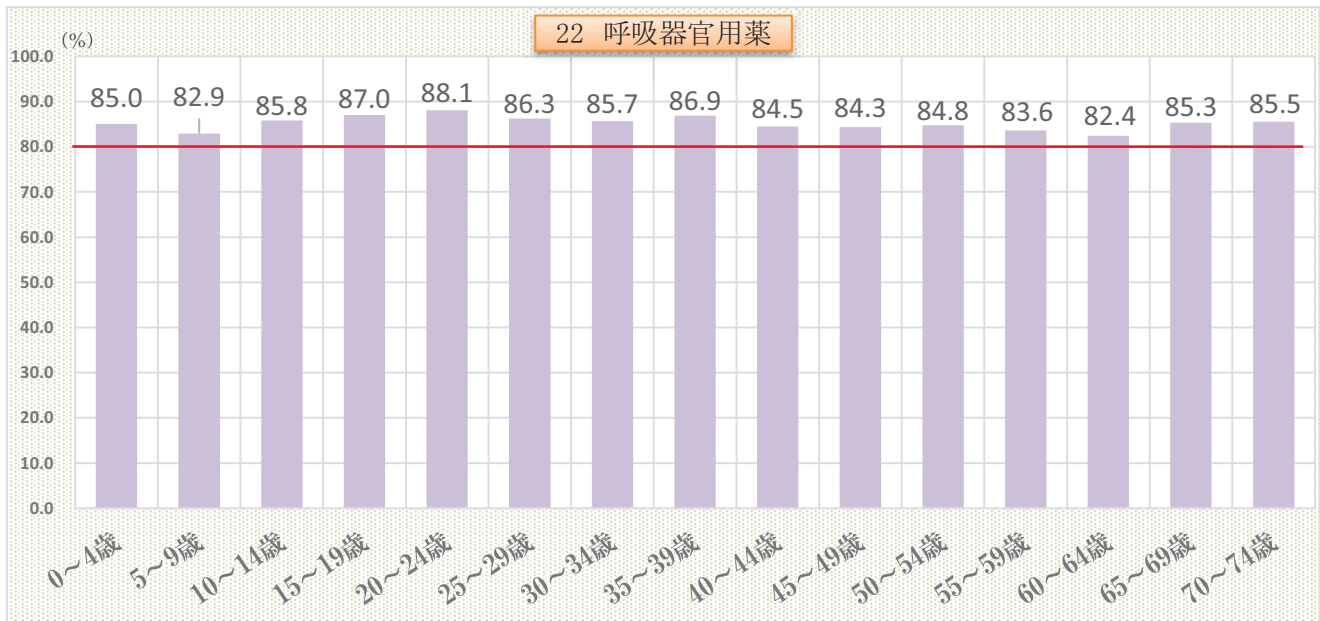
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



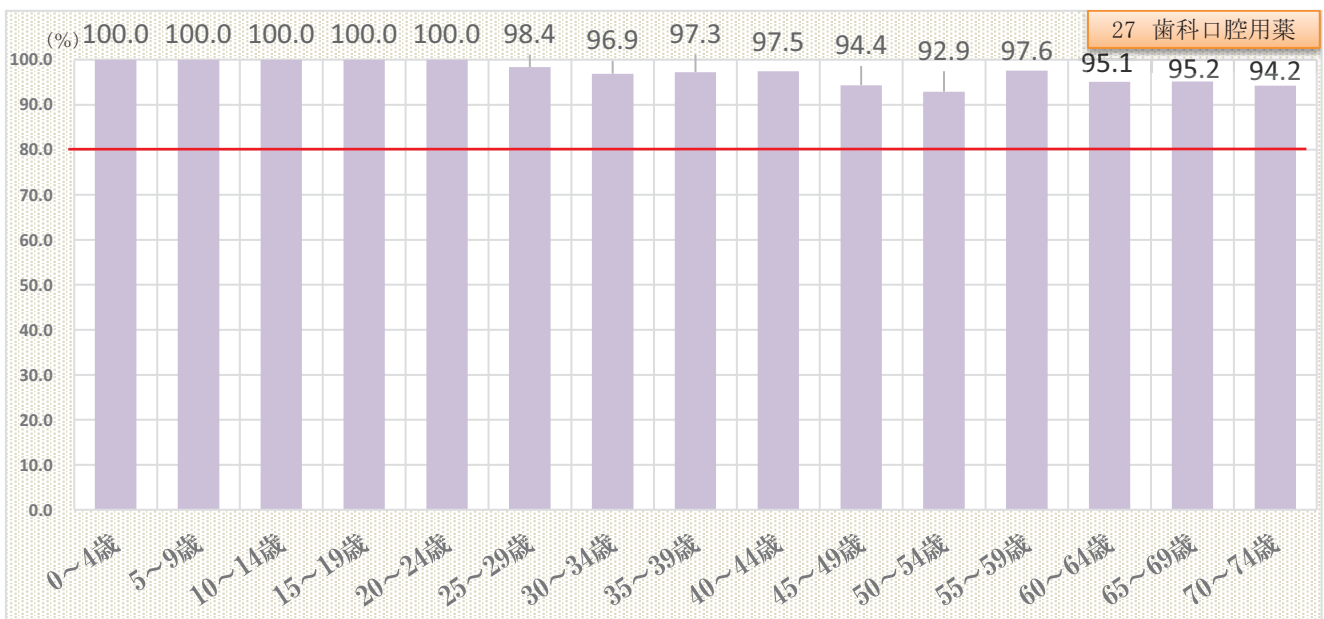
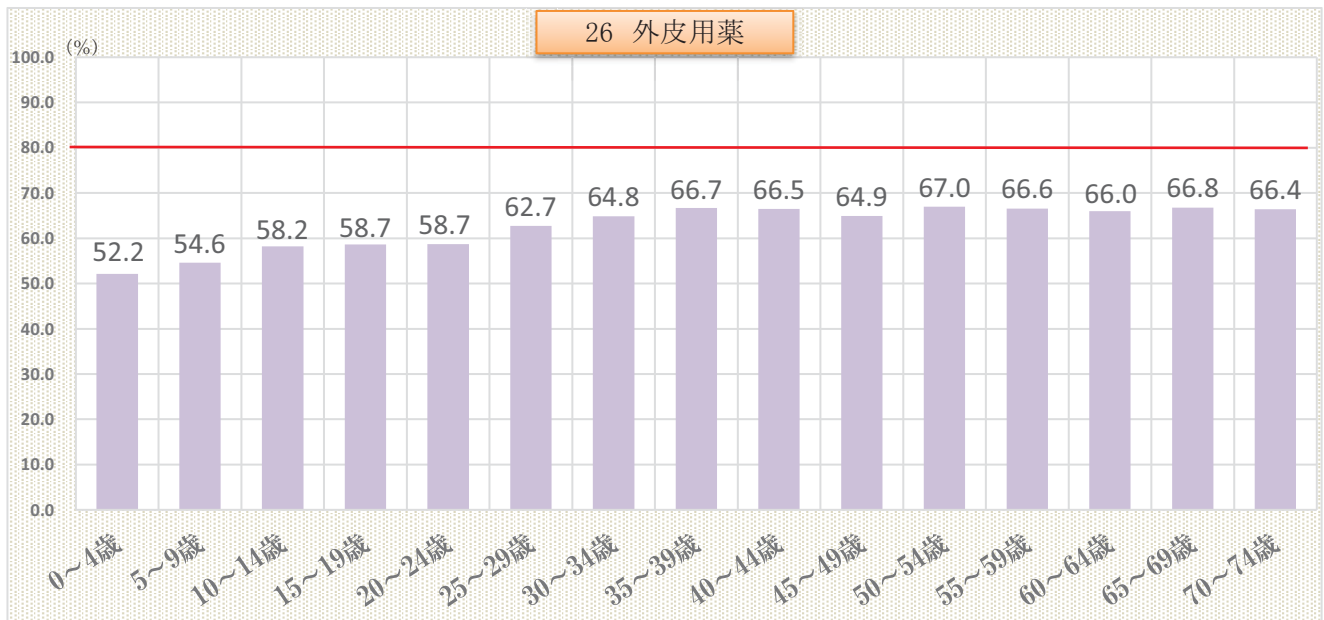
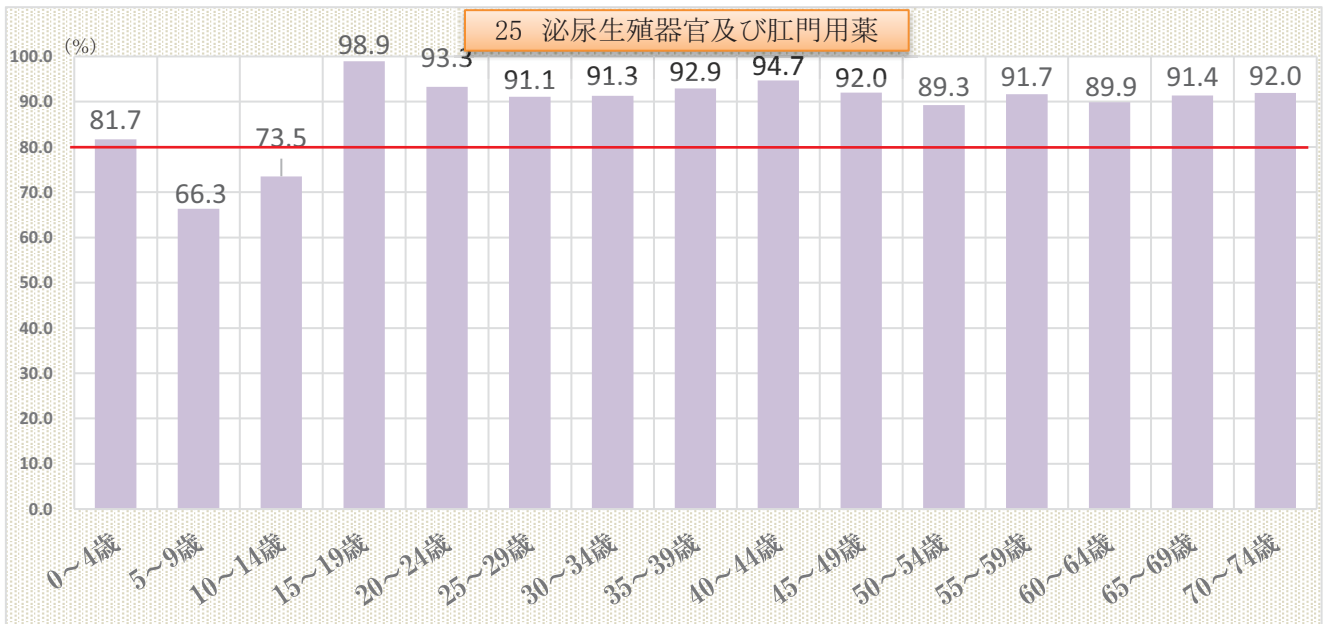
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



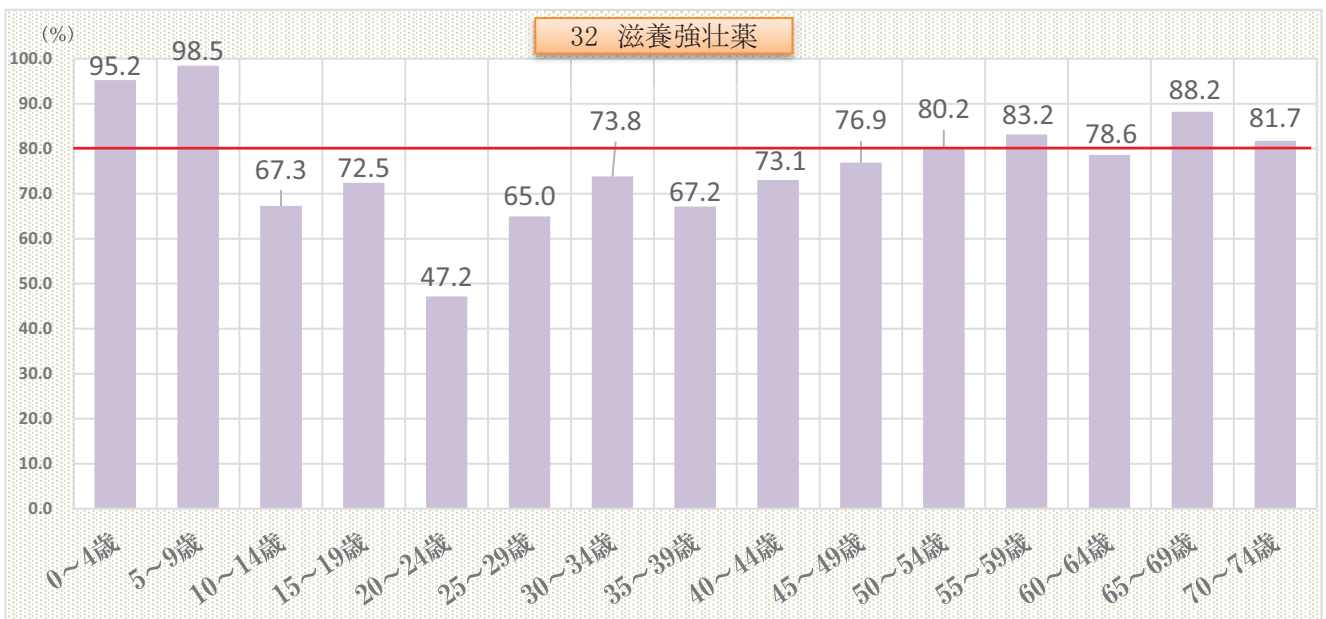
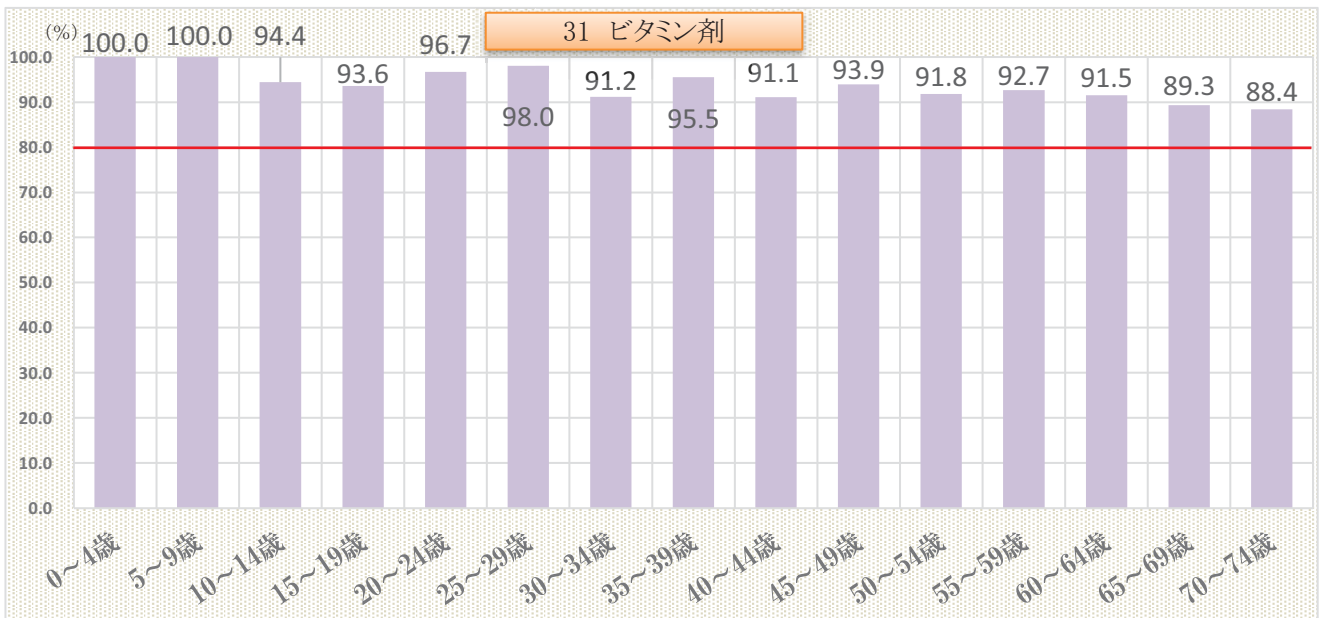
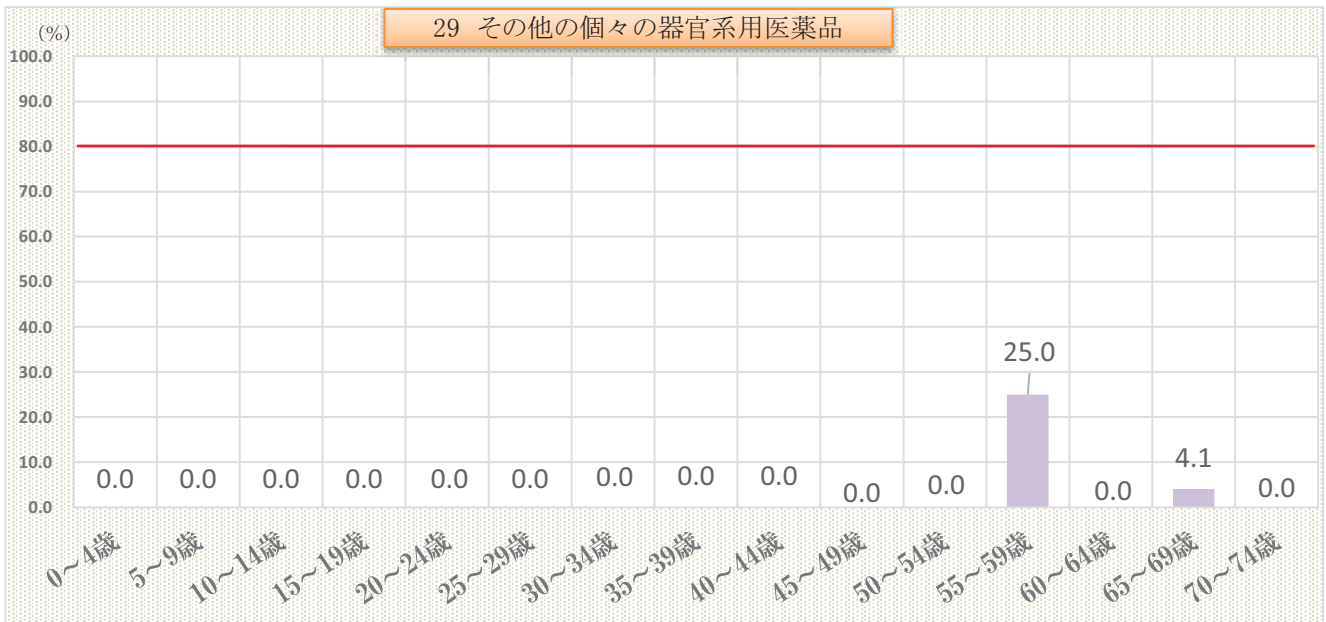
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



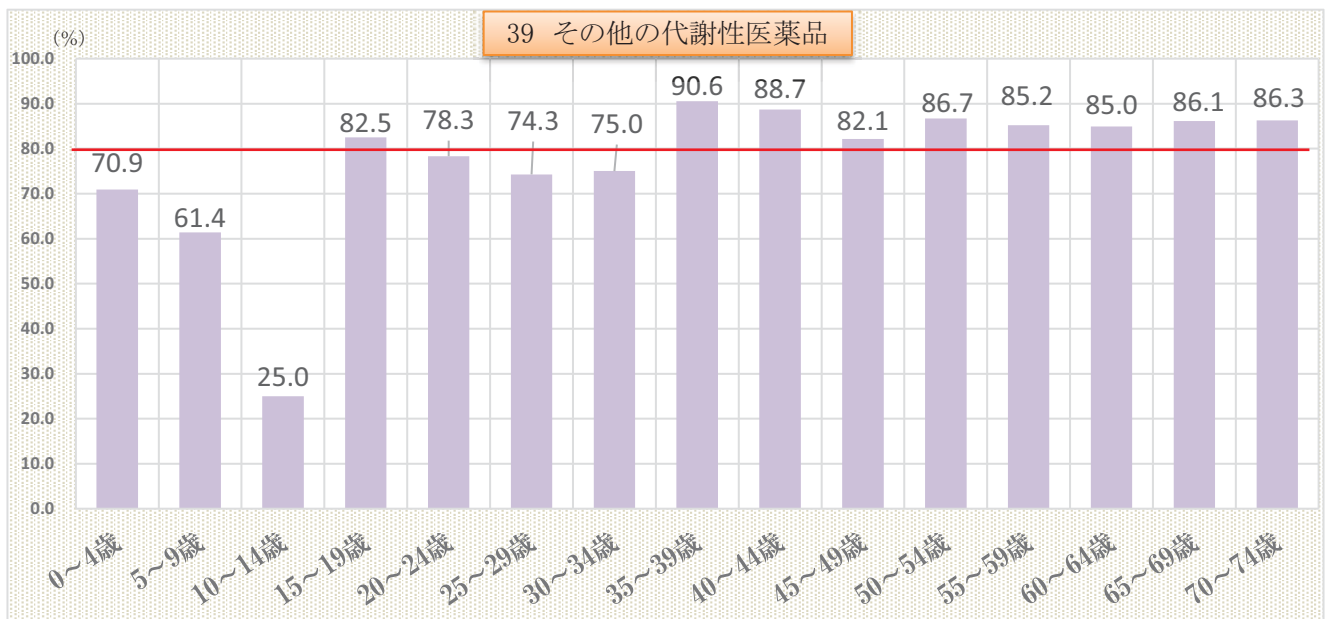
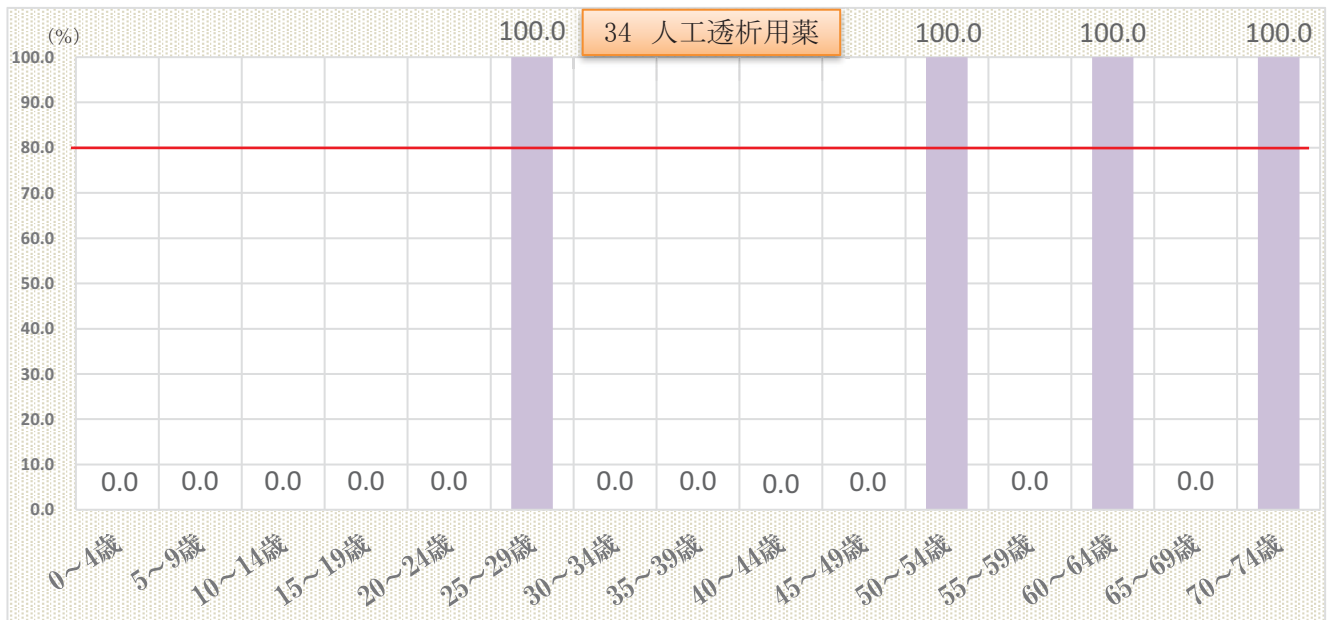
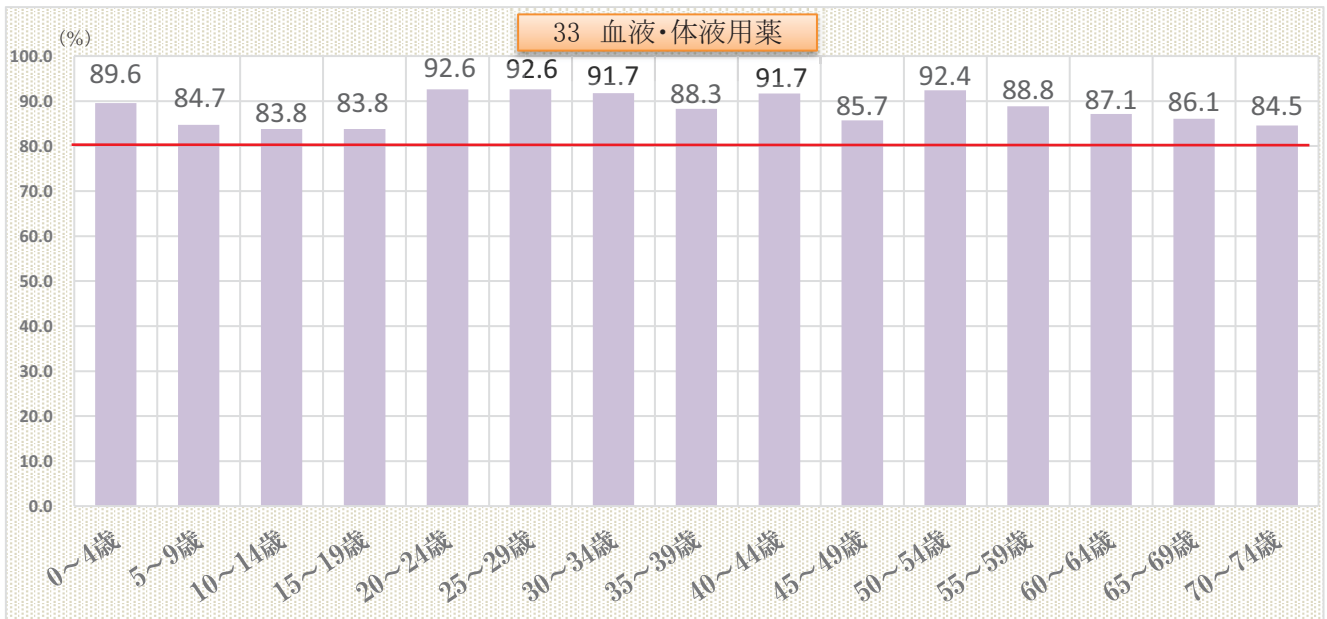
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



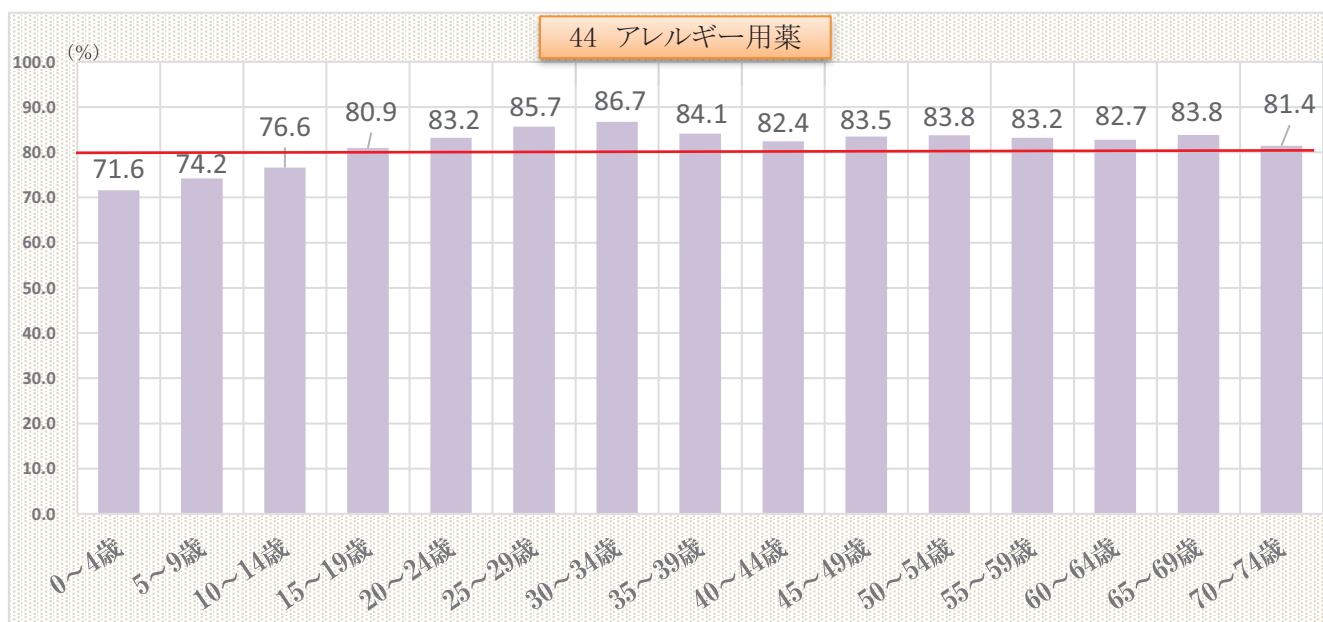
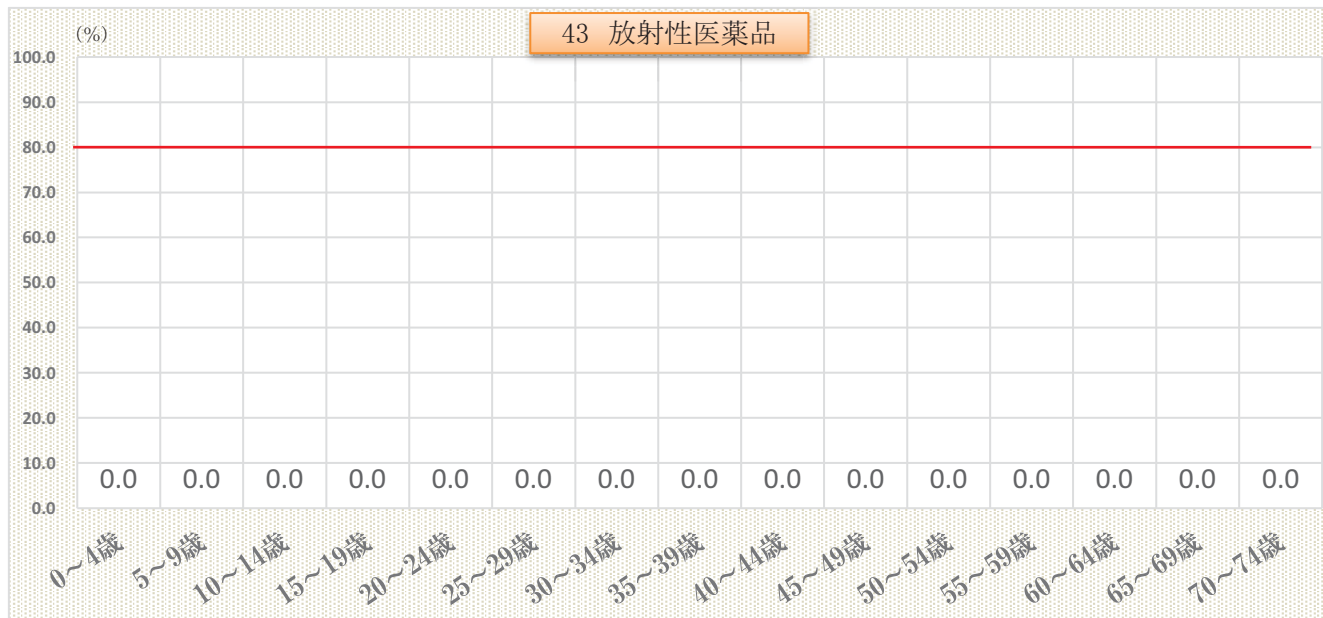
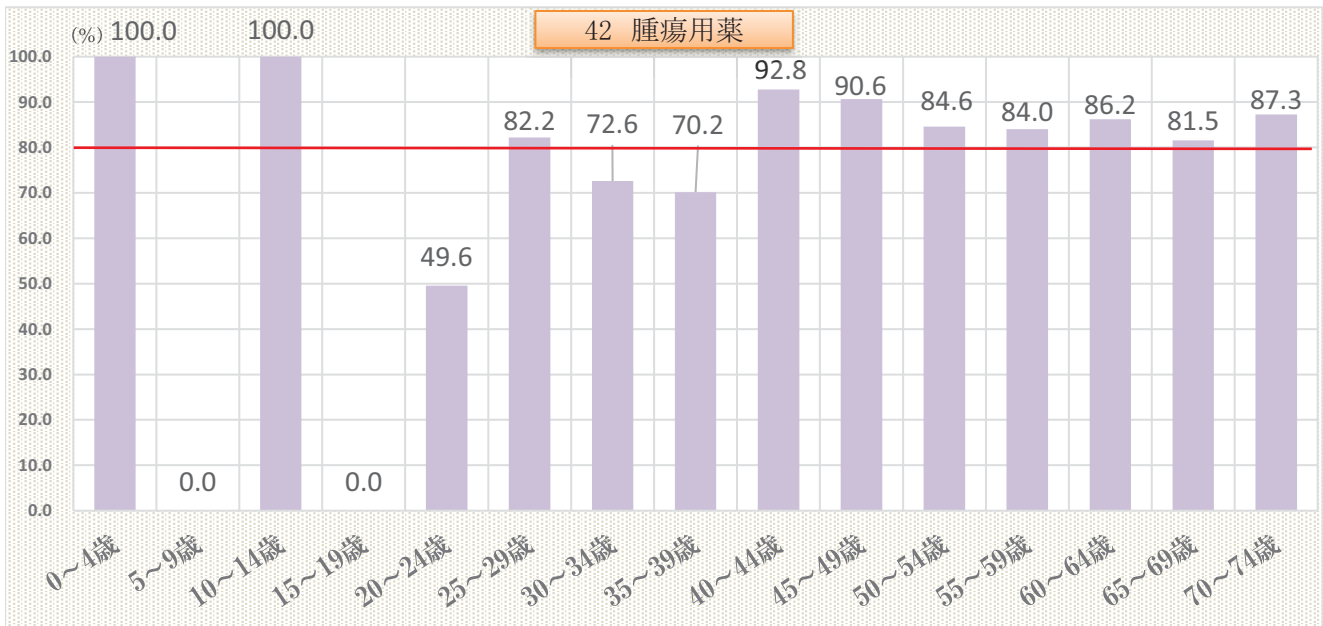
年齢階級別の使用割合

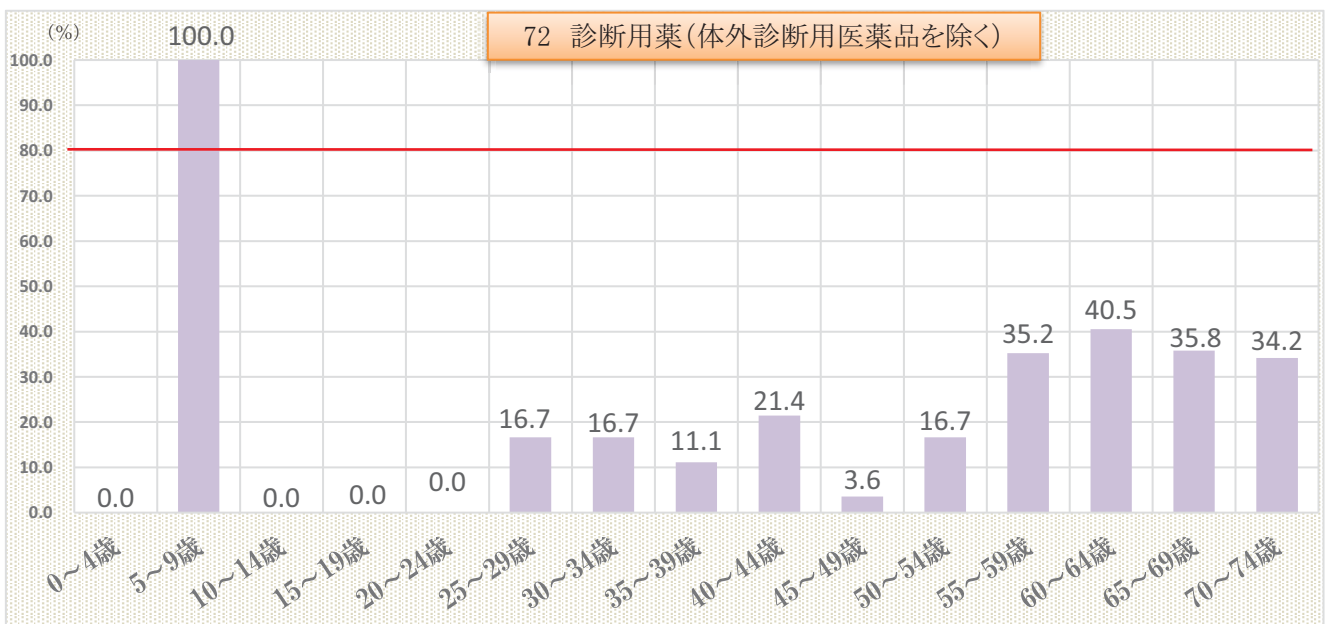
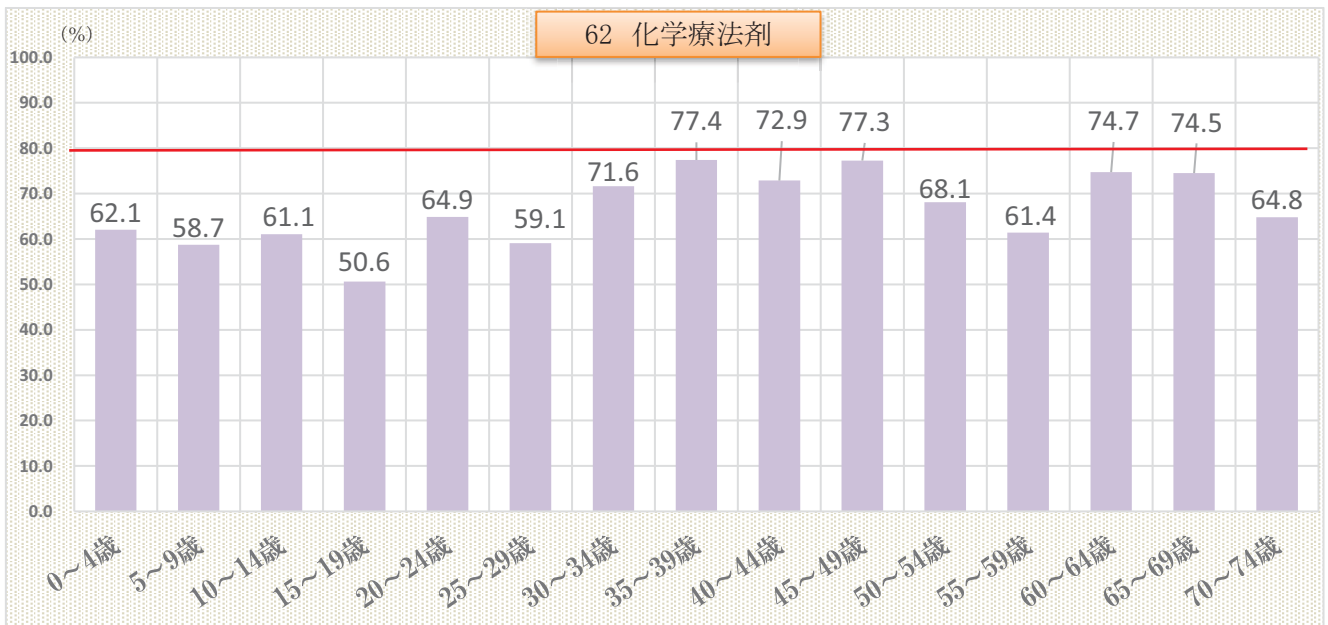
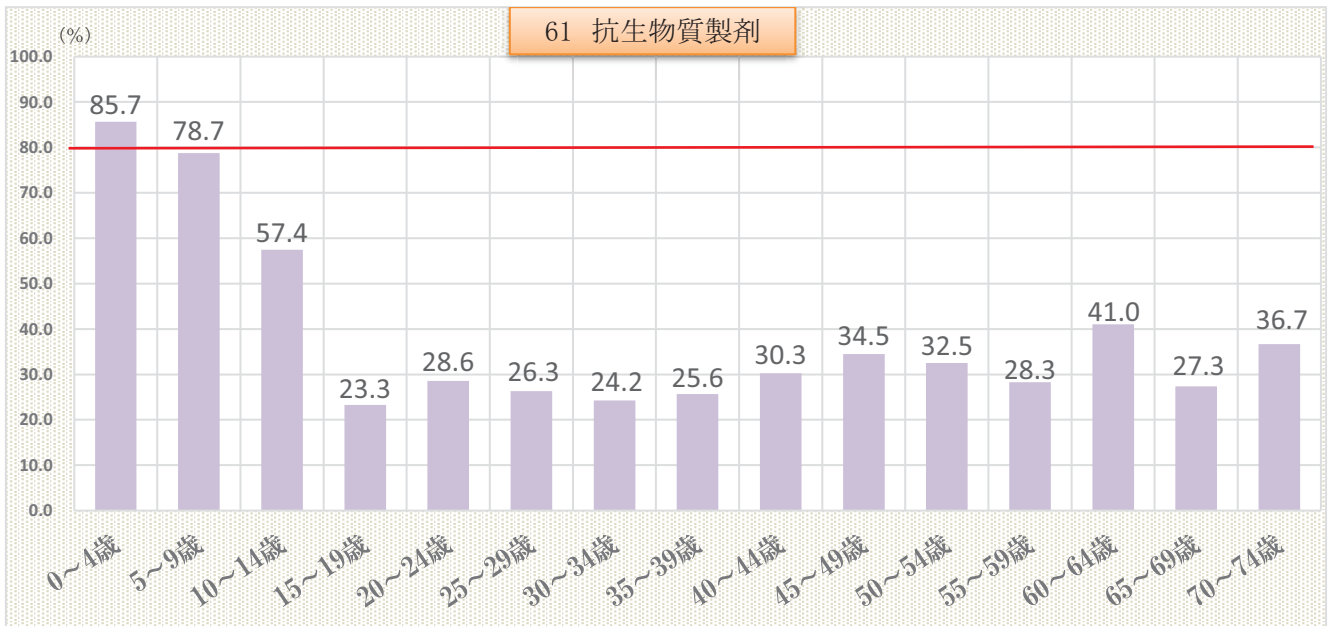
資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

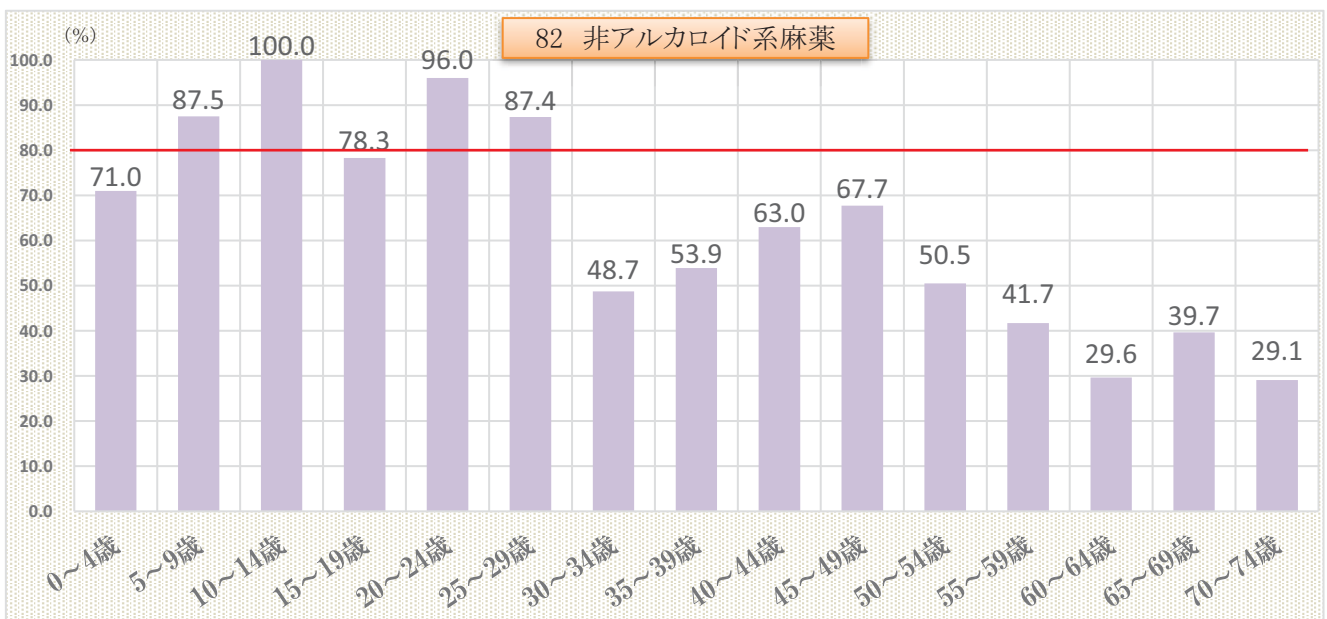
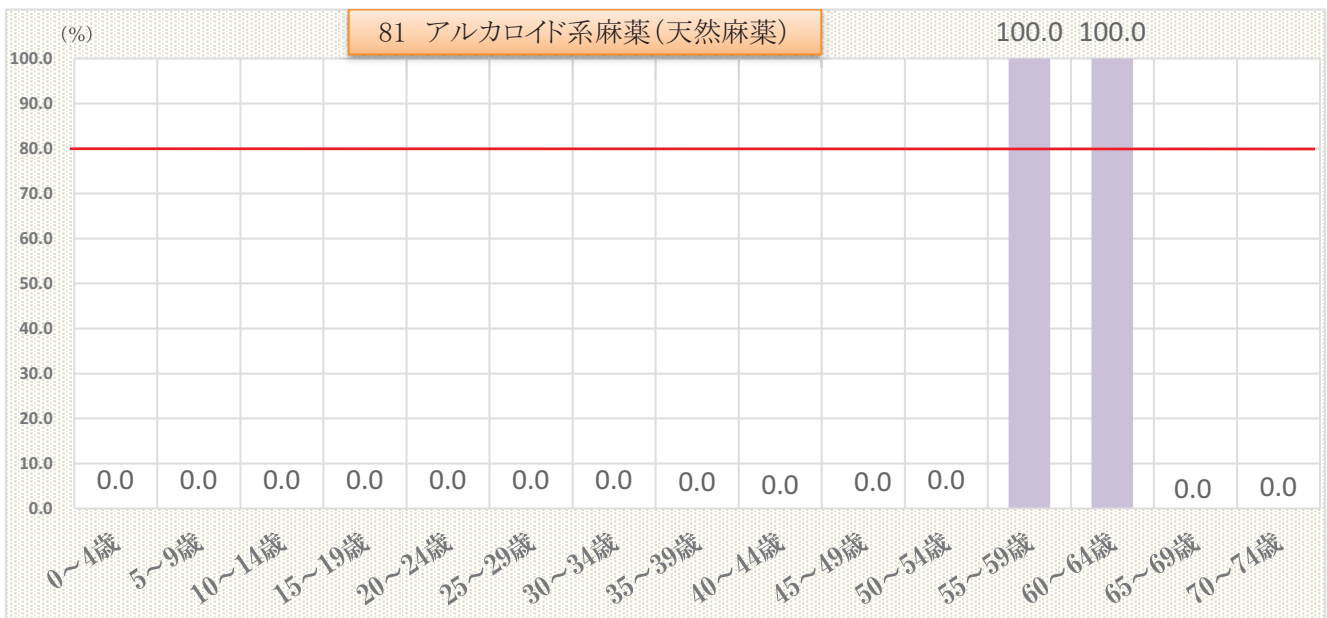
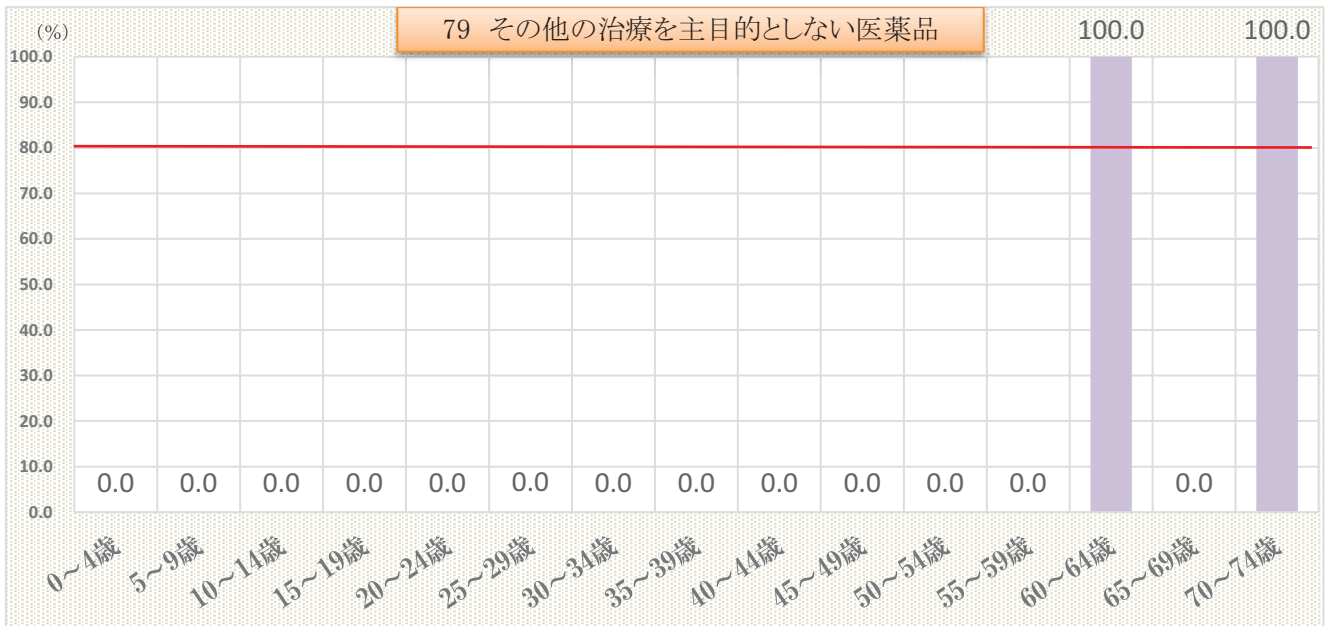
資料No.2-1





年齢階級別の使用割合

資料No.2-1

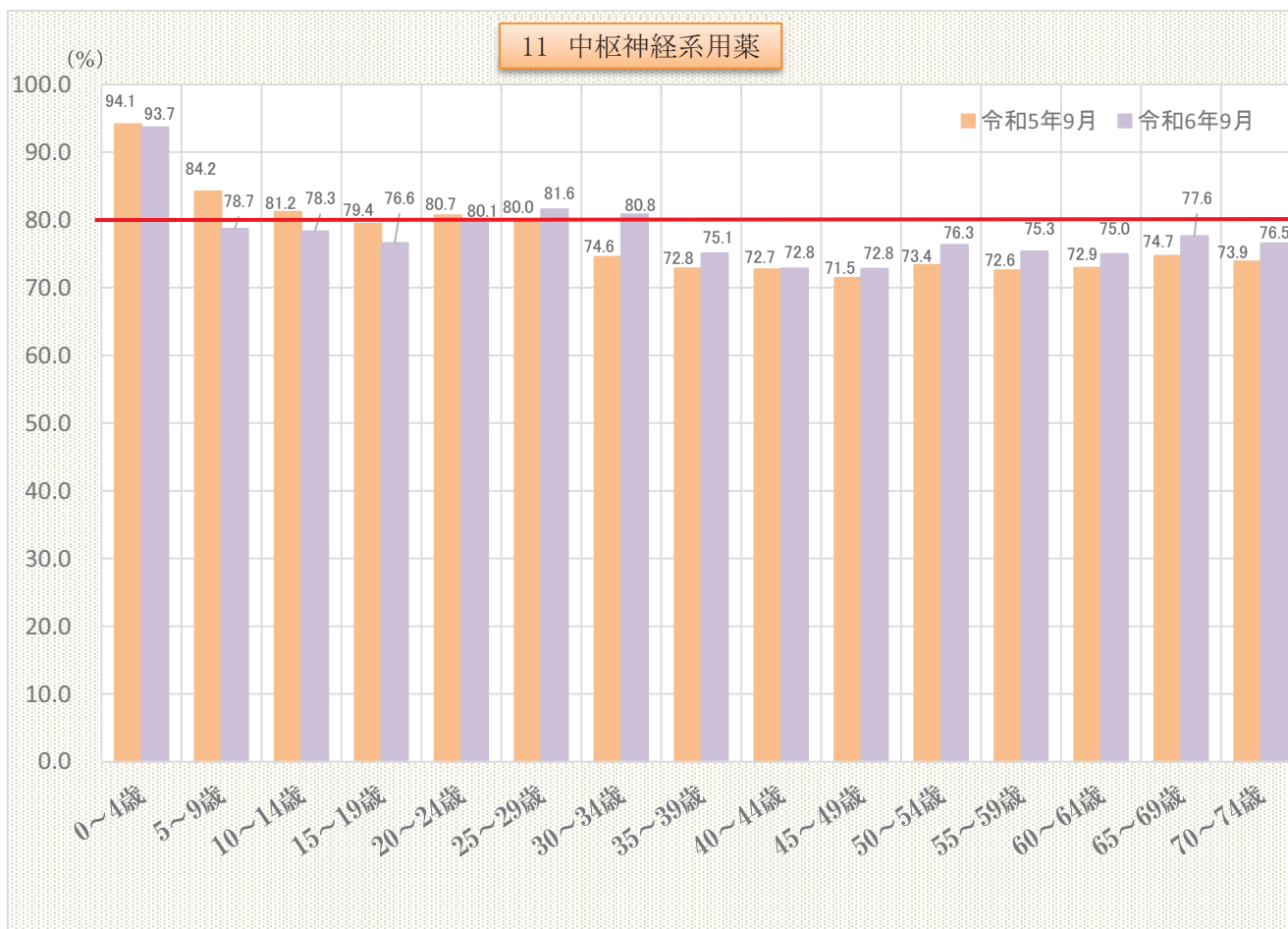
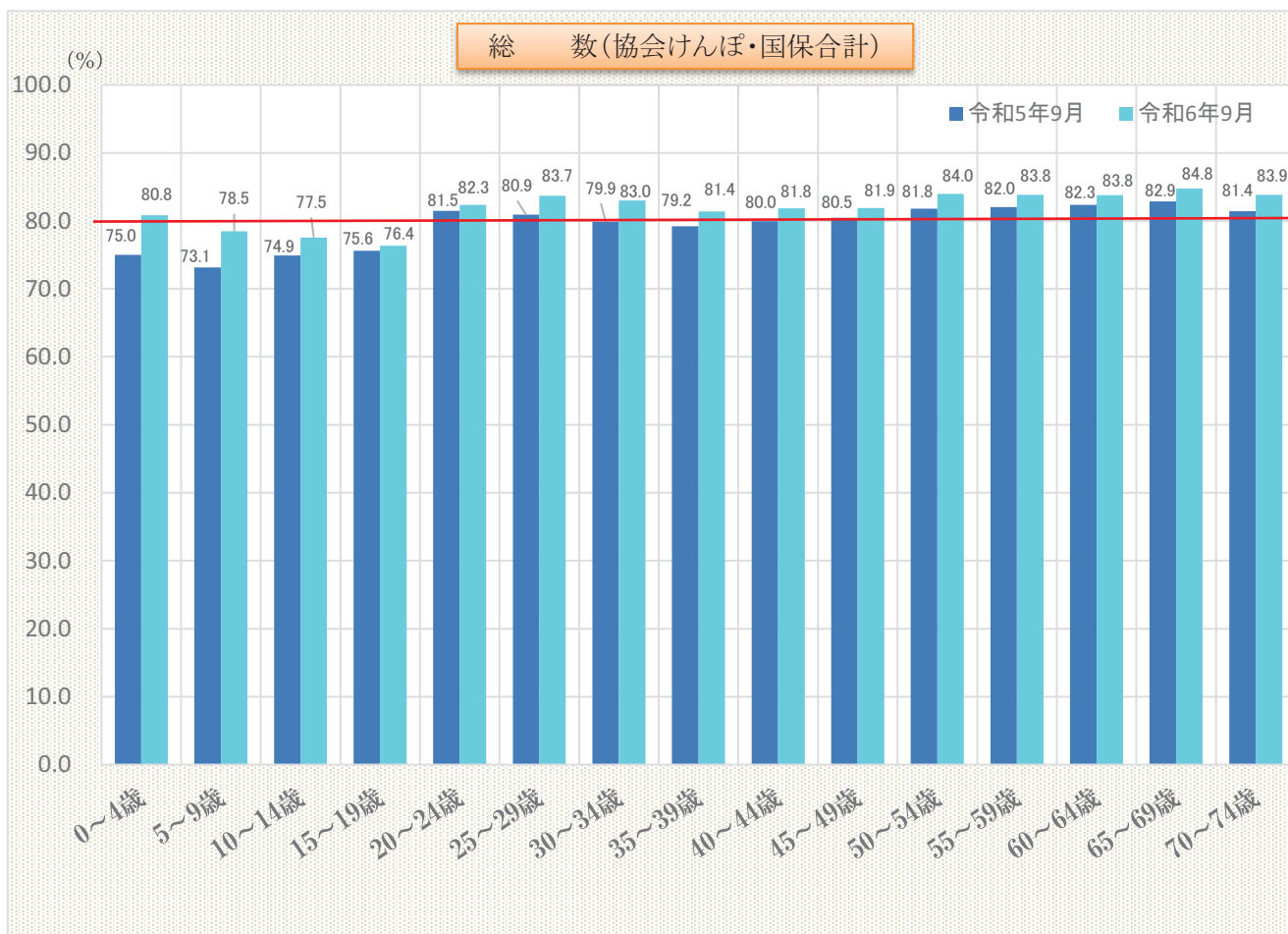


年齢階級別の使用割合

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
総数	80.8	78.5	77.5	76.4	82.3	83.7	83.0	81.4	81.8	81.9	84.0	83.8	83.8	84.8	83.9
11 中枢神経系用薬	93.7	78.7	78.3	76.6	80.1	81.6	80.8	75.1	72.8	72.8	76.3	75.3	75.0	77.6	76.5
12 末梢神経系用薬	35.9	85.6	67.9	68.9	86.0	72.8	76.8	73.3	78.3	76.3	73.3	73.9	70.1	71.3	73.0
13 感覚器用薬	81.2	82.0	82.6	72.6	80.6	79.5	78.4	72.6	77.1	73.5	73.7	72.8	67.8	69.2	69.4
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	99.0	79.8	64.7	37.0	64.4	92.6	91.3	86.9	90.7	92.4	91.2	89.9	89.8	89.3	88.0
22 呼吸器用薬	85.0	82.9	85.8	87.0	88.1	86.3	85.7	86.9	84.5	84.3	84.8	83.6	82.4	85.3	85.5
23 消化器用薬	85.7	89.8	89.4	88.3	91.6	90.7	86.5	87.4	89.5	88.0	88.3	88.9	88.1	89.7	88.7
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	99.8	98.2	84.9	82.7	95.6	94.4	93.9	92.6	92.1	89.8	81.7	72.2	66.3	59.2	60.4
25 泌尿生殖器用及び肛門用薬	81.7	66.3	73.5	98.9	93.3	91.1	91.3	92.9	94.7	92.0	89.3	91.7	89.9	91.4	92.0
26 外皮用薬	52.2	54.6	58.2	58.7	58.7	62.7	64.8	66.7	66.5	64.9	67.0	66.6	66.0	66.8	66.4
27 歯科口腔用薬	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	96.9	97.3	97.5	94.4	92.9	97.6	95.1	95.2	94.2
29 その他の個々の器官系用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	—	25.0	0.0	4.1	0.0
31 ビタミン剤	100.0	100.0	94.4	93.6	96.7	98.0	91.2	95.5	91.1	93.9	91.8	92.7	91.5	89.3	88.4
32 滋養強壮薬	95.2	98.5	67.3	72.5	47.2	65.0	73.8	67.2	73.1	76.9	80.2	83.2	78.6	88.2	81.7
33 血液・体液用薬	89.6	84.7	83.8	83.8	92.6	92.6	91.7	88.3	91.7	85.7	92.4	88.8	87.1	86.1	84.5
34 人工透析用薬	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	100.0
39 その他の代謝性医薬品	70.9	61.4	25.0	82.5	78.3	74.3	75.0	90.6	88.7	82.1	86.7	85.2	85.0	86.1	86.3
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	100.0	—	100.0	—	49.6	82.2	72.6	70.2	92.8	90.6	84.6	84.0	86.2	81.5	87.3
43 放射線用薬	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
44 アレルギー用薬	71.6	74.2	76.6	80.9	83.2	85.7	86.7	84.1	82.4	83.5	83.8	83.2	82.7	83.8	81.4
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	85.7	78.7	57.4	23.3	28.6	26.3	24.2	25.6	30.3	34.5	32.5	28.3	41.0	27.3	36.7
62 化学療法剤	62.1	58.7	61.1	50.6	64.9	59.1	71.6	77.4	72.9	77.3	68.1	61.4	74.7	74.5	64.8
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	—	100.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	11.1	21.4	3.6	16.7	35.2	40.5	35.8	34.2
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	#DIV/0!	—	—	—	—	—	—	0.0	—	100.0	—	100.0
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	100.0	—	—
82 非アルカロイド系麻薬	71.0	87.5	100.0	78.3	96.0	87.4	48.7	53.9	63.0	67.7	50.5	41.7	29.6	39.7	29.1

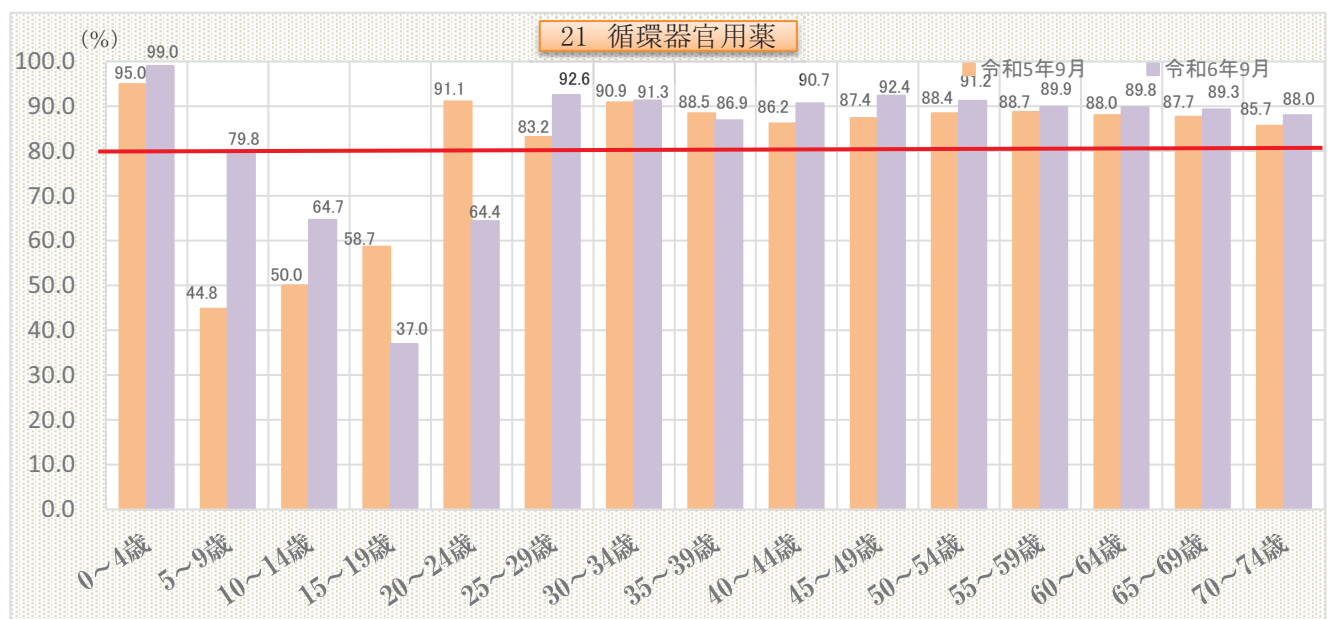
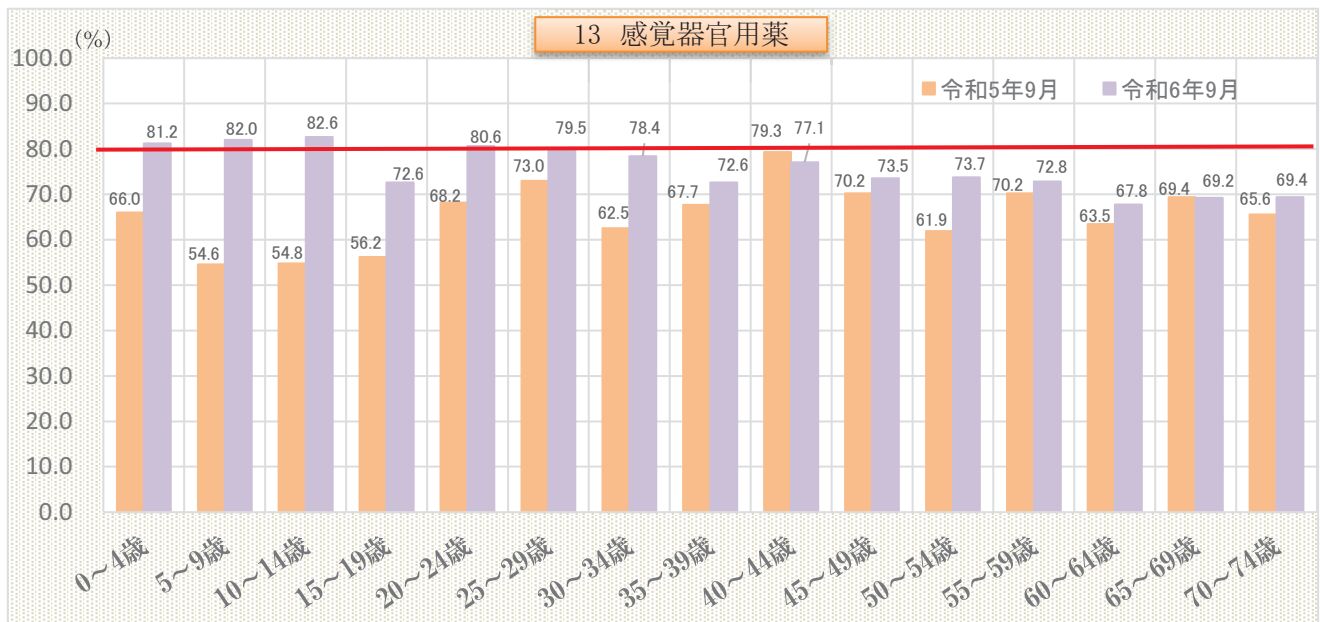
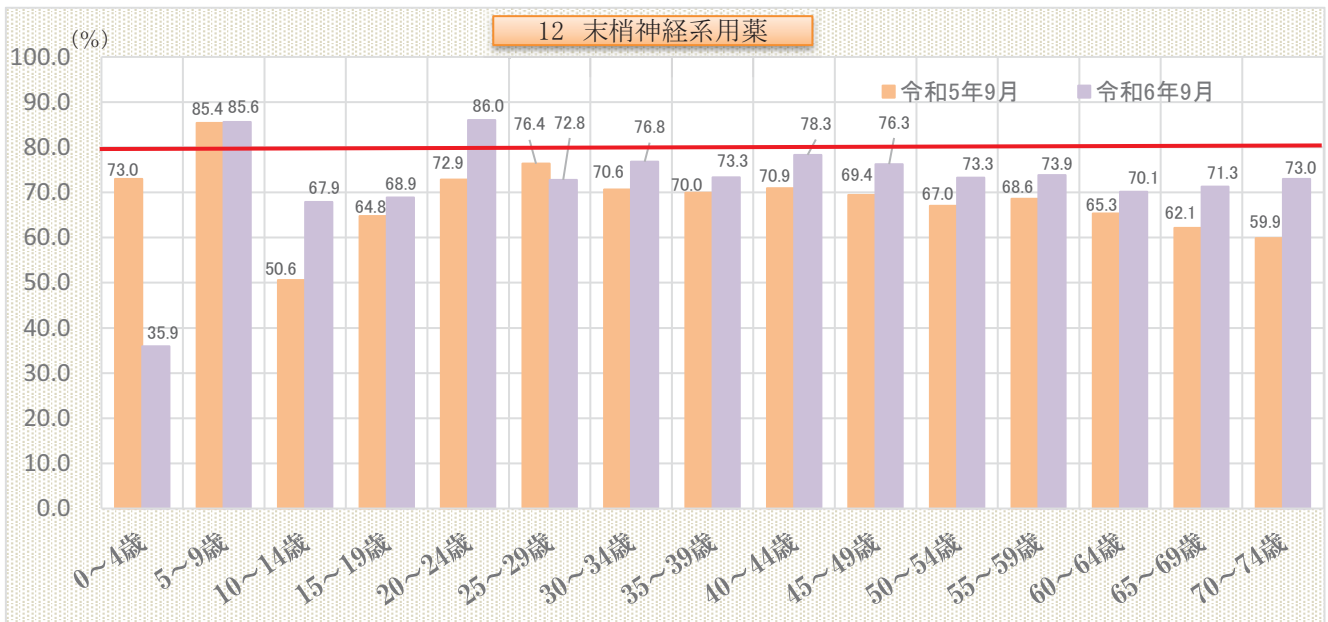
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



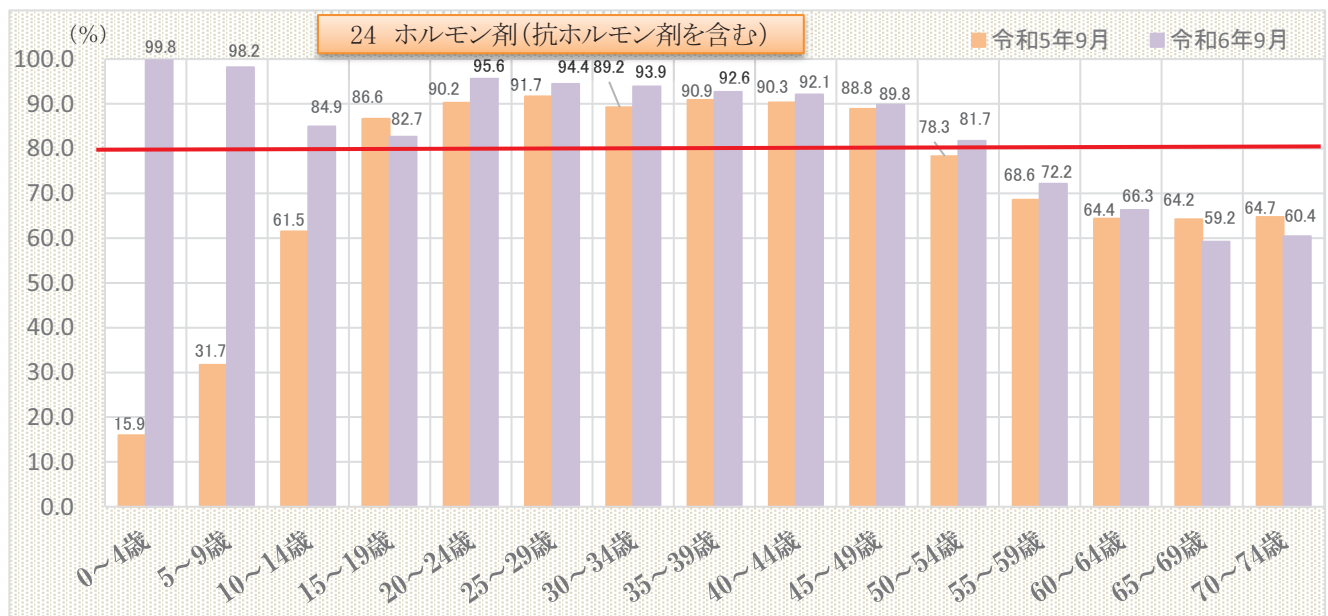
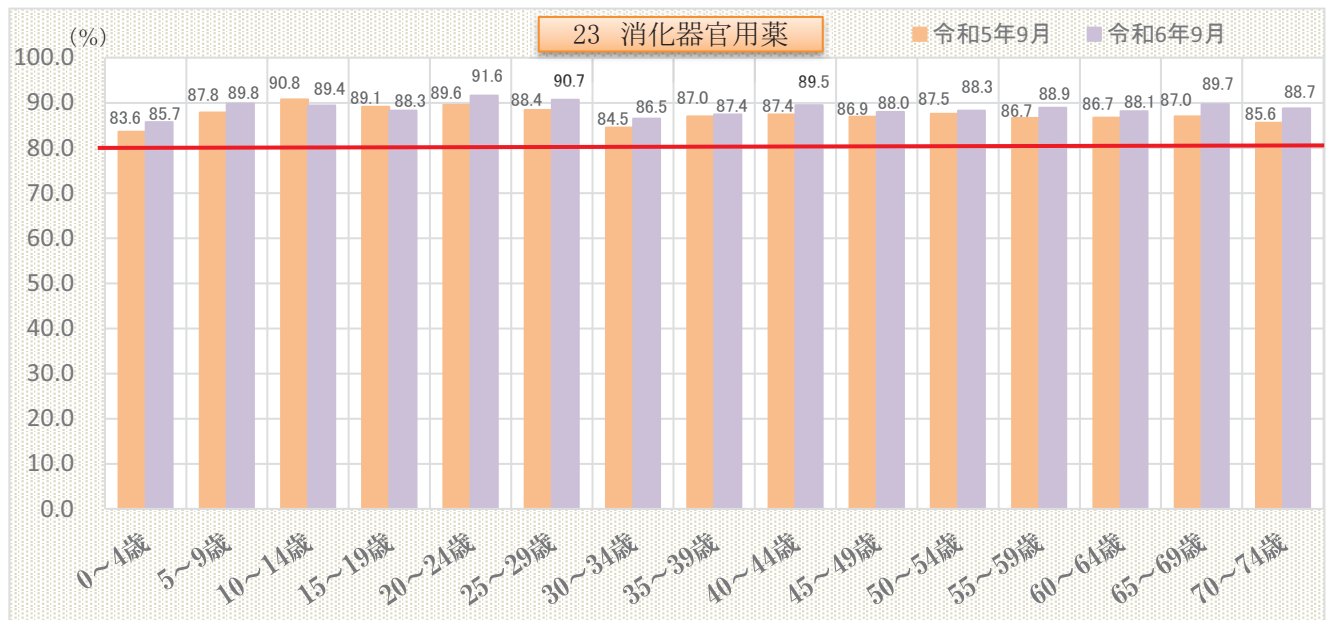
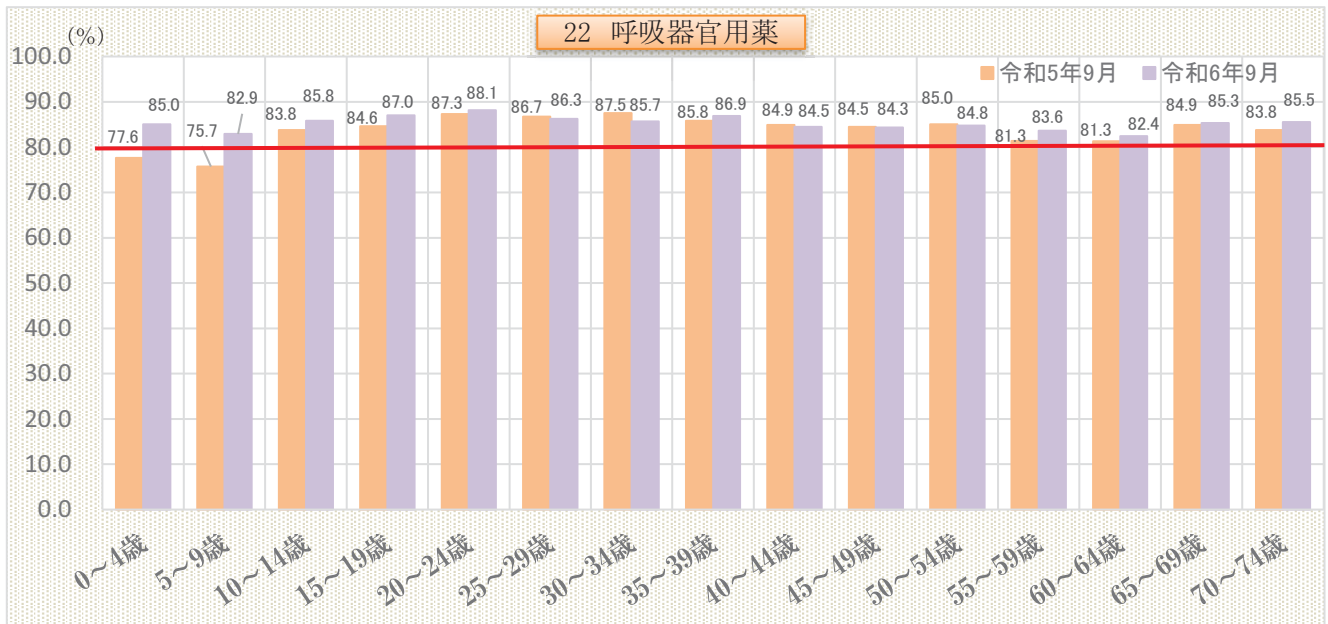
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



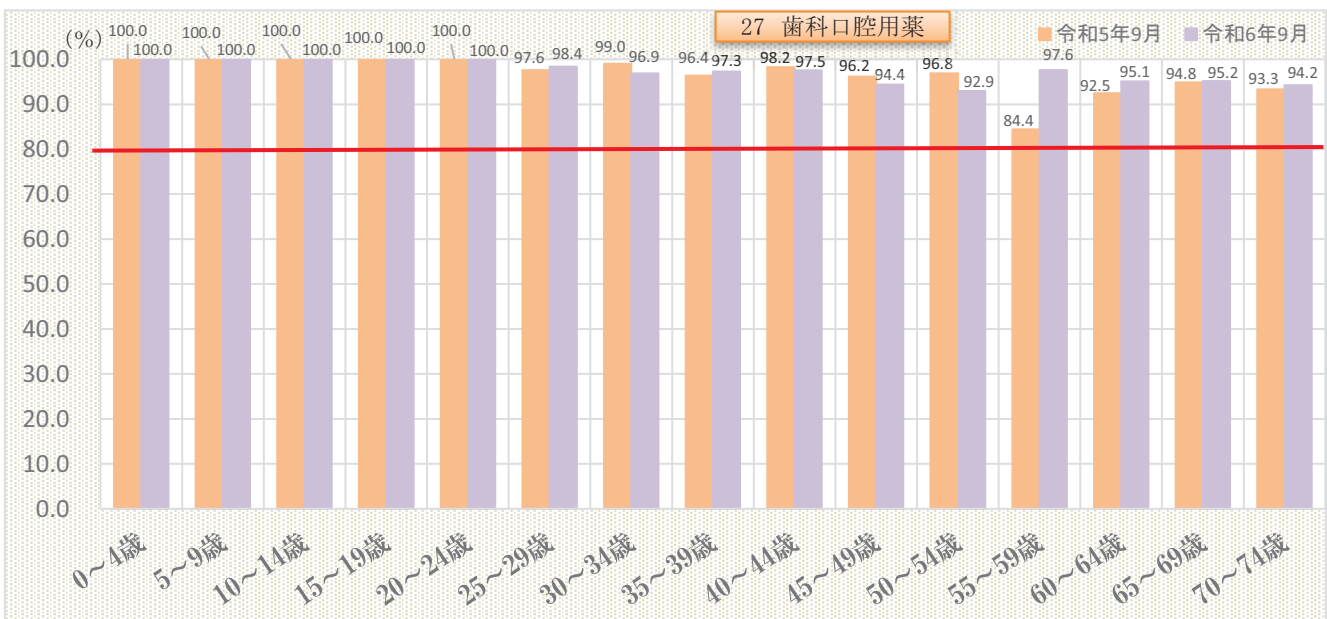
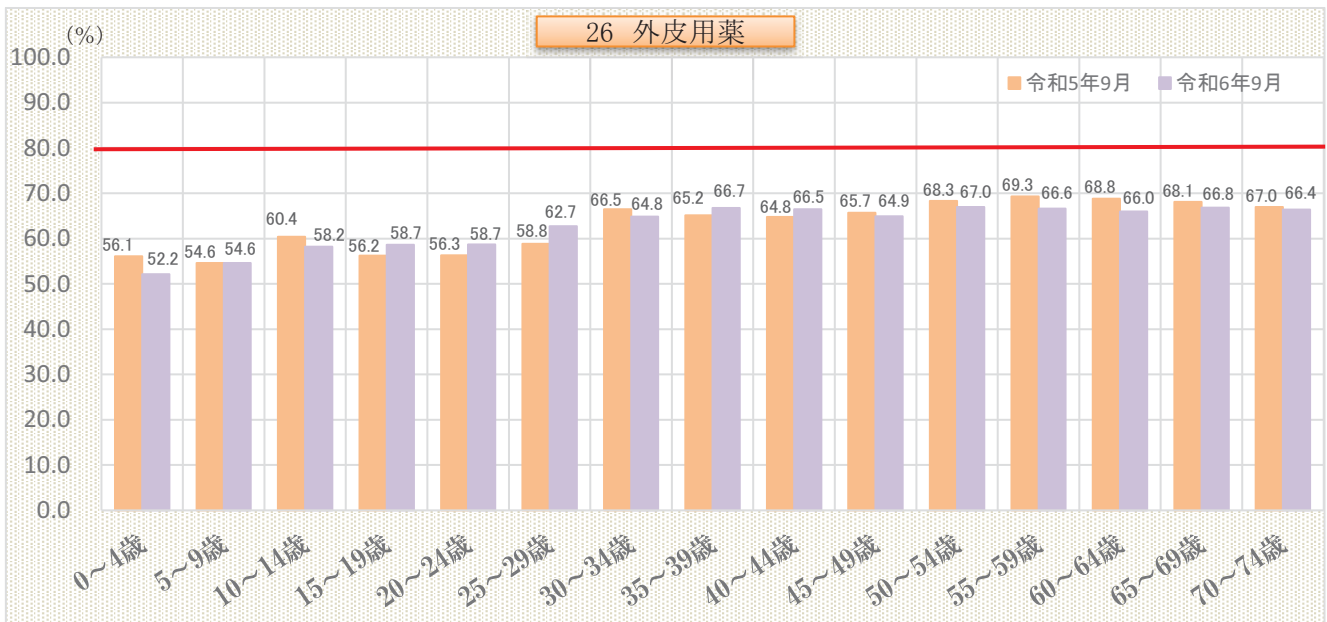
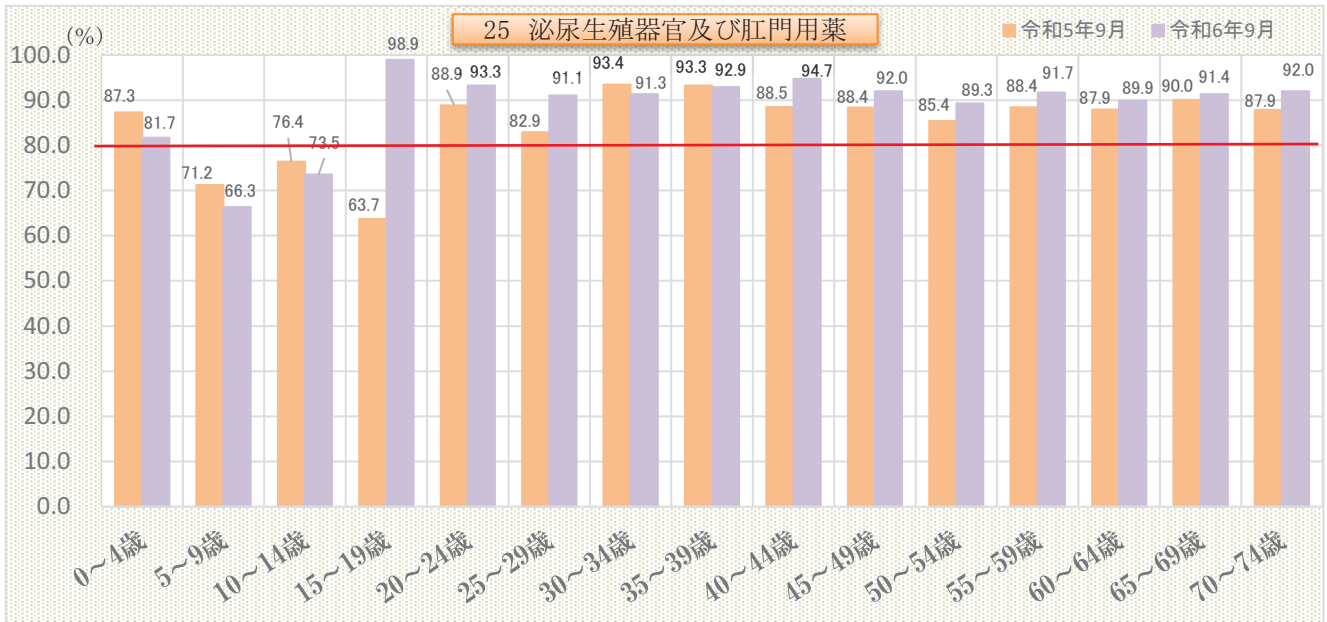
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



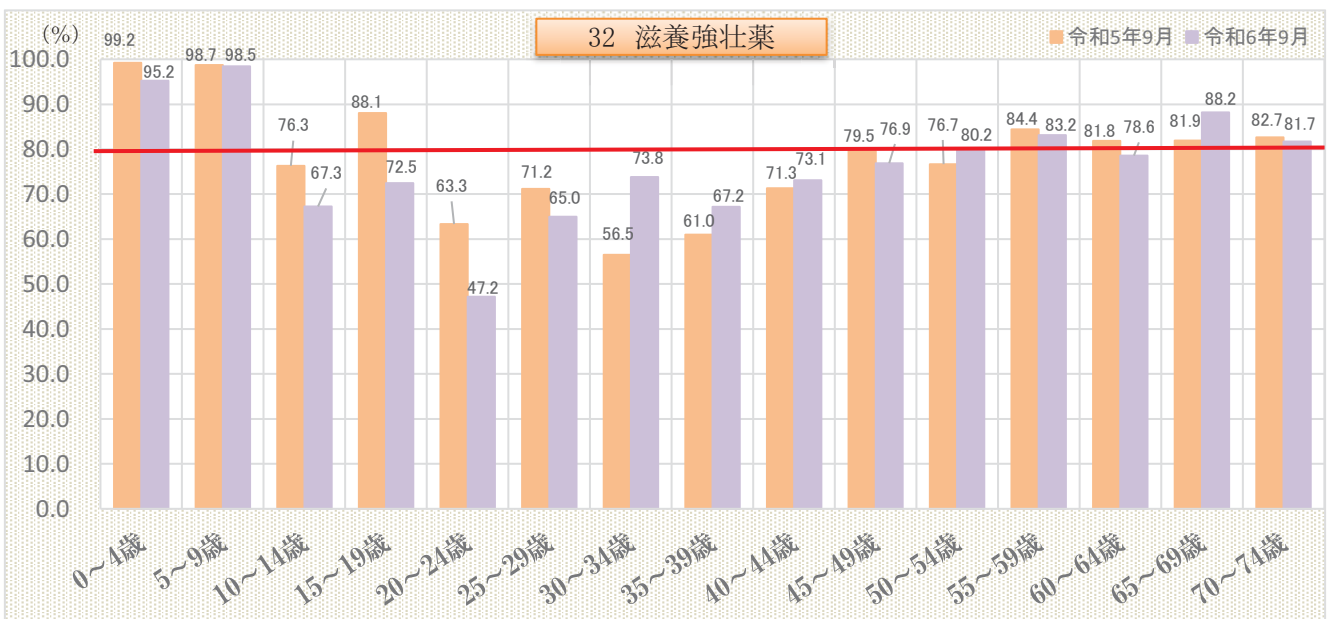
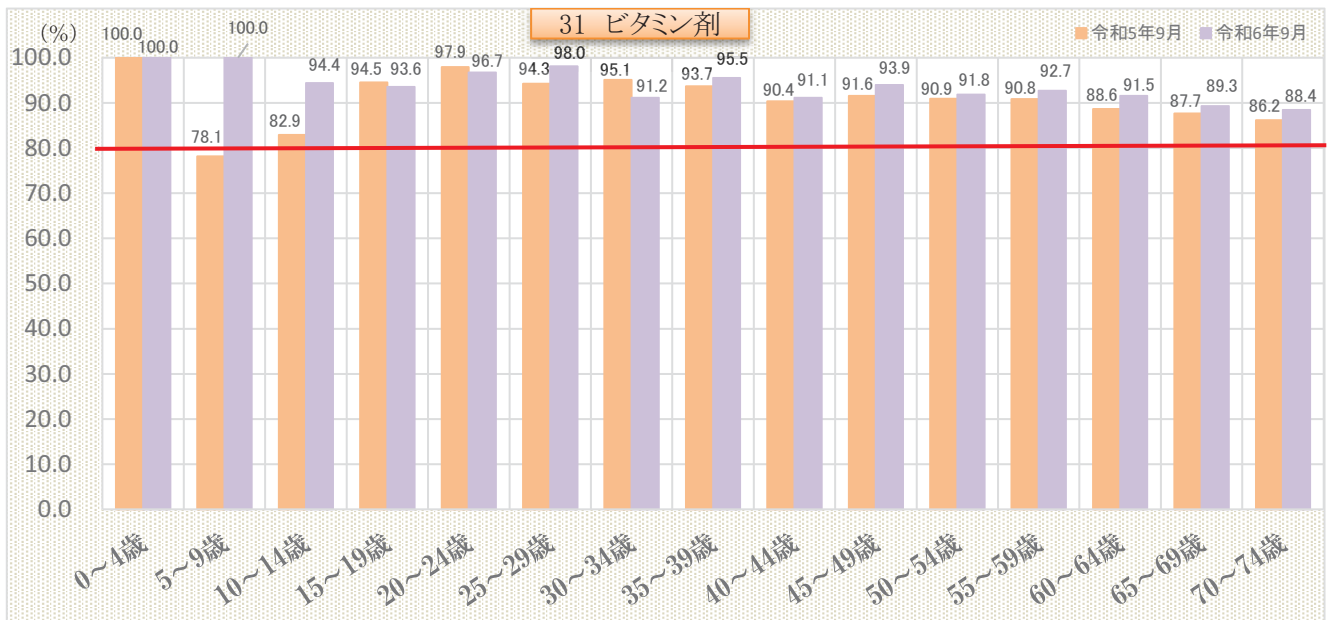
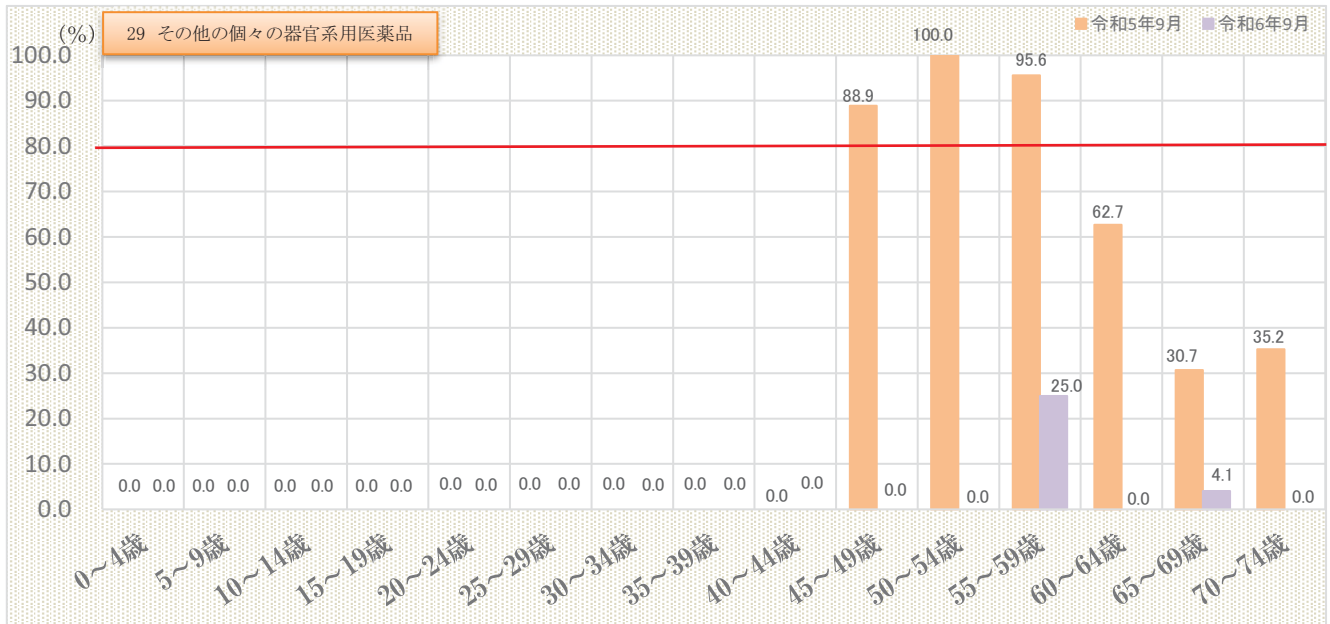
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



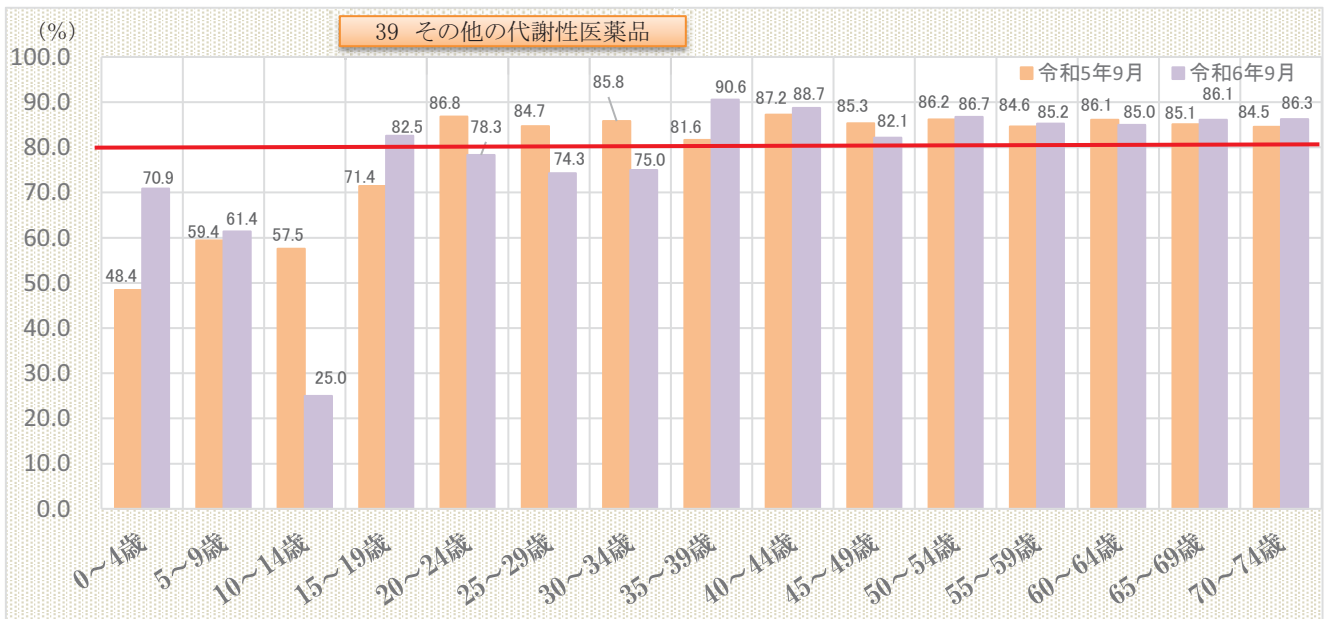
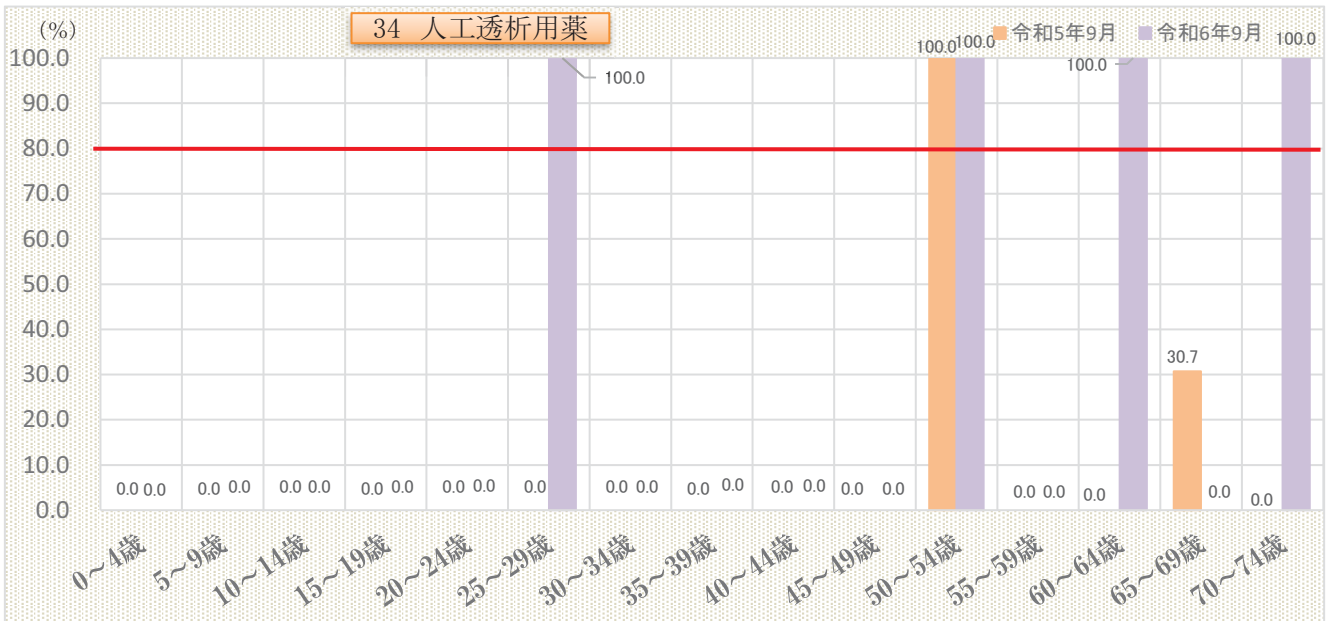
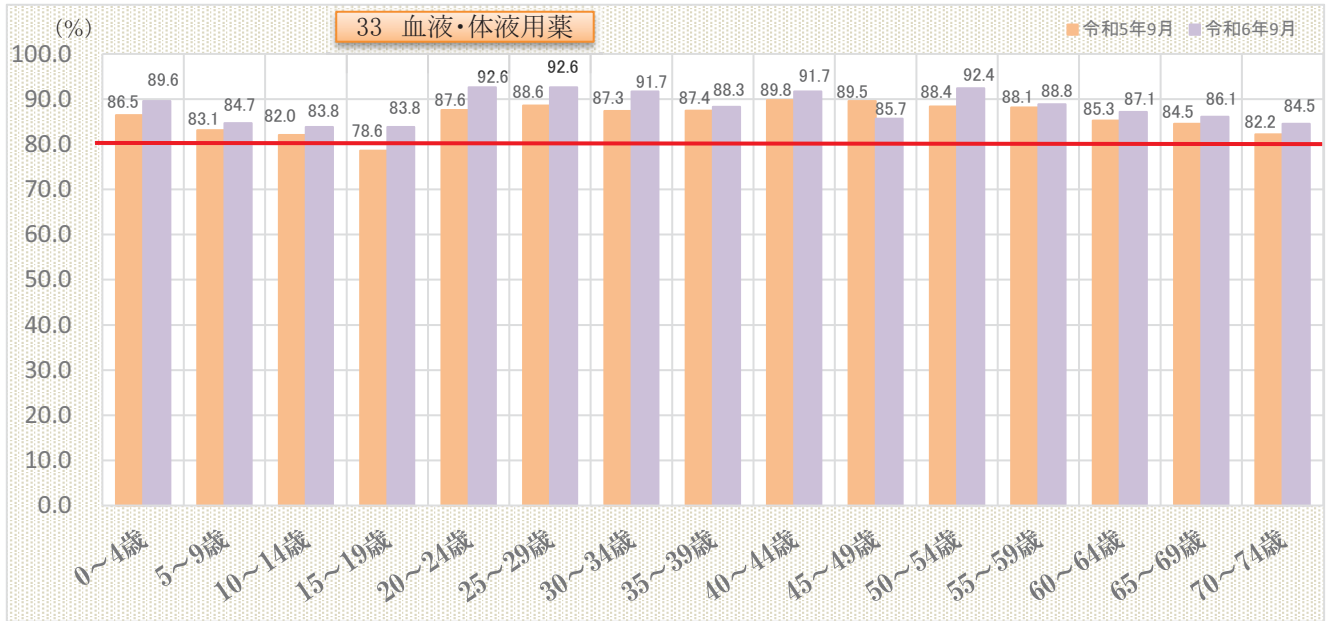
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



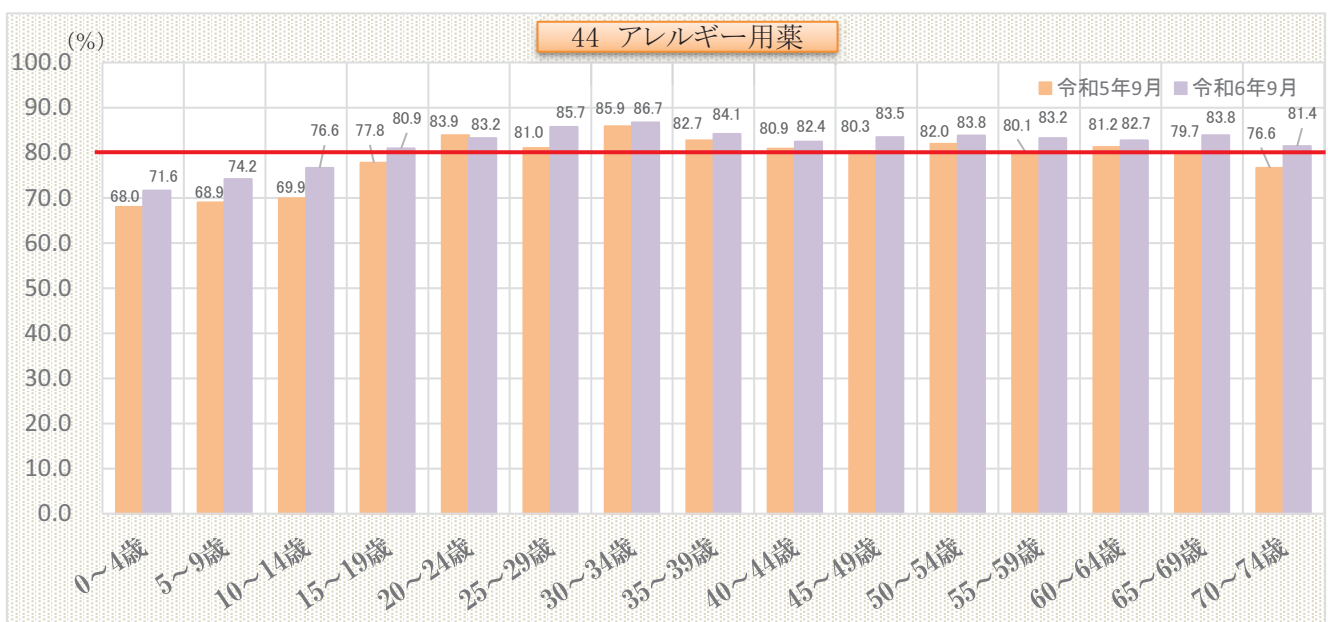
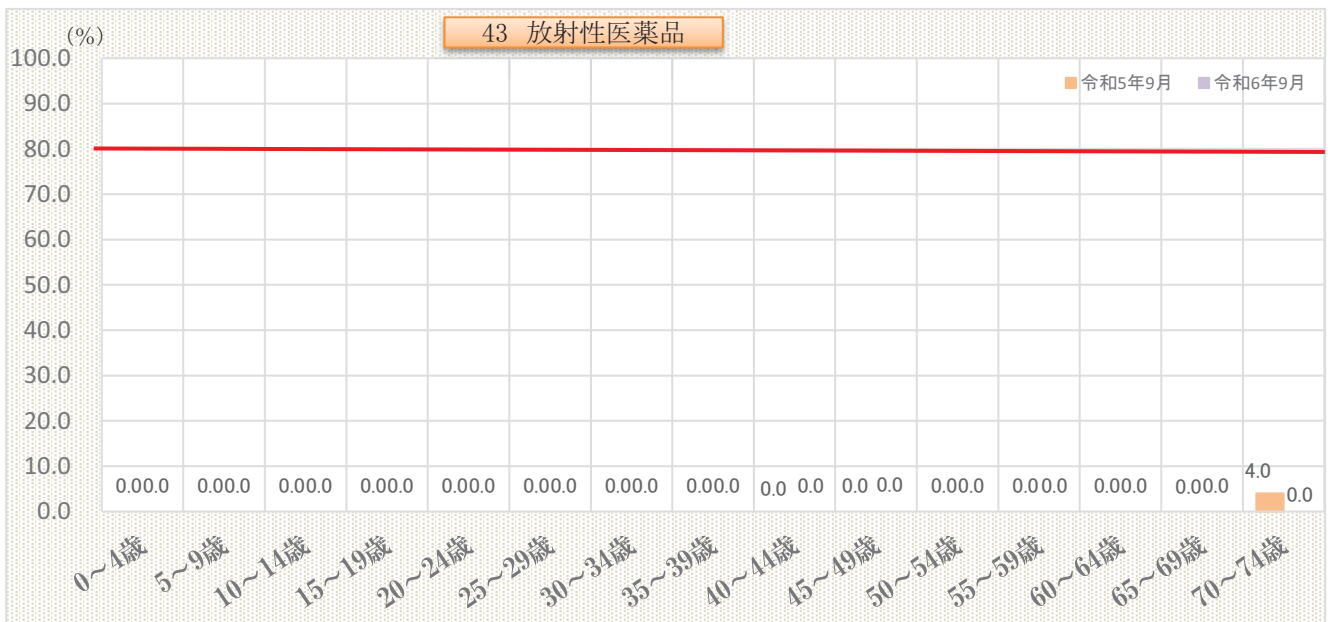
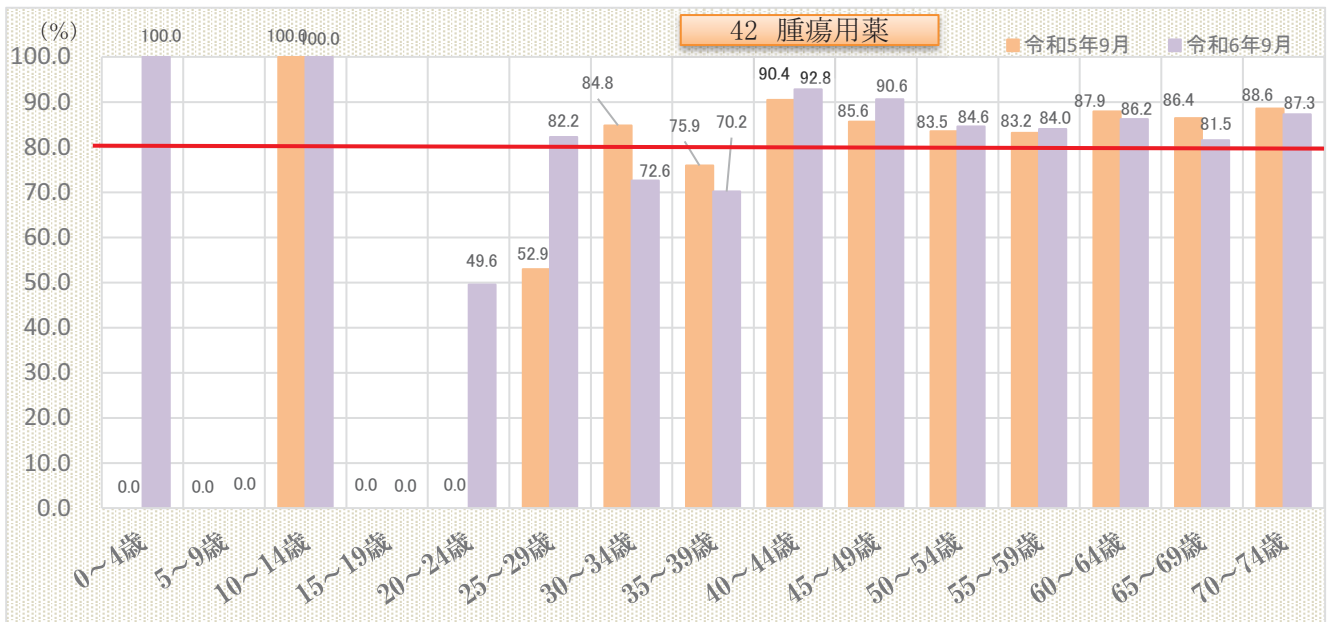
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



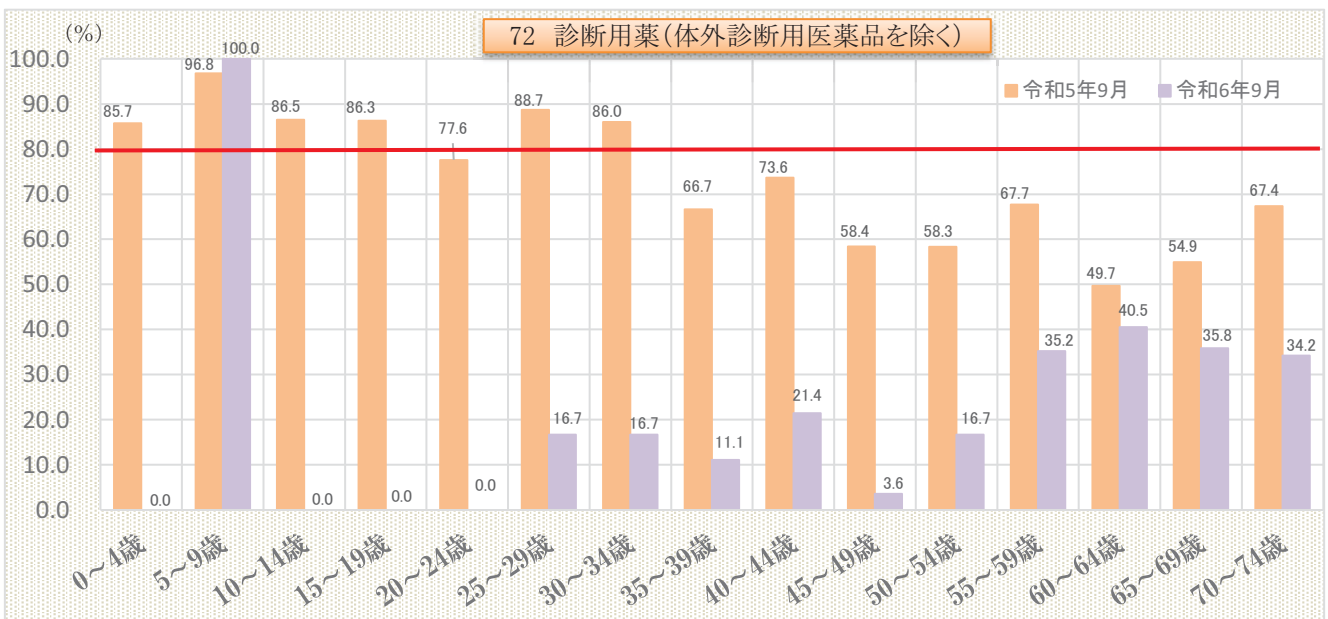
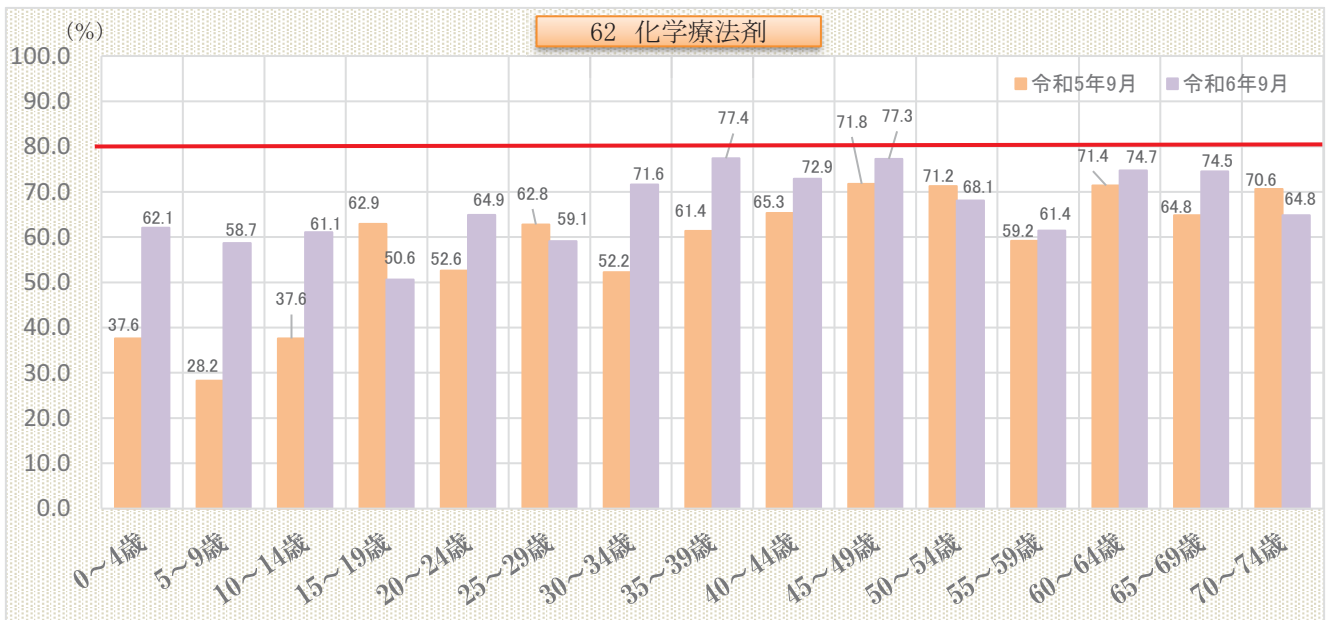
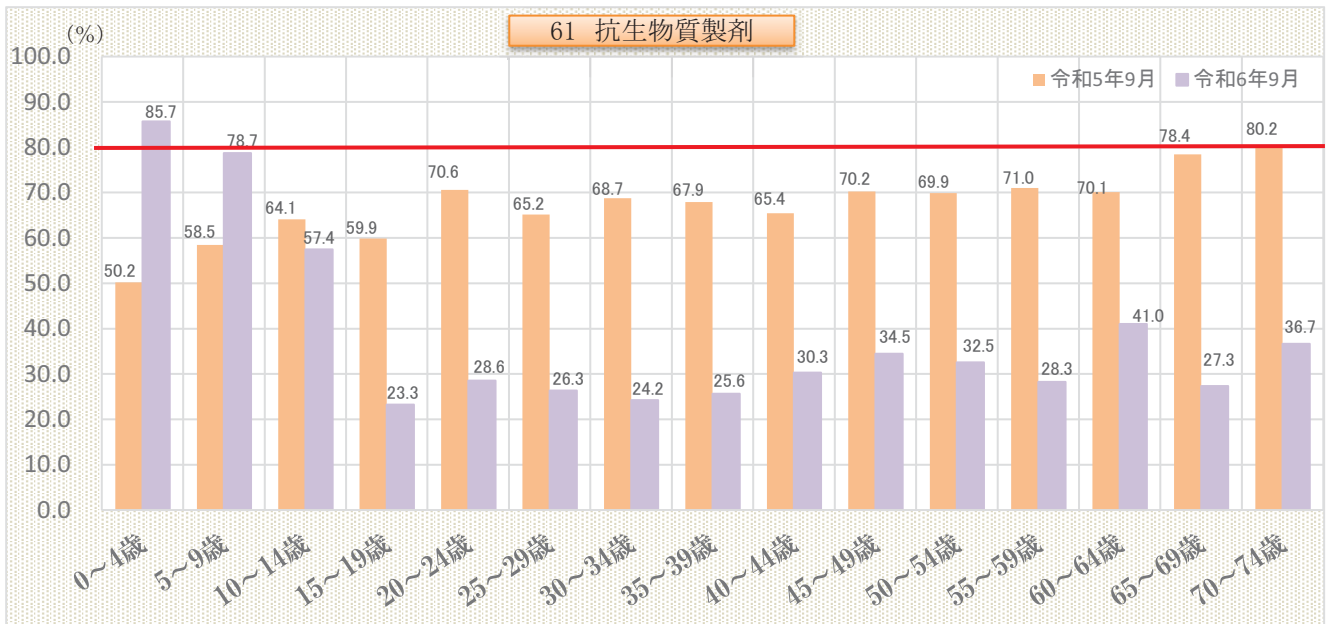
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



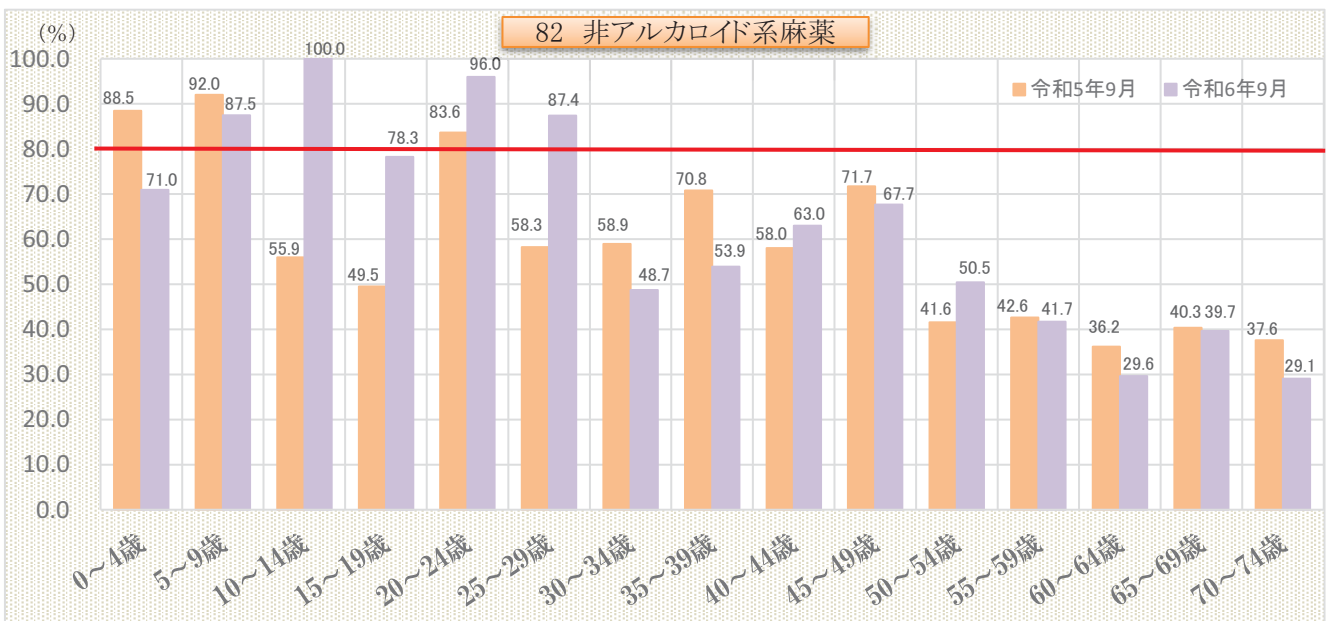
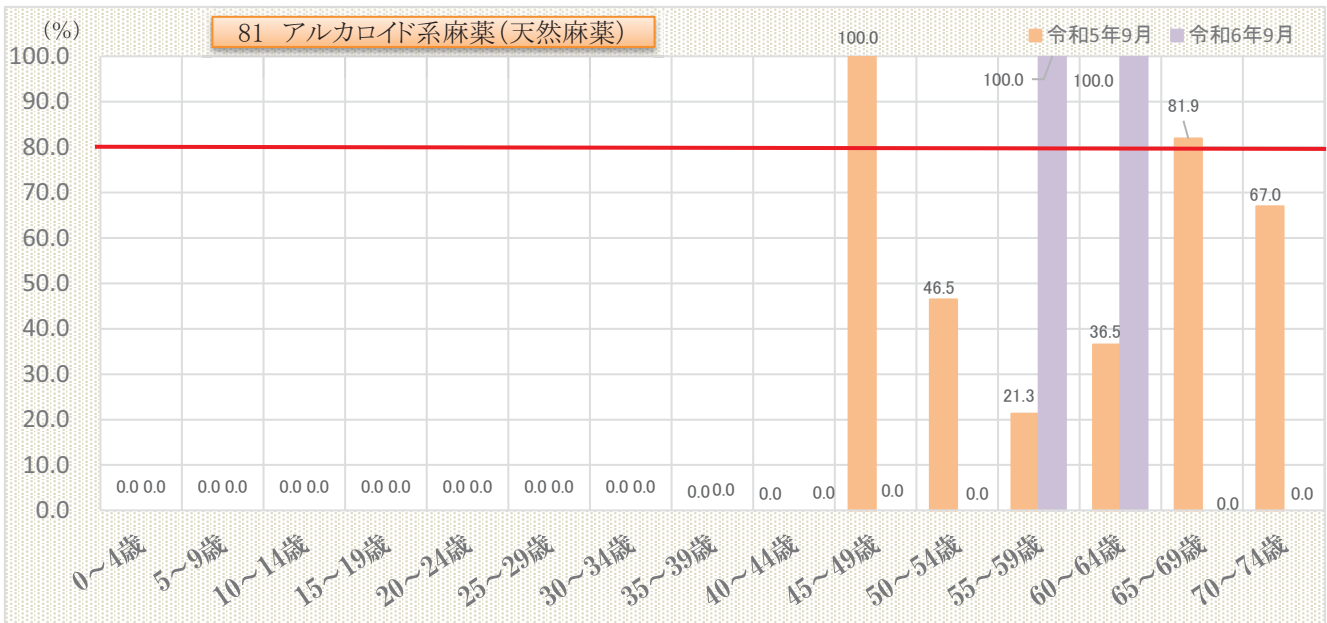
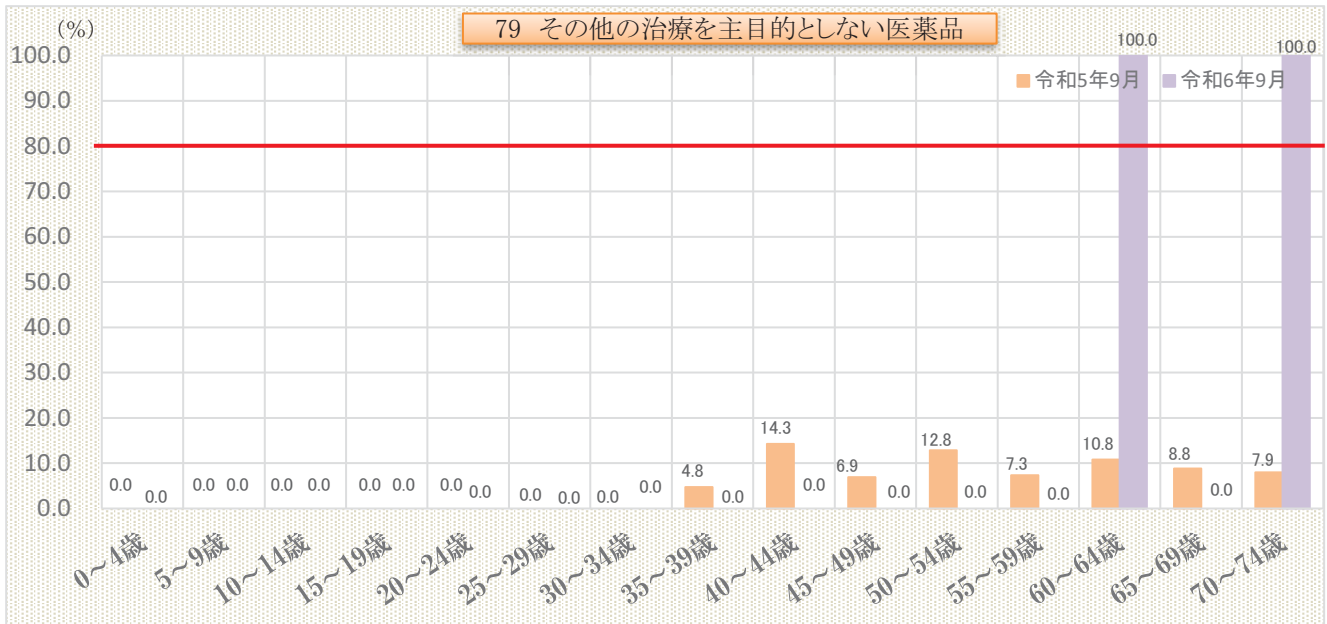
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	年齢階級別の使用割合(対前年度比)																		
		0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)				
総数	令和5年9月	75.0	73.1	74.9	81.5	80.9	79.9	79.9	80.0	81.8	80.5	81.8	82.0	82.3	82.9	81.4				
	令和6年9月	80.8	78.5	77.5	82.3	83.7	83.0	83.0	81.4	81.8	81.9	84.0	83.8	83.8	84.8	83.9				
	差	5.8	5.4	2.6	0.8	2.8	3.1	3.1	2.2	1.8	1.4	2.2	1.8	1.5	1.9	2.5				
11 中枢神経系用薬	令和5年9月	94.1	84.2	81.2	80.7	80.0	74.6	74.6	72.8	72.7	71.5	73.4	72.6	72.9	74.7	73.9				
	令和6年9月	93.7	78.7	78.3	80.1	81.6	80.8	80.8	75.1	72.8	72.8	76.3	75.3	75.0	77.6	76.5				
	差	△ 0.4	△ 5.5	△ 2.9	△ 0.6	1.6	6.2	6.2	2.3	0.1	1.3	2.9	2.7	2.1	2.9	2.6				
12 末梢神経系用薬	令和5年9月	73.0	85.4	50.6	72.9	76.4	70.6	70.6	70.0	70.9	69.4	67.0	68.6	65.3	62.1	59.9				
	令和6年9月	35.9	85.6	67.9	86.0	72.8	76.8	76.8	73.3	78.3	76.3	73.3	73.9	70.1	71.3	73.0				
	差	△ 37.1	0.2	17.3	13.1	△ 3.6	6.2	6.2	3.3	7.4	6.9	6.3	5.3	4.8	9.2	13.1				
13 感覚器用薬	令和5年9月	66.0	54.6	54.8	66.2	73.0	62.5	62.5	67.7	79.3	70.2	61.9	70.2	63.5	69.4	65.6				
	令和6年9月	81.2	82.0	82.6	80.6	79.5	78.4	78.4	72.6	77.1	73.5	73.7	72.8	67.8	69.2	69.4				
	差	15.2	27.4	27.8	12.4	6.5	15.9	15.9	4.9	△ 2.2	3.3	11.8	2.6	4.3	△ 0.2	3.8				
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
21 循環器用薬	令和5年9月	95.0	44.8	50.0	58.7	83.2	90.9	90.9	88.5	86.2	87.4	88.4	88.7	88.0	87.7	85.7				
	令和6年9月	99.0	79.8	64.7	37.0	92.6	91.3	91.3	86.9	90.7	92.4	91.2	89.9	89.8	89.3	88.0				
	差	4.0	35.0	14.7	△ 21.7	9.4	0.4	0.4	△ 1.6	4.5	5.0	2.8	1.2	1.8	1.6	2.3				
22 呼吸器用薬	令和5年9月	77.6	75.7	83.8	87.3	86.7	87.5	87.5	85.8	84.9	84.5	85.0	81.3	81.3	84.9	83.8				
	令和6年9月	85.0	82.9	85.8	88.1	86.3	85.7	85.7	86.9	84.5	84.3	84.8	83.6	82.4	85.3	85.5				
	差	7.4	7.2	2.0	0.8	△ 0.4	△ 1.8	△ 1.8	1.1	△ 0.4	△ 0.2	△ 0.2	2.3	1.1	0.4	1.7				
23 消化器用薬	令和5年9月	83.6	87.8	90.8	89.1	88.4	84.5	84.5	87.0	87.4	86.9	87.5	86.7	86.7	87.0	85.6				
	令和6年9月	85.7	89.8	89.4	88.3	90.7	86.5	86.5	87.4	89.5	88.0	88.3	88.9	88.1	89.7	88.7				
	差	2.1	2.0	△ 1.4	△ 0.8	2.3	2.0	2.0	0.4	2.1	1.1	0.8	2.2	1.4	2.7	3.1				
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	令和5年9月	15.9	31.7	61.5	86.6	91.7	89.2	89.2	90.9	90.3	88.8	78.3	68.6	64.4	64.2	64.7				
	令和6年9月	99.8	98.2	84.9	82.7	94.4	93.9	93.9	92.6	92.1	89.8	81.7	72.2	66.3	59.2	60.4				
	差	83.9	66.5	23.4	△ 3.9	5.4	4.7	4.7	1.7	1.8	1.0	3.4	3.6	1.9	△ 5.0	△ 4.3				
25 泌尿生殖器及び肛門用薬	令和5年9月	87.3	71.2	76.4	63.7	88.9	93.4	93.4	93.3	88.5	88.4	85.4	88.4	87.9	90.0	87.9				
	令和6年9月	81.7	66.3	73.5	98.9	91.1	91.3	91.3	92.9	94.7	92.0	89.3	91.7	89.9	91.4	92.0				
	差	△ 5.6	△ 4.9	△ 2.9	35.2	4.4	8.2	△ 2.1	△ 0.4	6.2	3.6	3.9	3.3	2.0	1.4	4.1				
26 外用薬	令和5年9月	56.1	54.6	60.4	56.2	58.8	66.5	66.5	65.2	64.8	65.7	68.3	69.3	68.8	68.1	67.0				
	令和6年9月	52.2	54.6	58.2	58.7	62.7	64.8	64.8	66.7	66.5	64.9	67.0	66.6	66.0	66.8	66.4				
	差	△ 3.9	0.0	△ 2.2	2.5	2.4	3.9	△ 1.7	1.5	1.7	△ 0.8	△ 1.3	△ 2.7	△ 2.8	△ 1.3	△ 0.6				
27 歯科口腔用薬	令和5年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6	99.0	99.0	96.4	98.2	96.2	96.8	84.4	92.5	94.8	93.3				
	令和6年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	96.9	96.9	97.3	97.5	94.4	92.9	97.6	95.1	95.2	94.2				
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	△ 2.1	△ 2.1	0.9	△ 0.7	△ 1.8	△ 3.9	13.2	2.6	0.4	0.9				
29 その他の個々の器管系用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	—	25.0	0.0	4.1	0.0				
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 70.6	△ 62.7	△ 26.6	△ 35.2				
31 ビタミン剤	令和5年9月	100.0	78.1	82.9	94.5	94.3	95.1	95.1	93.7	90.4	91.6	90.9	90.8	88.6	87.7	86.2				
	令和6年9月	100.0	100.0	94.4	93.6	98.0	91.2	91.2	95.5	91.1	93.9	91.8	92.7	91.5	89.3	88.4				
	差	0.0	21.9	11.5	△ 0.9	3.7	△ 3.9	△ 3.9	1.8	0.7	2.3	0.9	1.9	2.9	1.6	2.2				

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料№2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
		使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
32 滋養強壯薬	令和5年9月	99.2	98.7	76.3	88.1	63.3	71.2	56.5	61.0	71.3	79.5	76.7	84.4	81.8	81.9	82.7
	令和6年9月	95.2	98.5	67.3	72.5	47.2	65.0	73.8	67.2	73.1	76.9	80.2	83.2	78.6	88.2	81.7
	差	△4.0	△0.2	△9.0	△15.6	△16.1	△6.2	17.3	6.2	1.8	△2.6	3.5	△1.2	△3.2	6.3	△1.0
33 血液・体液用薬	令和5年9月	86.5	83.1	82.0	78.6	87.6	88.6	87.3	87.4	89.8	89.5	88.4	88.1	85.3	84.5	82.2
	令和6年9月	89.6	84.7	83.8	83.8	92.6	92.6	91.7	88.3	91.7	85.7	92.4	88.8	87.1	86.1	84.5
	差	3.1	1.6	1.8	5.2	5.0	4.0	4.4	0.9	1.9	△3.8	4.0	0.7	1.8	1.6	2.3
34 人工透析用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	30.7	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	100.0
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
39 その他の代謝性医薬品	令和5年9月	48.4	59.4	57.5	71.4	86.8	84.7	85.8	81.6	87.2	85.3	86.2	84.6	86.1	85.1	84.5
	令和6年9月	70.9	61.4	25.0	82.5	78.3	74.3	75.0	90.6	88.7	82.1	86.7	85.2	85.0	86.1	86.3
	差	22.5	2.0	△32.5	11.1	△8.5	△10.4	△10.8	9.0	1.5	△3.2	0.5	0.6	△1.1	1.0	1.8
41 細胞賦活用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	令和5年9月	—	—	100.0	—	—	52.9	84.8	75.9	90.4	85.6	83.5	83.2	87.9	86.4	88.6
	令和6年9月	100.0	—	100.0	77.8	49.6	82.2	72.6	70.2	92.8	90.6	84.6	84.0	86.2	81.5	87.3
	差	—	—	—	—	—	29.3	△12.2	△5.7	2.4	5.0	1.1	0.8	△1.7	△4.9	△1.3
43 放射線医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	0.0	0.0	4.0
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△4.0
44 アレルギーマネジメント薬	令和5年9月	68.0	68.9	69.9	77.8	83.9	81.0	85.9	82.7	80.9	80.3	82.0	80.1	81.2	79.7	76.6
	令和6年9月	71.6	74.2	76.6	80.9	83.2	85.7	86.7	84.1	82.4	83.5	83.8	83.2	82.7	83.8	81.4
	差	3.6	5.3	6.7	3.1	△0.7	4.7	0.8	1.4	1.5	3.2	1.8	3.1	1.5	4.1	4.8
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和5年9月	50.2	58.5	64.1	59.9	70.6	65.2	68.7	67.9	65.4	70.2	69.9	71.0	70.1	78.4	80.2
	令和6年9月	85.7	78.7	57.4	23.3	28.6	26.3	24.2	25.6	30.3	34.5	32.5	28.3	41.0	27.3	36.7
	差	35.5	20.2	△6.7	△36.6	△42.0	△38.9	△44.5	△42.3	△35.1	△35.7	△37.4	△42.7	△29.1	△51.1	△43.5
62 化学療法剤	令和5年9月	37.6	28.2	37.6	62.9	52.6	62.8	52.2	61.4	65.3	71.8	71.2	59.2	71.4	64.8	70.6
	令和6年9月	62.1	58.7	61.1	50.6	64.9	59.1	71.6	77.4	72.9	77.3	68.1	61.4	74.7	74.5	64.8
	差	24.5	30.5	23.5	△12.3	12.3	△3.7	19.4	16.0	7.6	5.5	△3.1	2.2	3.3	9.7	△5.8

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料№2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)	
63 生物学的製剤	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する 医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	令和5年9月	85.7	96.8	86.5	86.3	77.6	88.7	86.0	66.7	73.6	58.4	58.3	67.7	49.7	54.9	67.4	
	令和6年9月	—	100.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	11.1	21.4	3.6	16.7	35.2	40.5	35.8	34.2	
	差	—	3.2	△ 86.5	△ 86.3	△ 77.6	△ 72.0	△ 69.3	△ 55.6	△ 52.2	△ 54.8	△ 41.6	△ 32.5	△ 9.2	△ 19.1	△ 33.2	
73 公衆衛生用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	令和5年9月	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	14.3	6.9	12.8	7.3	10.8	8.8	7.9	
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	100.0	—	100.0	
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 12.8	—	89.2	—	92.1	
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	46.5	21.3	36.5	81.9	67.0	
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	100.0	—	—	
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	78.7	63.5	—	—	
82 非アルカロイド系麻薬	令和5年9月	88.5	92.0	55.9	49.5	83.6	58.3	58.9	70.8	58.0	71.7	41.6	42.6	36.2	40.3	37.6	
	令和6年9月	71.0	87.5	100.0	78.3	96.0	87.4	48.7	53.9	63.0	67.7	50.5	41.7	29.6	39.7	29.1	
	差	△ 17.5	△ 4.5	44.1	28.8	12.4	29.1	△ 10.2	△ 16.9	5.0	△ 4.0	8.9	△ 0.9	△ 6.6	△ 0.6	△ 8.5	

4. 統計分析 (3)若い世代における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2)

《使用割合が山梨県の目標値以下の若い世代(5歳～19歳まで)の薬効分類別の状況》

- 5歳から19歳の年齢階級において使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、腫瘍用薬、ビタミン剤という状況である。
- 5歳から19歳の年齢階級において使用割合が低い薬剤は、化学療法剤、循環器官用薬、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)という状況である。

《年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況》

- 5歳から9歳は歯科口腔用薬 100%、ビタミン剤 100%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)100%である。
- 10歳から14歳は歯科口腔用薬 100%、非アルカロイド系麻薬 100%、腫瘍用薬 100%である。
- 15歳から19歳は歯科口腔用薬 100%、泌尿生殖器官及び肛門用薬 98.9%、ビタミン剤 93.6%である。
- 歯科口腔用薬は、全ての年齢階級において使用割合が高い状況である。

《年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況》

- 5歳から9歳は外皮用薬 54.6%、化学療法剤 58.7%、その他の代謝性医薬品 61.4%である。
- 10歳から14歳は診断用薬(体外診断用医薬品を除く)0%、その他の代謝性医薬品 25%、抗生物質製剤 57.4%である。
- 15歳から19歳は診断用薬(体外診断用医薬品を除く)0%、抗生物質製剤 23.3%、循環器官用薬 37.0%である。

【5歳から9歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (125/125)	100%	外皮用薬 (13,683/25,058)	54.6%
ビタミン剤 (73/73)	100%	化学療法剤 (1,293/2,202)	58.7%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (1/1)	100%	その他の代謝性医薬品 (3,829/6,236)	61.4%

【10歳から14歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (152/152)	100%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (0/4)	0%
非アルカロイド系麻薬 (25/25)	100%	その他の代謝性医薬品 (852/3,404)	25.0%
腫瘍用薬 (23/23)	100%	抗生物質製剤 (4,466/7,774)	57.4%

【15歳から19歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (62/62)	100%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (0/3)	0%
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (453/458)	98.9%	抗生物質製剤 (2,135/9,178)	23.3%
ビタミン剤(9,138/9,768)	93.6%	循環器官用薬 (4,099/11,086)	37.0%

《昨年度との比較》

○昨年度と比較し、5歳から9歳は5.4ポイント、10歳から14歳は2.6ポイント、15歳から19歳は0.8ポイントの伸びとなっている。【年齢階級別使用割合(%)】(P9より)
伸びの高かった薬剤は以下のとおり

【5歳から9歳までの前年度比較】

※資料No.3-2より

薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	31.7%	98.2%	66.5
21 循環器官用薬	44.8%	79.8%	35.0
62 化学療法剤	28.2%	58.7%	30.5

【10歳から14歳までの前年度比較】

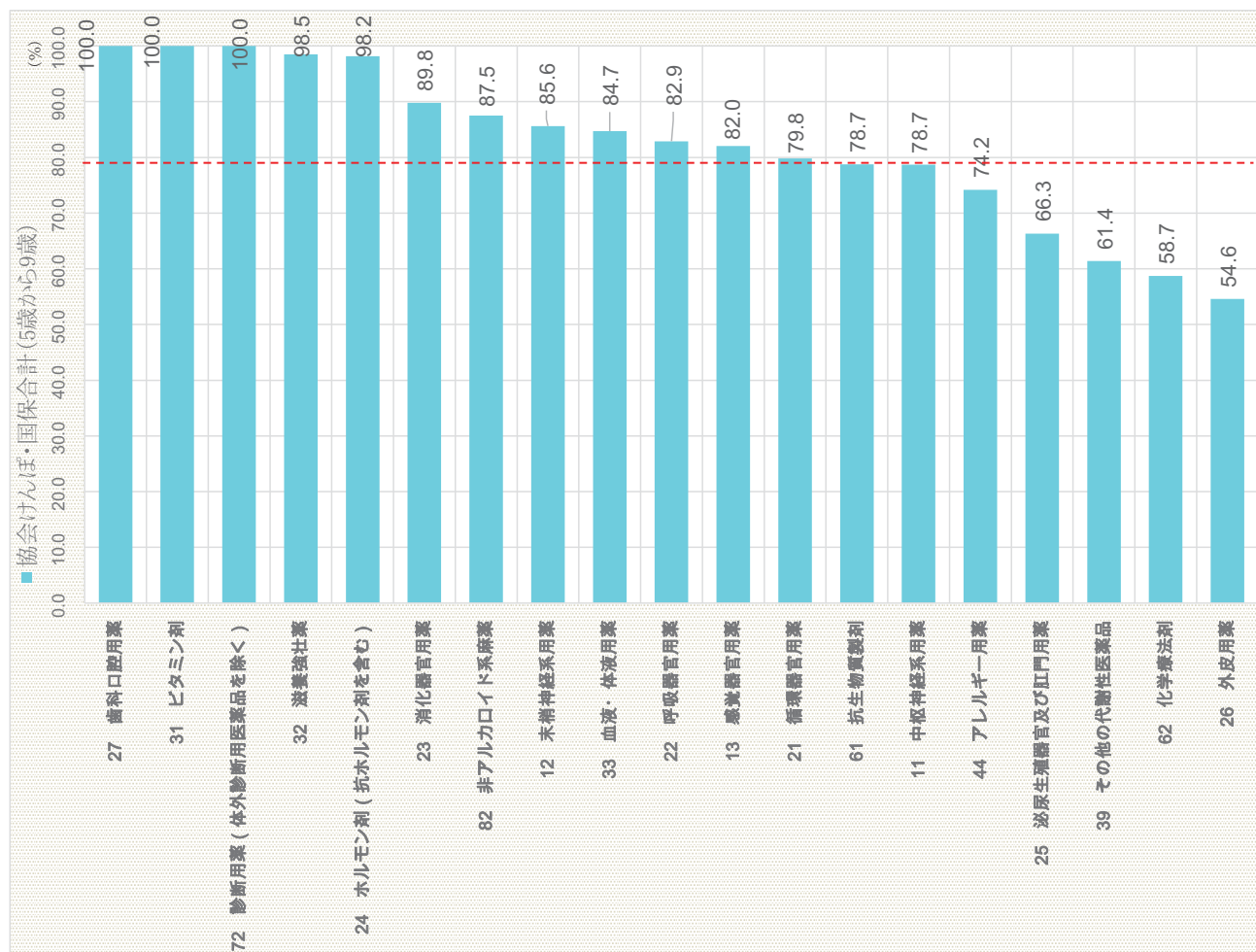
薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
82 非アルカロイド系麻薬	55.9%	100%	44.1
13 感覚器官用薬	54.8%	82.6%	27.8
62 化学療法剤	37.6%	61.1%	23.5

【15歳から19歳までの前年度比較】

薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	63.7%	98.9%	35.2
82 非アルカロイド系麻薬	49.5%	78.3%	28.8
13 感覚器官用薬	56.2%	72.6%	16.4

若い世代における薬効分類別の使用割合

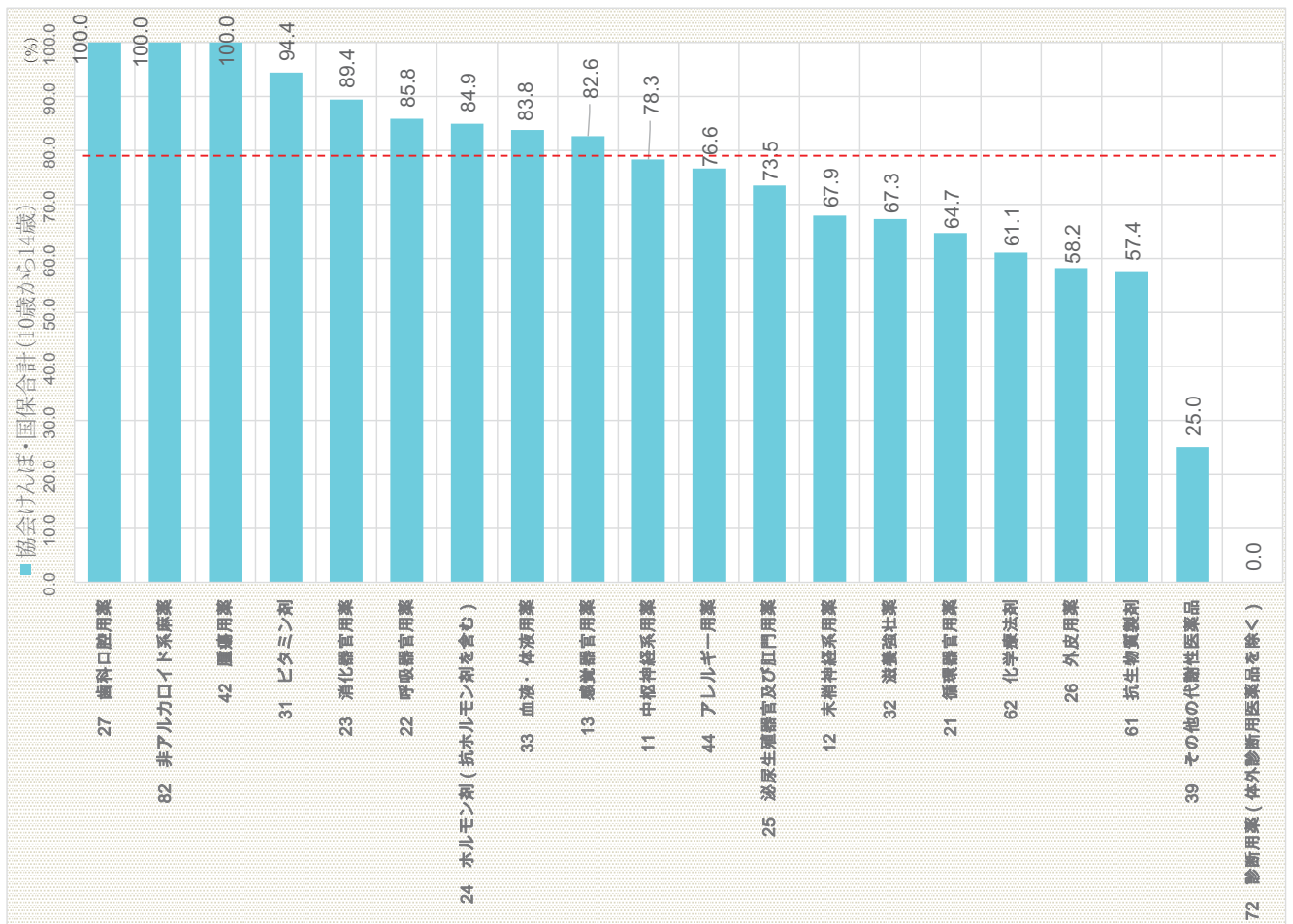
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (5歳から9歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	123
31 ビタミン剤	100.0	73
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	1
32 滋養強壮薬	98.5	1,642
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	98.2	2,029
23 消化器官用薬	89.8	14,517
82 非アロカロイド系麻薬	87.5	16
12 末梢神経系用薬	85.6	250
33 血液・体液用薬	84.7	108,221
22 呼吸器官用薬	82.9	140,709
13 感覚器官用薬	82.0	4,344
21 循環器官用薬	79.8	1,387
61 抗生物質製剤	78.7	12,636
11 中枢神経系用薬	78.7	18,565
44 アレルギー用薬	74.2	190,444
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	66.3	796
39 その他の代謝性医薬品	61.4	6,236
62 化学療法剤	58.7	2,202
26 外皮用薬	54.6	25,058

若い世代における薬効分類別の使用割合

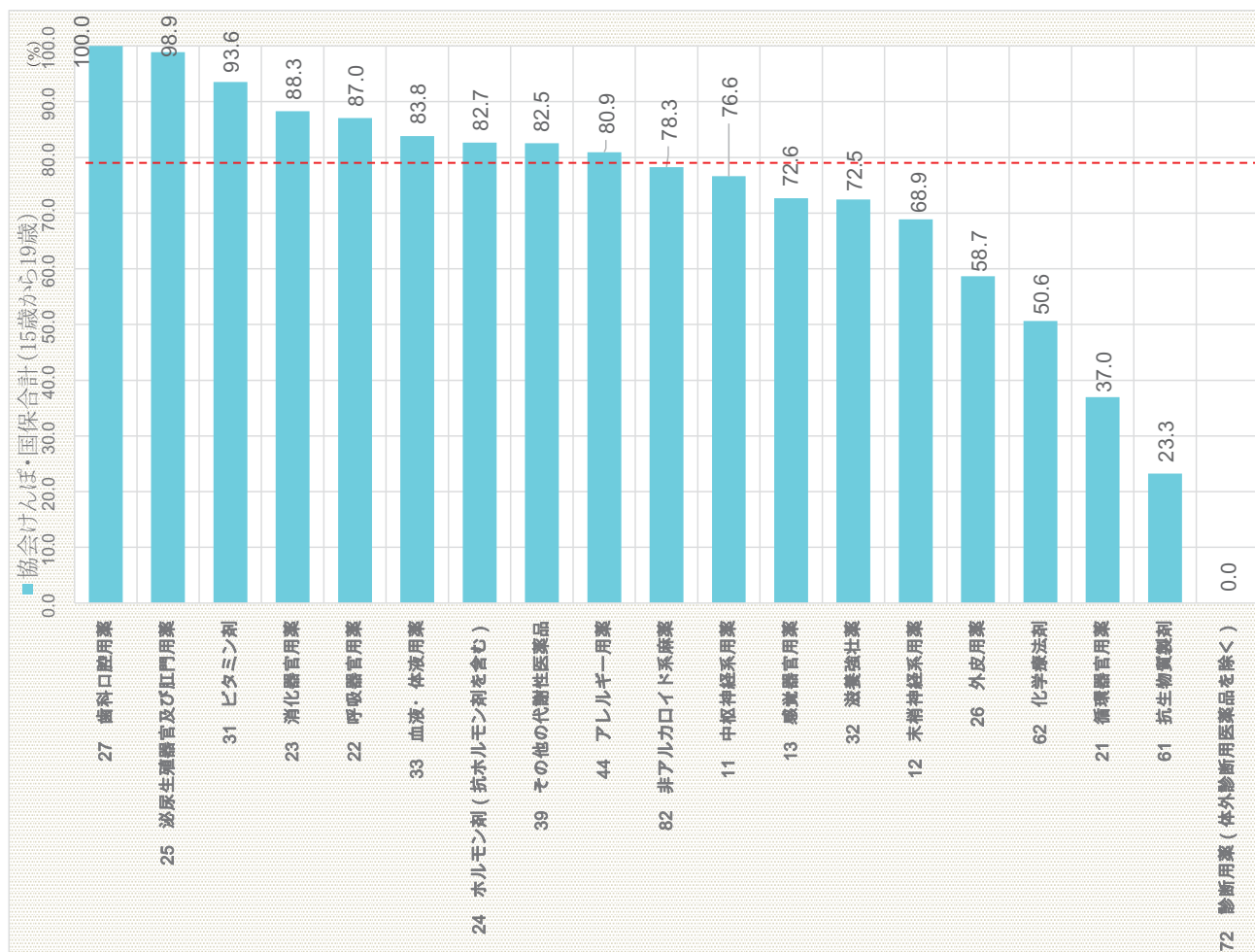
資料№.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (10歳から14歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数 切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	152
82 非アロカロイド系麻薬	100.0	25
42 腫瘍用薬	100.0	23
31 ビタミン剤	94.4	4,135
23 消化器官用薬	89.4	23,584
22 呼吸器官用薬	85.8	57,992
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	84.9	1,997
33 血液・体液用薬	83.8	75,911
13 感覚器官用薬	82.6	3,940
11 中枢神経系用薬	78.3	41,829
44 アレルギー用薬	76.6	112,242
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	73.5	608
12 末梢神経系用薬	67.9	1,675
32 滋養強壮薬	67.3	2,111
21 循環器官用薬	64.7	5,684
62 化学療法剤	61.1	1,143
26 外皮用薬	58.2	41,650
61 抗生物質製剤	57.4	7,774
39 その他の代謝性医薬品	25.0	3,404
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	0.0	4
		0

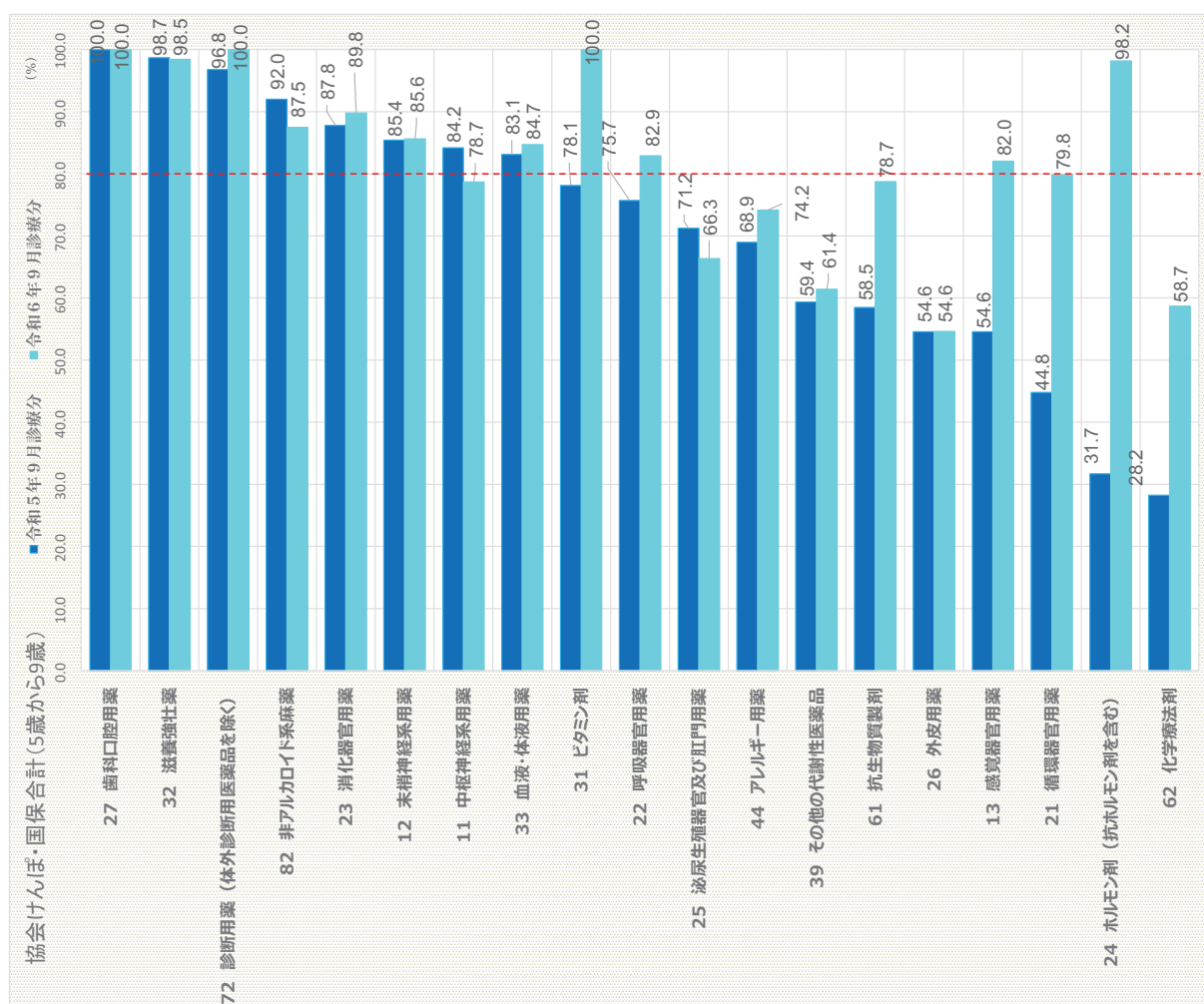
若い世代における薬効分類別の使用割合

資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (15歳から19歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	62
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	98.9	458
31 ビタミン剤	93.6	9,768
23 消化器官用薬	88.3	32,617
22 呼吸器官用薬	87.0	33,933
33 血液・体液用薬	83.8	67,109
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	82.7	6,869
39 その他の代謝性医薬品	82.5	9,546
44 アレルギー用薬	80.9	57,866
82 非アロカロイド系麻薬	78.3	92
11 中枢神経系用薬	76.6	66,576
13 感覚器官用薬	72.6	3,694
32 滋養強壮薬	72.5	3,964
12 末梢神経系用薬	68.9	3,516
26 外皮用薬	58.7	43,149
62 化学療法剤	50.6	2,754
21 循環器官用薬	37.0	11,086
61 抗生物質製剤	23.3	9,178
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	0.0	3
		0

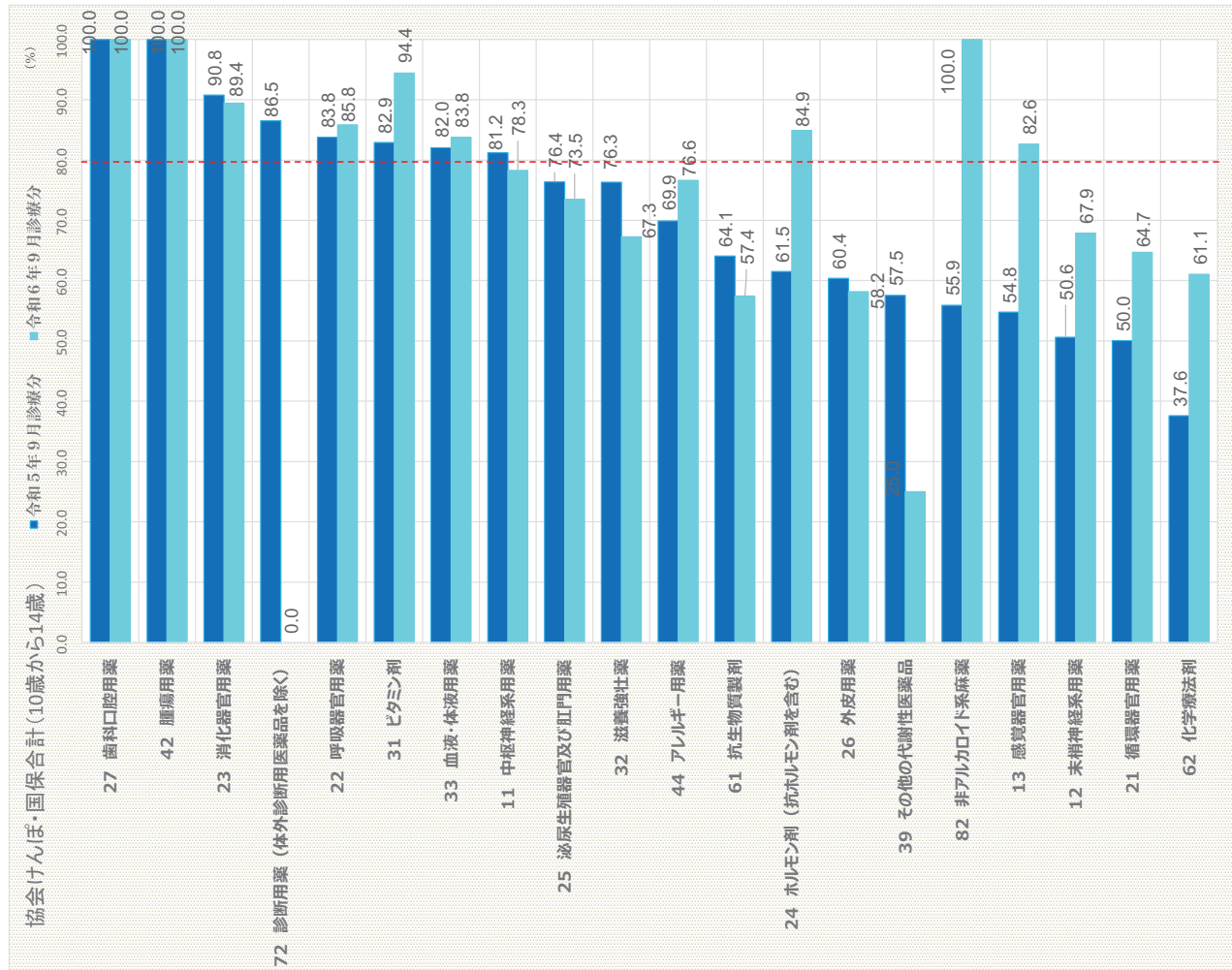
若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)



薬効分類	令和5年9月診療分			令和6年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	125	125	100.0	123	123
32 滋養強壮薬	98.7	543	536	98.5	1,642	1,617
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	96.8	31	30	100.0	1	1
82 非アルカロイド系麻薬	92.0	25	23	87.5	16	14
23 消化器官用薬	87.8	14,474	12,710	89.8	14,517	13,038
12 末梢神経系用薬	85.4	442	378	85.6	250	214
11 中枢神経系用薬	84.2	39,848	33,554	78.7	18,565	14,610
33 血液・体液用薬	83.1	93,377	77,594	84.7	108,221	91,664
31 ビタミン剤	78.1	135	106	100.0	73	73
22 呼吸器官用薬	75.7	137,252	103,911	82.9	140,709	116,646
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	71.2	313	223	66.3	796	528
44 アレルギ-用薬	68.9	173,496	119,625	74.2	190,444	141,273
39 その他の代謝性医薬品	59.4	2,917	1,732	61.4	6,236	3,829
61 抗生物質製剤	58.5	17,773	10,394	78.7	12,636	9,950
26 外用薬	54.6	31,184	17,024	54.6	25,058	13,683
13 感覚器官用薬	54.6	6,323	3,450	82.0	4,344	3,564
21 循環器官用薬	44.8	1,429	640	79.8	1,387	1,107
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	31.7	753	239	98.2	2,029	1,992
62 化学療法剤	28.2	3,675	1,037	58.7	2,202	1,293

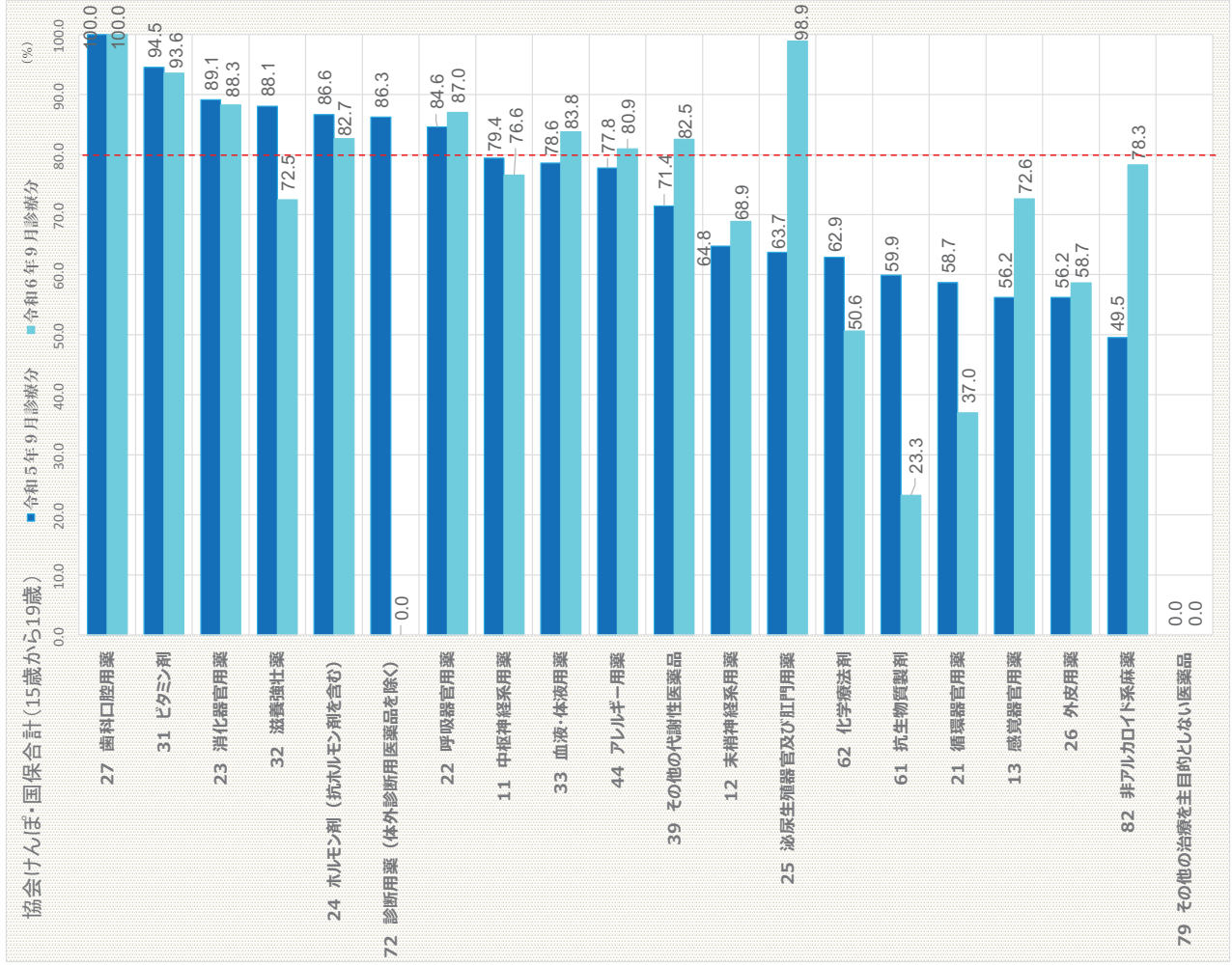
若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料№3-2



薬効分類別	令和5年9月診療分				令和6年9月診療分			
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
	27 歯科口腔用薬	100.0	117	117	100.0	117	117	100.0
42 腫瘍用薬	100.0	23	23	100.0	23	23	100.0	23
23 消化器官用薬	90.8	24,168	21,939	89.4	23,584	21,092	85.8	21,092
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	86.5	37	32	0.0	4	0	0.0	0
22 呼吸器官用薬	83.8	65,591	54,951	85.8	57,992	49,783	83.8	49,783
31 ビタミン剤	82.9	3,549	2,942	94.4	4,135	3,904	94.4	3,904
33 血液・体液用薬	82.0	68,675	56,339	83.8	75,911	63,608	83.8	63,608
11 中枢神経系用薬	81.2	60,320	48,991	78.3	41,829	32,753	78.3	32,753
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	76.4	466	356	73.5	608	447	73.5	447
32 滋養強壮薬	76.3	1,519	1,159	67.3	2,111	1,420	67.3	1,420
44 アレルギ-用薬	69.9	109,947	76,822	76.6	112,242	86,014	76.6	86,014
61 抗生物質製剤	64.1	16,050	10,285	57.4	7,774	4,466	57.4	4,466
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	61.5	1,186	730	84.9	1,997	1,696	84.9	1,696
26 外用用薬	60.4	43,775	26,442	58.2	41,650	24,238	58.2	24,238
39 その他の代謝性医薬品	57.5	5,364	3,086	25.0	3,404	852	25.0	852
82 非アルカロイド系麻薬	55.9	59	33	100.0	25	25	100.0	25
13 感覚器官用薬	54.8	5,671	3,106	82.6	3,940	3,256	82.6	3,256
12 末梢神経系用薬	50.6	1,672	847	67.9	1,675	1,138	67.9	1,138
21 循環器官用薬	50.0	6,018	3,011	64.7	5,684	3,677	64.7	3,677
62 化学療法剤	37.6	2,276	856	61.1	1,143	698	61.1	698

若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)



薬効分類	令和5年9月診療分		令和6年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	38	100.0	62
31 ビタミン剤	94.5	8,962	93.6	9,768
23 消化器官用薬	89.1	30,195	88.3	32,617
32 滋養強壮薬	88.1	3,550	72.5	3,964
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	86.6	6,616	82.7	6,869
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	86.3	51	87.0	3
22 呼吸器官用薬	84.6	32,996	76.6	33,933
11 中枢神経系用薬	79.4	78,010	76.6	66,576
33 血液・体液用薬	78.6	64,470	83.8	67,109
44 アレルギ-用薬	77.8	60,035	80.9	57,866
39 その他の代謝性医薬品	71.4	8,894	82.5	9,546
12 末梢神経系用薬	64.8	2,990	68.9	3,516
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	63.7	540	98.9	458
62 化学療法剤	62.9	2,072	50.6	2,754
61 抗生物質製剤	59.9	18,927	23.3	9,178
21 循環器官用薬	58.7	11,737	37.0	11,086
13 感覚器官用薬	56.2	5,060	72.6	3,694
26 外用薬	56.2	47,065	58.7	43,149
82 非アロカロイド系麻薬	49.5	105	78.3	92
79 その他の治療を主目的としない医薬品	0.0	7	-	-

4. 統計分析 (4)後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合

(資料No.4-1、4-2、4-3)

《使用割合の状況(総数)》

- 75歳以上の使用割合の総数は、83.2%であり、昨年度より2.7ポイント伸び、国及び山梨県で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.4-2より

	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
使用割合(総数)	80.5%	83.2%	2.7

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 75歳以上の使用割合が高い薬剤については、人工透析用薬100%、その他の治療を主目的としない医薬品100%、アルカロイド系麻薬(天然麻薬)100%という状況である。
- 75歳以上の使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品0%、その他の個々の器官系用医薬品4%、非アルカロイド系麻薬24%という状況である。

【75歳以上において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.4-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (92/92)	100%	非アルカロイド系麻薬 (922/3,842)	24%
その他の治療を主目的としない 医薬品(5/5)	100%	その他の個々の器官系用医薬 品(200/4,986)	4%
アルカロイド系麻薬(天然麻薬) (27/27)	100%	放射性医薬品 (0/9,525)	0%

《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、人工透析用薬であり、100ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.4-3より

薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差(%pt)
34 人工透析用薬	-	100%	100
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	5.8%	100%	94.2
81 アルカロイド系麻薬 (天然麻薬)	49.1%	100%	50.9

《使用割合が高い年齢階級の状況及び昨年度との比較》

- 年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、89.3%である。
また、全ての年齢階級で、80%を超えている。
- 昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、100歳以上の年齢階級で昨年度から4.9ポイント伸びている。

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳から 79歳	80歳から 84歳	85歳から 89歳	90歳から 94歳	95歳から 99歳	100歳以上
令和5年9月	80.2%	79.8%	80.4%	81.8%	83.0%	84.4%
令和6年9月	82.9%	82.4%	83.3%	84.2%	86.0%	89.3%
差(%pt)	2.7	2.6	2.9	2.4	3.0	4.9

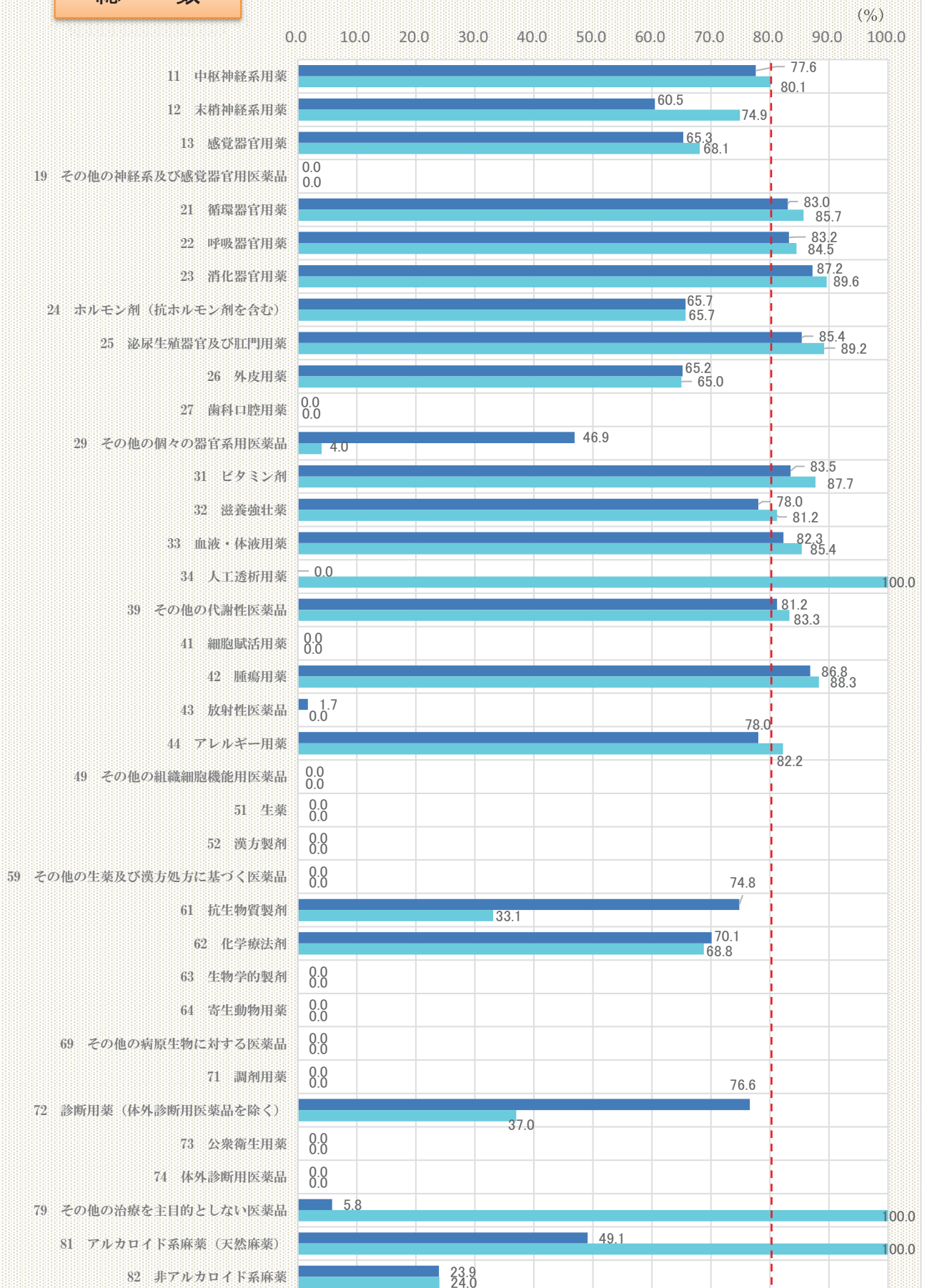
75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1

総数

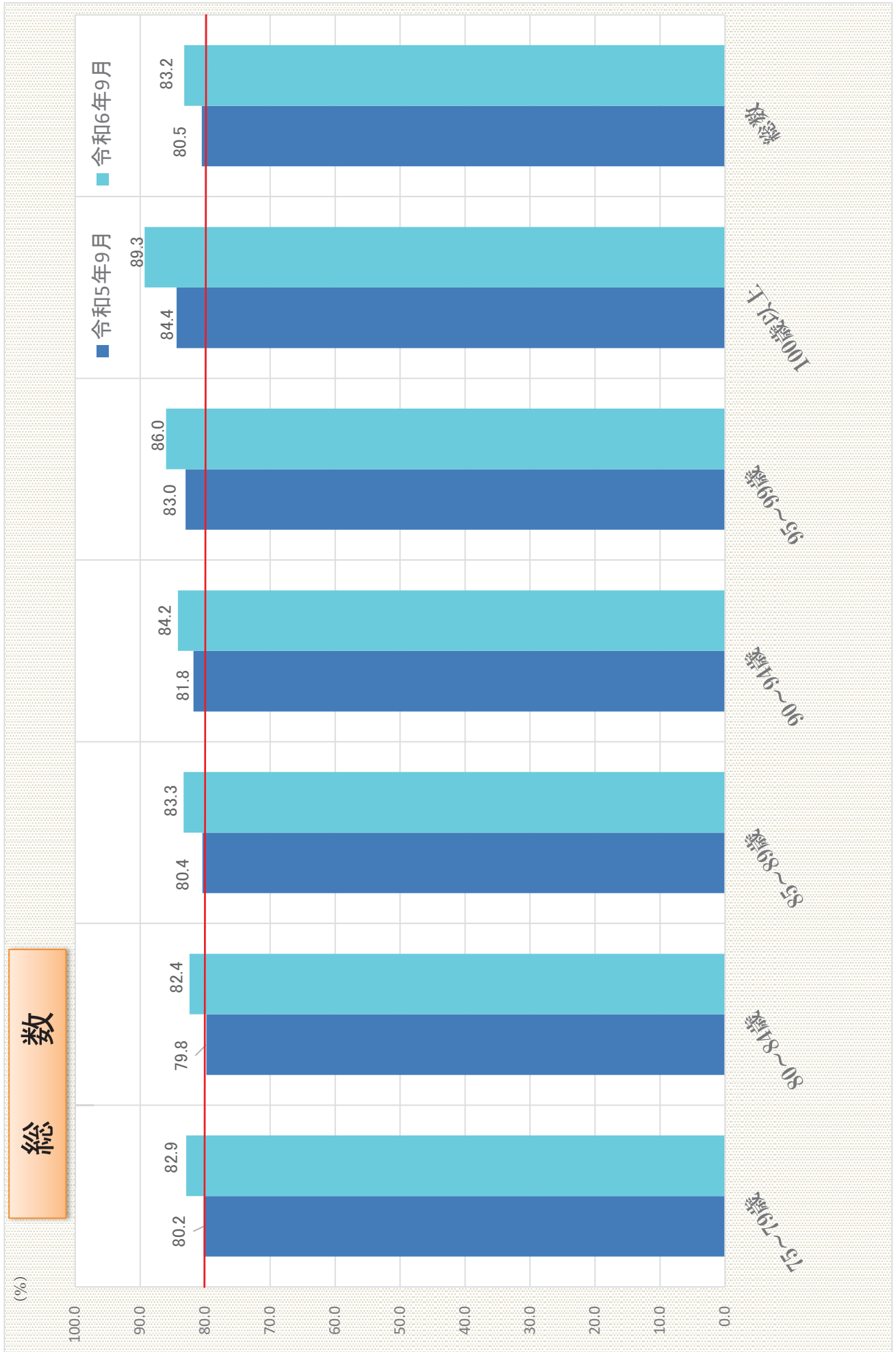
■ 令和5年9月

■ 令和6年9月



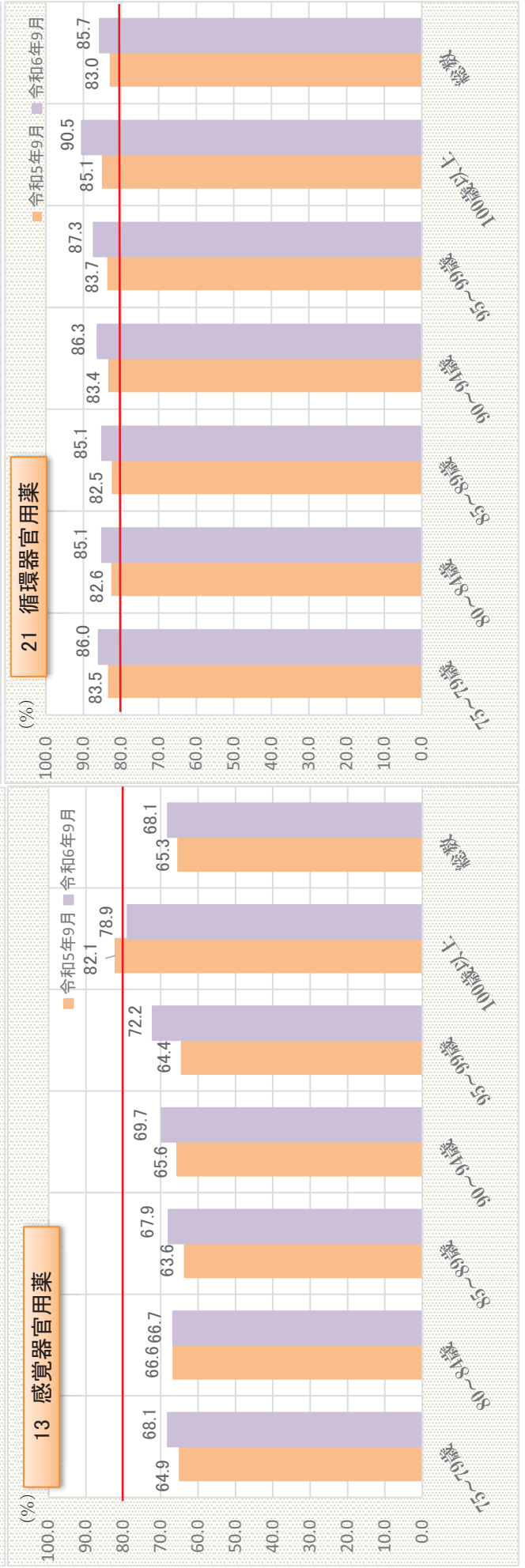
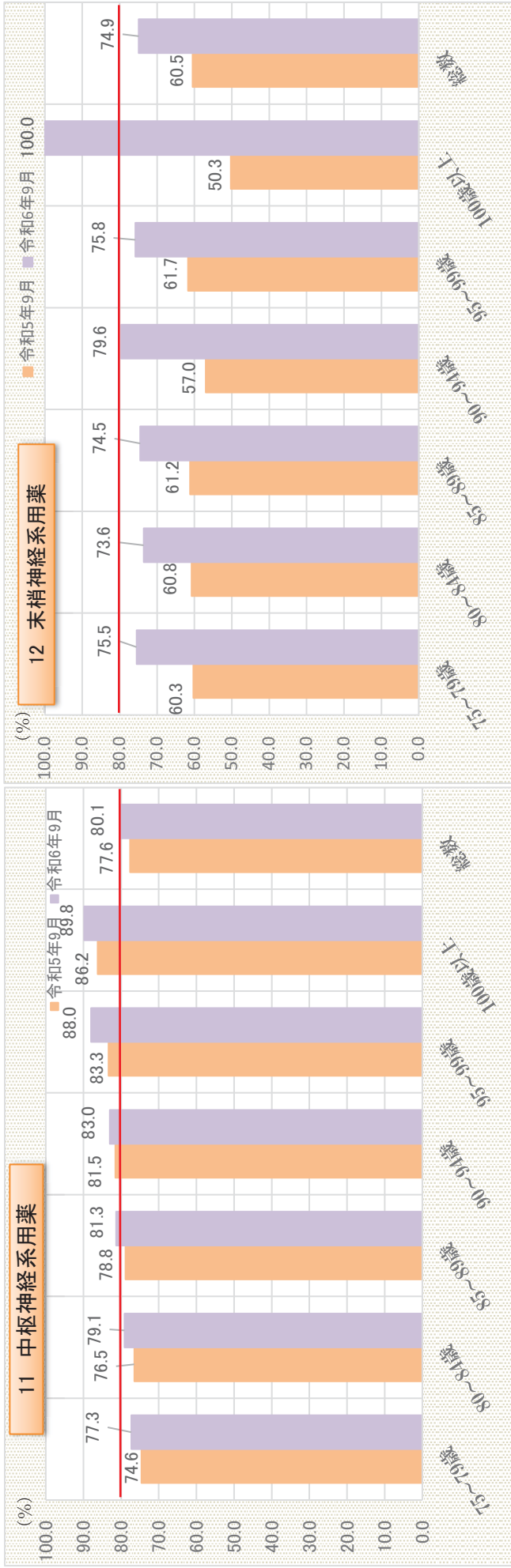
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



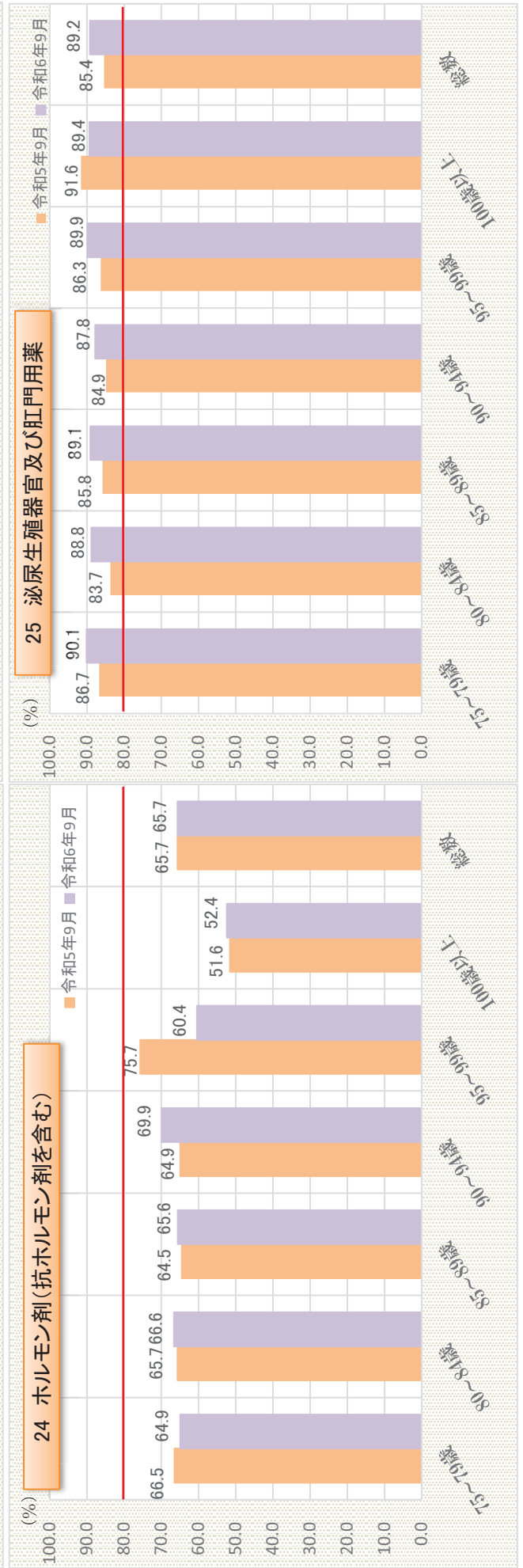
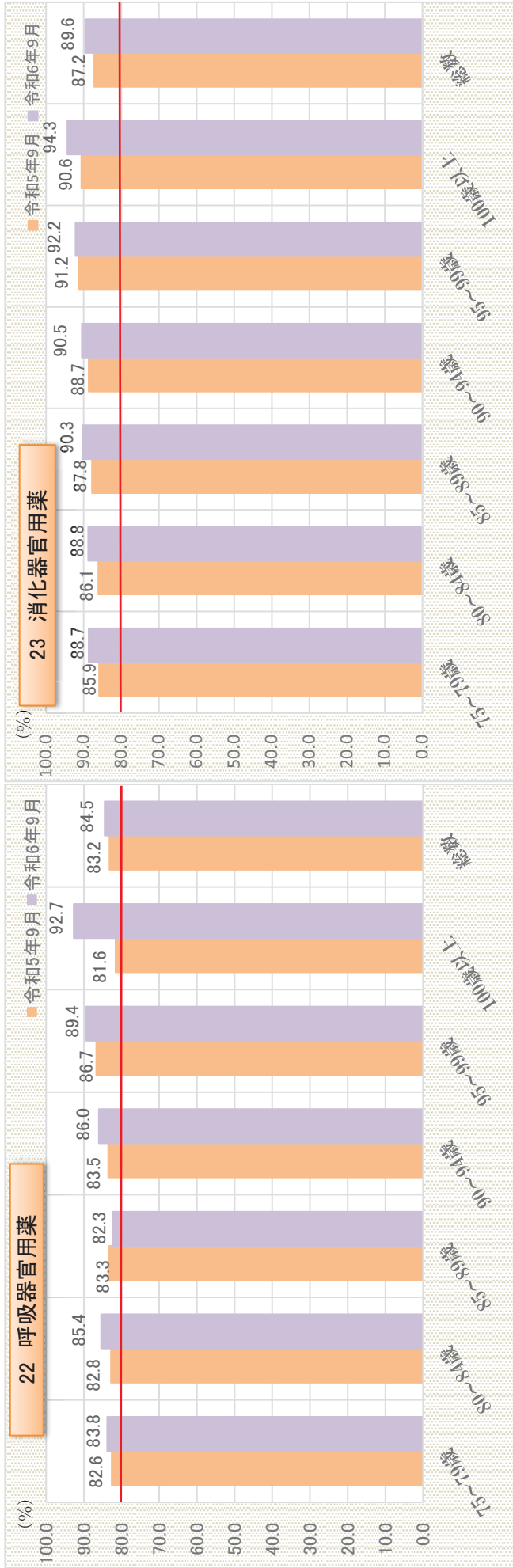
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



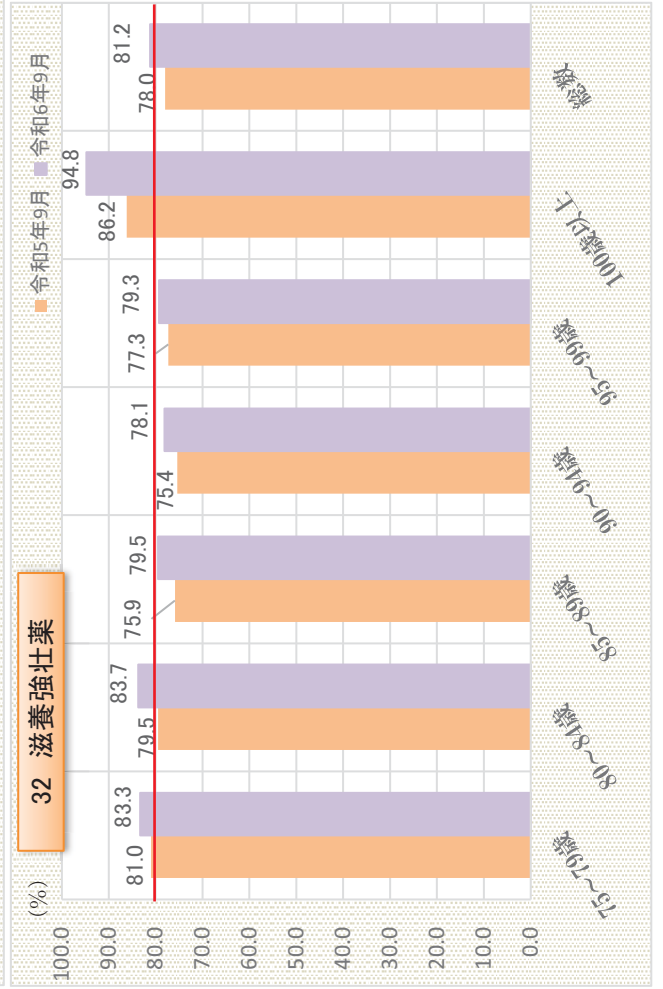
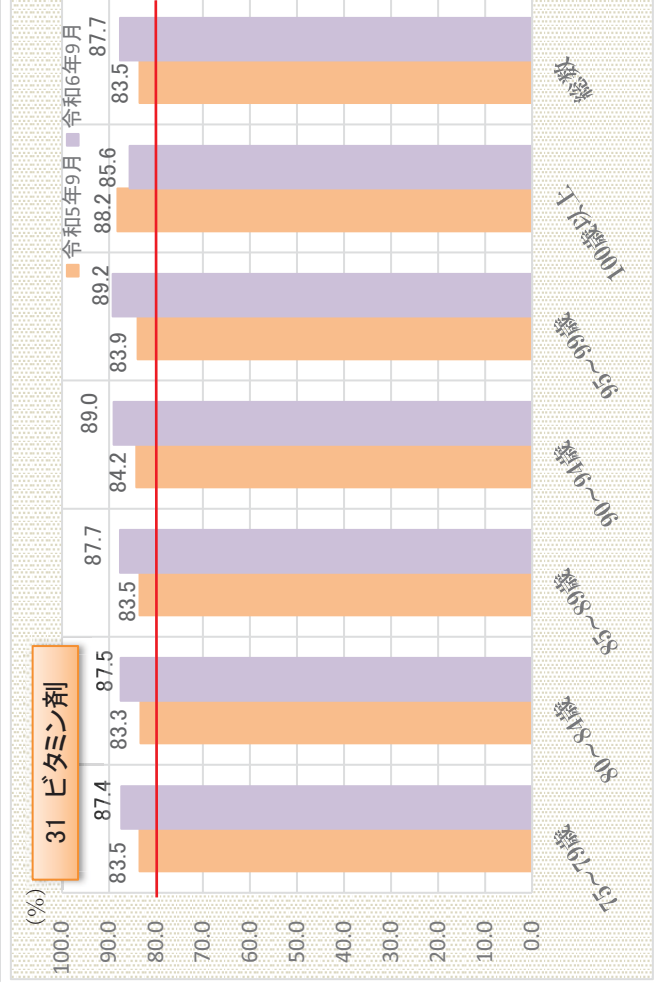
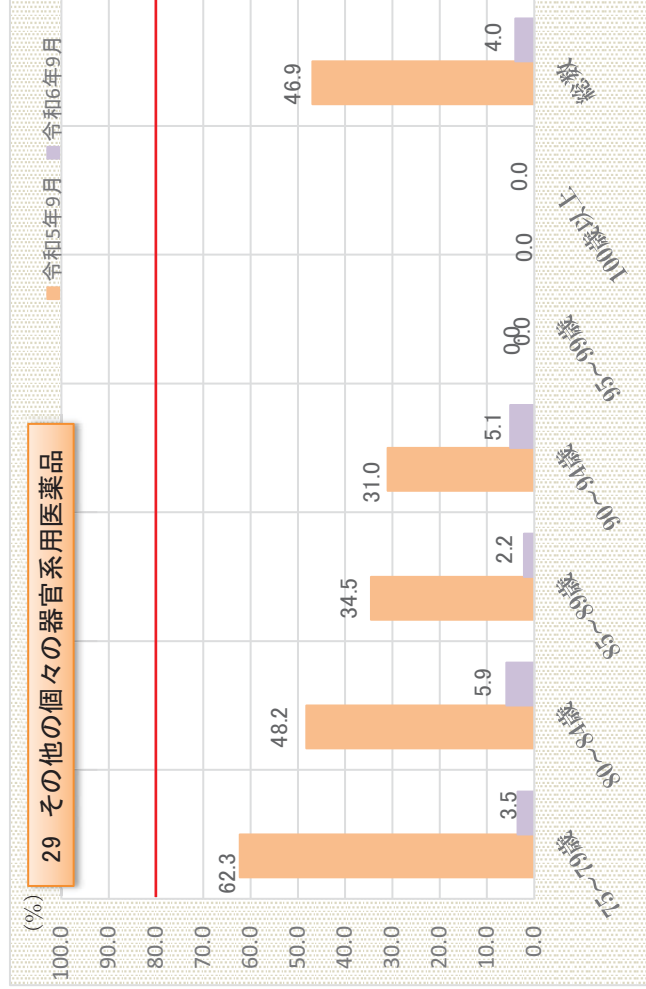
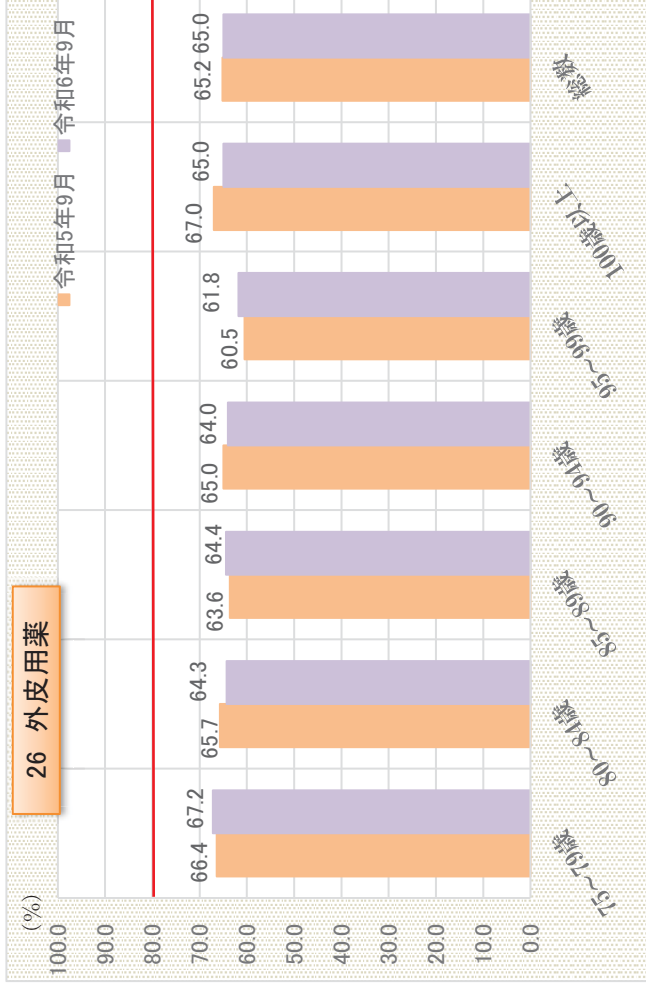
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



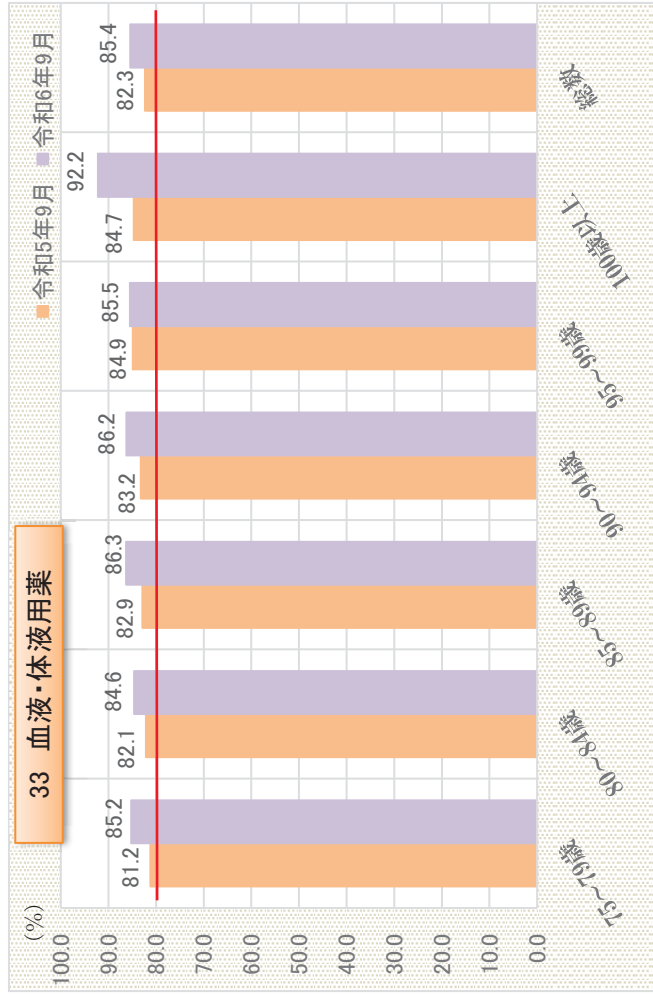
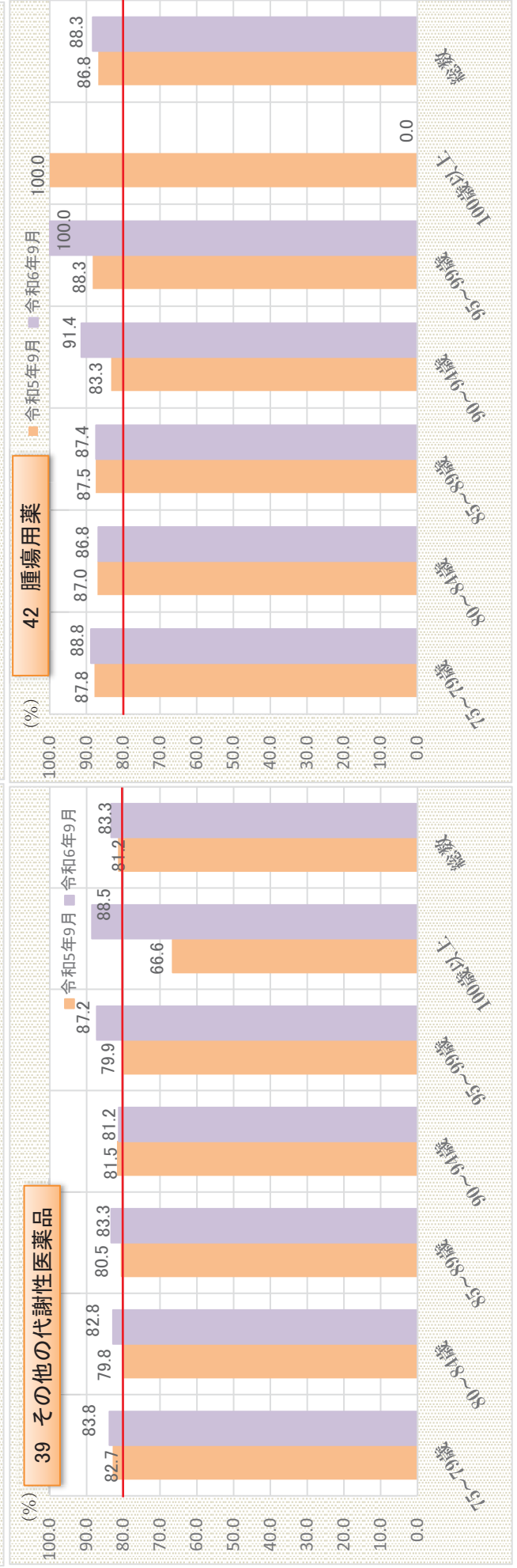
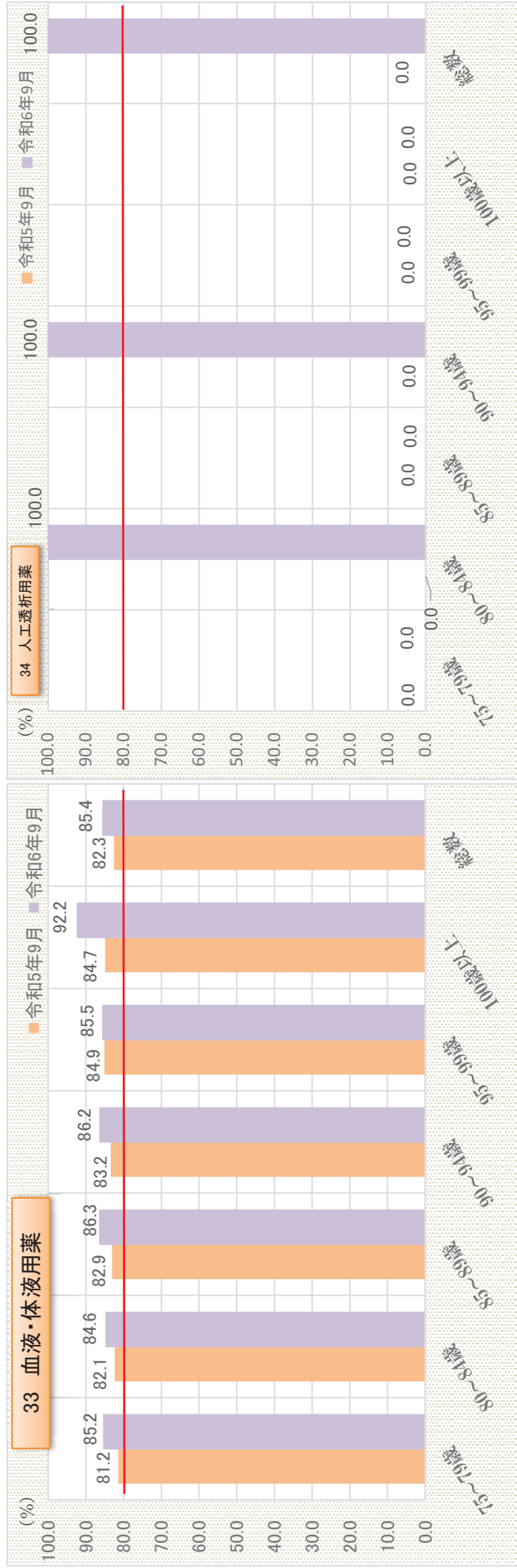
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



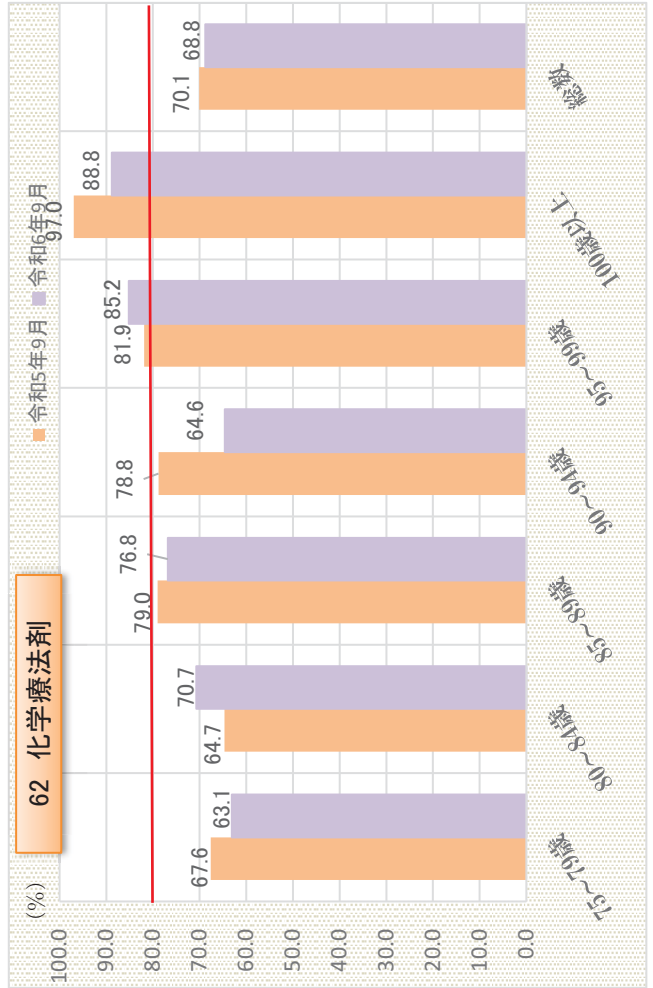
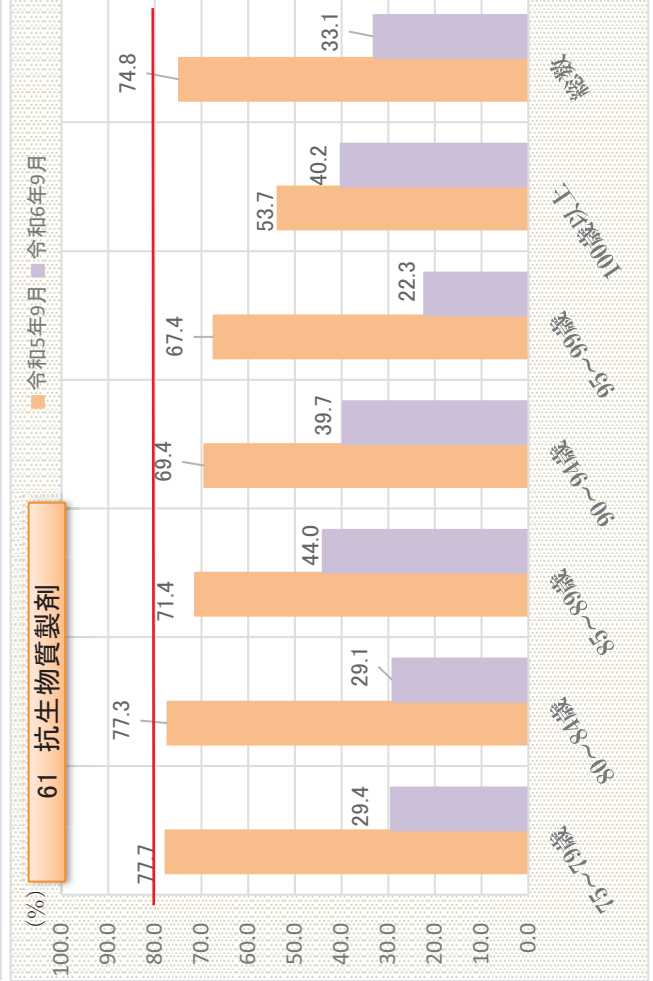
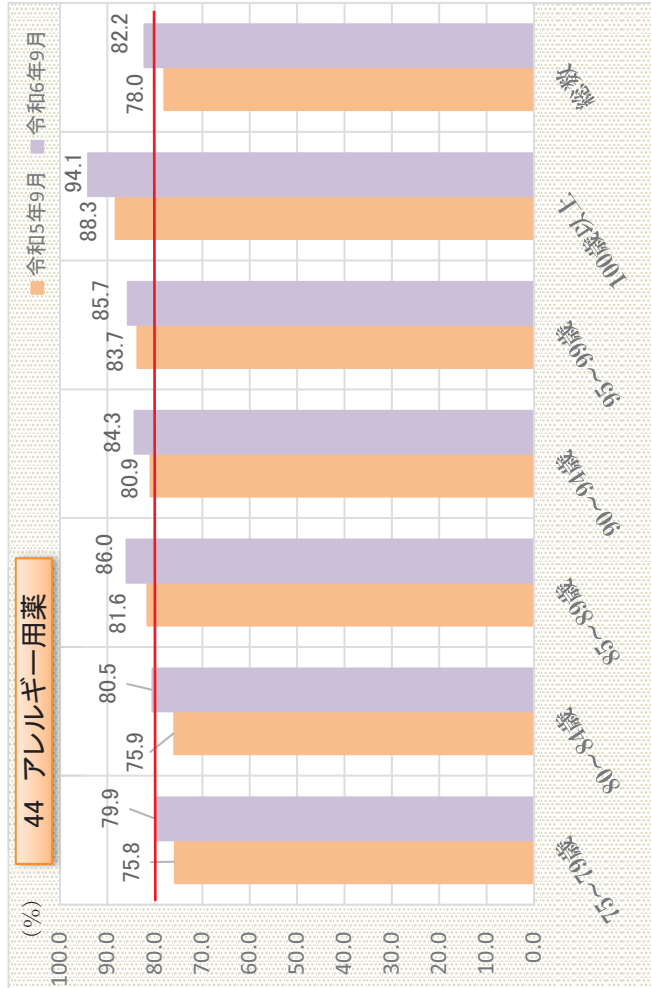
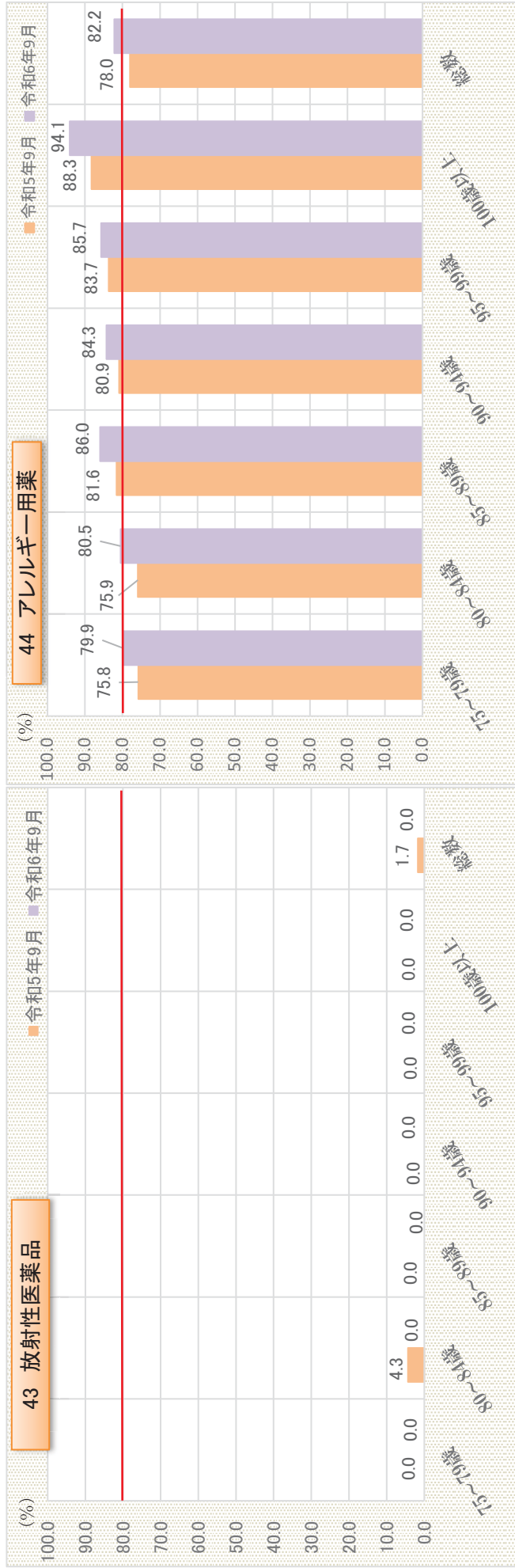
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



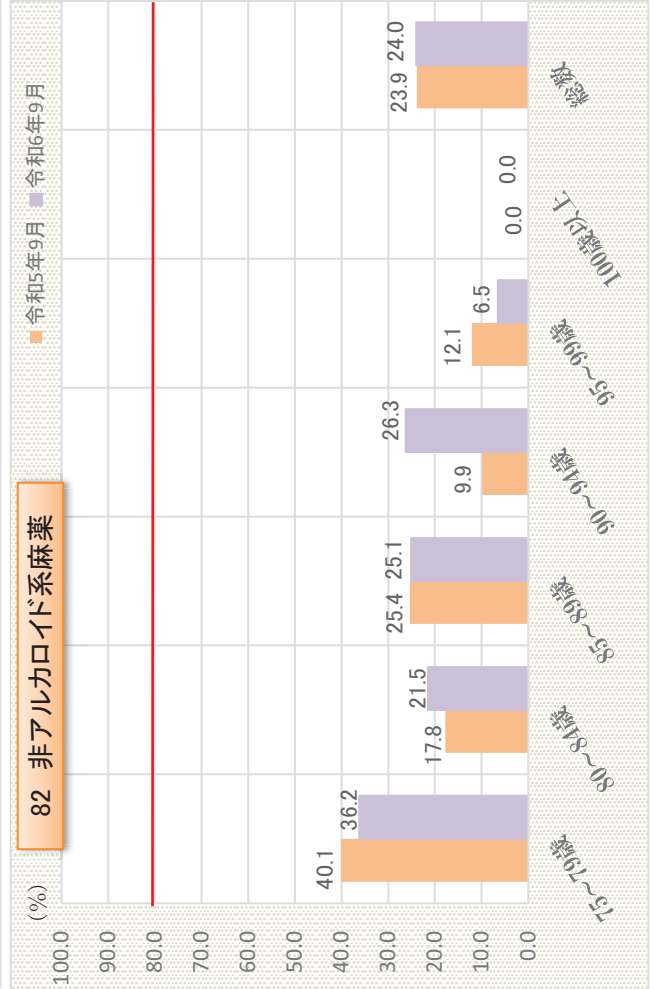
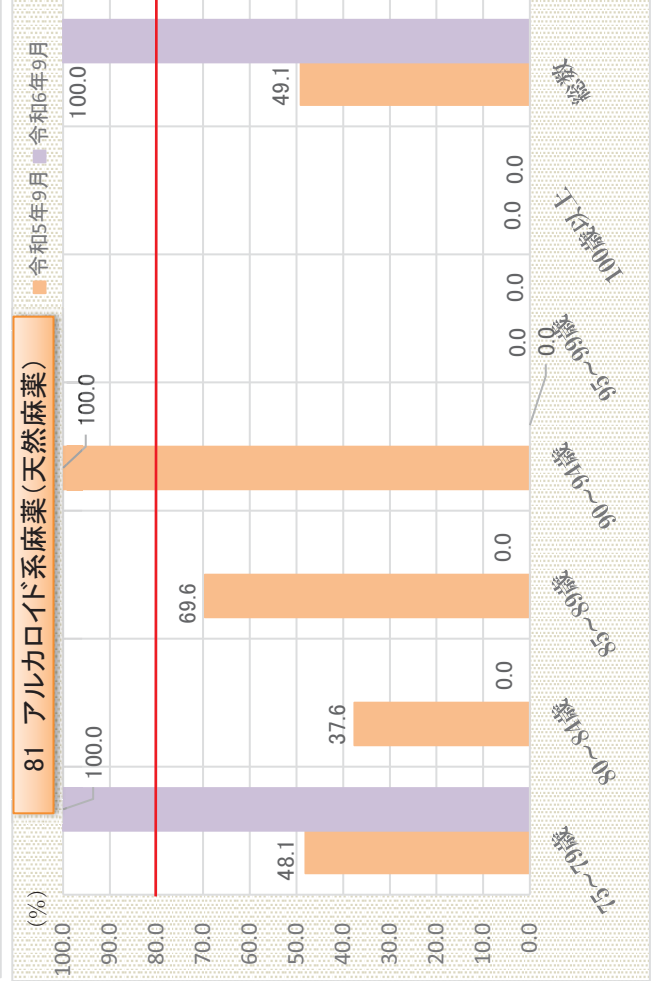
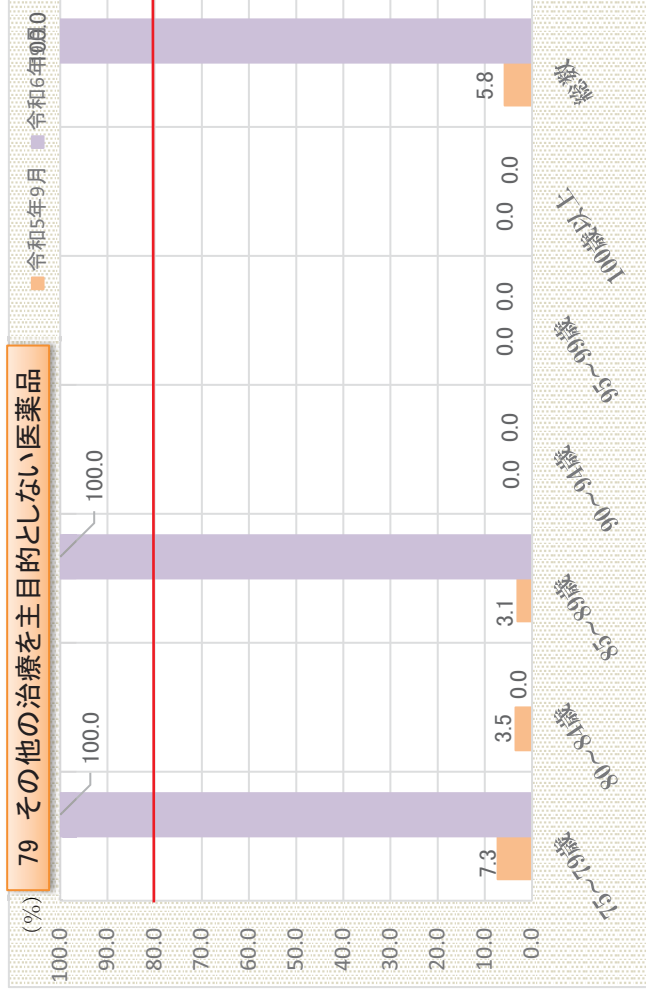
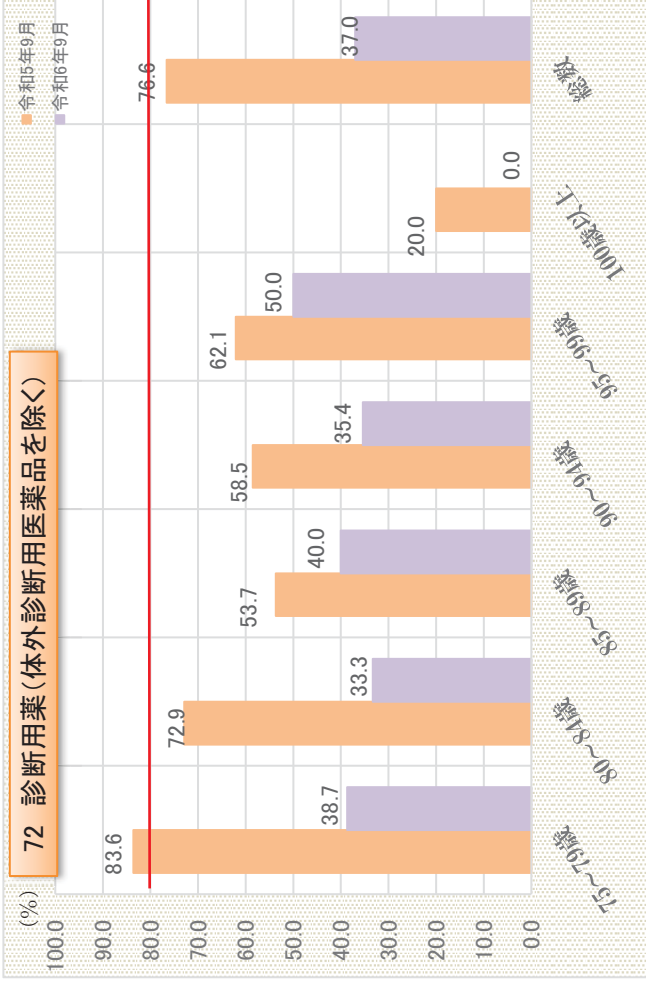
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-2

薬効分類別	令和5年9月診療分			令和6年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	80.5	24,974,824	20,096,485	83.2	23,684,194	19,695,150
11 中枢神経系用薬	77.6	3,297,792	2,557,473	80.1	3,171,151	2,538,980
12 末梢神経系用薬	60.5	199,535	120,767	74.9	163,680	122,652
13 感覚器官用薬	65.3	390,739	255,125	68.1	388,139	264,312
19 その他の神経系及び感覚器官用医薬品	—	0	0	—	0	0
21 循環器官用薬	83.0	7,128,243	5,919,464	85.7	7,072,693	6,058,265
22 呼吸器官用薬	83.2	611,873	508,939	84.5	592,963	501,297
23 消化器官用薬	87.2	4,463,205	3,892,227	89.6	4,230,374	3,789,776
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	65.7	166,900	109,590	65.7	171,921	112,966
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	85.4	644,458	550,333	89.2	624,139	556,584
26 外皮用薬	65.2	2,370,133	1,545,522	65.0	1,960,215	1,274,873
27 歯科口腔用薬	—	0	0	—	0	0
29 その他の個々の器官系用医薬品	46.9	6,284	2,947	4.0	4,986	200
31 ビタミン剤	83.5	1,244,774	1,039,755	87.7	1,213,728	1,064,686
32 滋養強壯薬	78.0	209,450	163,357	81.2	219,556	178,225
33 血液・体液用薬	82.3	1,945,087	1,600,659	85.4	1,858,257	1,587,236
34 人工透析用薬	—	0	0	100.0	92	92
39 その他の代謝性医薬品	81.2	1,607,762	1,306,038	83.3	1,418,968	1,181,477
41 細胞賦活用薬	—	0	0	—	0	0
42 腫瘍用薬	86.8	79,017	68,608	88.3	84,012	74,181
43 放射性医薬品	1.7	9,611	167	0.0	9,525	0
44 アレルギー用薬	78.0	411,232	320,870	82.2	407,749	335,154
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	0	0	—	0	0
51 生薬	—	0	0	—	0	0
52 漢方製剤	—	0	0	—	0	0
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	0	0	—	0	0
61 抗生物質製剤	74.8	104,099	77,883	33.1	20,509	6,779
62 化学療法剤	70.1	72,054	50,507	68.8	67,295	46,326
63 生物学的製剤	—	0	0	—	0	0
64 寄生動物用薬	—	0	0	—	0	0
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	0	0	—	0	0
71 調剤用薬	—	0	0	—	0	0
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	76.6	4,206	3,222	37.0	368	137
73 公衆衛生用薬	—	0	0	—	0	0
74 体外診断用医薬品	—	0	0	—	0	0
79 その他の治療を主目的としない医薬品	5.8	258	15	100.0	5	5
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	49.1	4,265	2,096	100.0	27	27
82 非アルカロイド系麻薬	23.9	3,847	921	24.0	3,842	922

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
総 数	令和5年9月	80.2	79.8	80.4	81.8	83.0	84.4	80.5
	令和6年9月	82.9	82.4	83.3	84.2	86.0	89.3	83.2
	差	2.7	2.6	2.9	2.4	3.0	4.9	2.7
11 中枢神経系用薬	令和5年9月	74.6	76.5	78.8	81.5	83.3	86.2	77.6
	令和6年9月	77.3	79.1	81.3	83.0	88.0	89.8	80.1
	差	2.7	2.6	2.5	1.5	4.7	3.6	2.5
12 末梢神経系用薬	令和5年9月	60.3	60.8	61.2	57.0	61.7	50.3	60.5
	令和6年9月	75.5	73.6	74.5	79.6	75.8	100.0	74.9
	差	15.2	12.8	13.3	22.6	14.1	49.7	14.4
13 感覚器官用薬	令和5年9月	64.9	66.6	63.6	65.6	64.4	82.1	65.3
	令和6年9月	68.1	66.7	67.9	69.7	72.2	78.9	68.1
	差	3.2	0.1	4.3	4.1	7.8	△ 3.2	2.8
19 その他の神経系及び感覚器官 用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器官用薬	令和5年9月	83.5	82.6	82.5	83.4	83.7	85.1	83.0
	令和6年9月	86.0	85.1	85.1	86.3	87.3	90.5	85.7
	差	2.5	2.5	2.6	2.9	3.6	5.4	2.7
22 呼吸器官用薬	令和5年9月	82.6	82.8	83.3	83.5	86.7	81.6	83.2
	令和6年9月	83.8	85.4	82.3	86.0	89.4	92.7	84.5
	差	1.2	2.6	△ 1.0	2.5	2.7	11.1	1.3
23 消化器官用薬	令和5年9月	85.9	86.1	87.8	88.7	91.2	90.6	87.2
	令和6年9月	88.7	88.8	90.3	90.5	92.2	94.3	89.6
	差	2.8	2.7	2.5	1.8	1.0	3.7	2.4
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	令和5年9月	66.5	65.7	64.5	64.9	75.7	51.6	65.7
	令和6年9月	64.9	66.6	65.6	69.9	60.4	52.4	65.7
	差	△ 1.6	0.9	1.1	5.0	△ 15.3	0.8	0.0
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	令和5年9月	86.7	83.7	85.8	84.9	86.3	91.6	85.4
	令和6年9月	90.1	88.8	89.1	87.8	89.9	89.4	89.2
	差	3.4	5.1	3.3	2.9	3.6	△ 2.2	3.8
26 外皮用薬	令和5年9月	66.4	65.7	63.6	65.0	60.5	67.0	65.2
	令和6年9月	67.2	64.3	64.4	64.0	61.8	65.0	65.0
	差	0.8	△ 1.4	0.8	△ 1.0	1.3	△ 2.0	△ 0.2
27 歯科口腔用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和5年9月	62.3	48.2	34.5	31.0	0.0	—	46.9
	令和6年9月	3.5	5.9	2.2	5.1	0.0	—	4.0
	差	△ 58.8	△ 42.3	△ 32.3	△ 25.9	0.0	—	△ 42.9
31 ビタミン剤	令和5年9月	83.5	83.3	83.5	84.2	83.9	88.2	83.5
	令和6年9月	87.4	87.5	87.7	89.0	89.2	85.6	87.7
	差	3.9	4.2	4.2	4.8	5.3	△ 2.6	4.2
32 滋養強壯薬	令和5年9月	81.0	79.5	75.9	75.4	77.3	86.2	78.0
	令和6年9月	83.3	83.7	79.5	78.1	79.3	94.8	81.2
	差	2.3	4.2	3.6	2.7	2.0	8.6	3.2
33 血液・体液用薬	令和5年9月	81.2	82.1	82.9	83.2	84.9	84.7	82.3
	令和6年9月	85.2	84.6	86.3	86.2	85.5	92.2	85.4
	差	4.0	2.5	3.4	3.0	0.6	7.5	3.1
34 人工透析用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	100.0	—	100.0	—	—	100.0
	差	—	100.0	—	100.0	—	—	100.0
39 その他の代謝性医薬品	令和5年9月	82.7	79.8	80.5	81.5	79.9	66.6	81.2
	令和6年9月	83.8	82.8	83.3	81.2	87.2	88.5	83.3
	差	1.1	3.0	2.8	△ 0.3	7.3	21.9	2.1
41 細胞賦活用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
42 腫瘍用薬	令和5年9月	87.8	87.0	87.5	83.3	88.3	100.0	86.8
	令和6年9月	88.8	86.8	87.4	91.4	100.0	—	88.3
	差	1.0	△ 0.2	△ 0.1	8.1	11.7	△ 100.0	1.5
43 放射性医薬品	令和5年9月	0.0	4.3	0.0	0.0	—	—	1.7
	令和6年9月	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0
	差	0.0	△ 4.3	0.0	0.0	—	—	△ 1.7
44 アレルギー用薬	令和5年9月	75.8	75.9	81.6	80.9	83.7	88.3	78.0
	令和6年9月	79.9	80.5	86.0	84.3	85.7	94.1	82.2
	差	4.1	4.6	4.4	3.4	2.0	5.8	4.2
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和5年9月	77.7	77.3	71.4	69.4	67.4	53.7	74.8
	令和6年9月	29.4	29.1	44.0	39.7	22.3	40.2	33.1
	差	△ 48.3	△ 48.2	△ 27.4	△ 29.7	△ 45.1	△ 13.5	△ 41.7
62 化学療法剤	令和5年9月	67.6	64.7	79.0	78.8	81.9	97.0	70.1
	令和6年9月	63.1	70.7	76.8	64.6	85.2	88.8	68.8
	差	△ 4.5	6.0	△ 2.2	△ 14.2	3.3	△ 8.2	△ 1.3
63 生物学的製剤	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和5年9月	83.6	72.9	53.7	58.5	62.1	20.0	76.6
	令和6年9月	38.7	33.3	40.0	35.4	50.0	0.0	37.0
	差	△ 44.9	△ 39.6	△ 13.7	△ 23.1	△ 12.1	△ 20.0	△ 39.6
73 公衆衛生用薬	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	令和5年9月	7.3	3.5	3.1	0.0	—	—	5.8
	令和6年9月	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0
	差	92.7	△ 3.5	96.9	0.0	—	—	94.2
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和5年9月	48.1	37.6	69.6	100.0	0.0	—	49.1
	令和6年9月	100.0	—	—	—	—	—	100.0
	差	51.9	△ 37.6	△ 69.6	△ 100.0	0.0	—	50.9
82 非アルカロイド系麻薬	令和5年9月	40.1	17.8	25.4	9.9	12.1	0.0	23.9
	令和6年9月	36.2	21.5	25.1	26.3	6.5	0.0	24.0
	差	△ 3.9	3.7	△ 0.3	16.4	△ 5.6	0.0	0.1

4. 統計分析 (5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合

(資料No.5-1、5-2)

≪使用割合の状況(総数)≫

○協会けんぽ、国保、後期を合算した使用割合の総数は、83.2%であり、昨年度より2.4ポイント伸びている。

※資料No.5-2より

	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差
使用割合(総数)	80.8%	83.2%	2.4

≪使用割合の状況(薬効分類別)≫

○使用割合が高い薬剤については、人工透析薬 100%、アルカロイド系麻薬(天然麻薬) 100%、歯科口腔用薬 96.7%という状況である。

○使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品 0%、その他の個々の器官系用医薬品 3.8%、診断用薬 30.5%という状況である。

【使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.5-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (146/146)	100%	放射性医薬品 (0/11,133)	0%
アルカロイド系麻薬(天然麻薬) (196/196)	100%	その他の個々の器官系用医薬品 (6,802/26,025)	3.8%
歯科口腔用薬 (1,997/2,065)	96.7%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (281/921)	30.5%

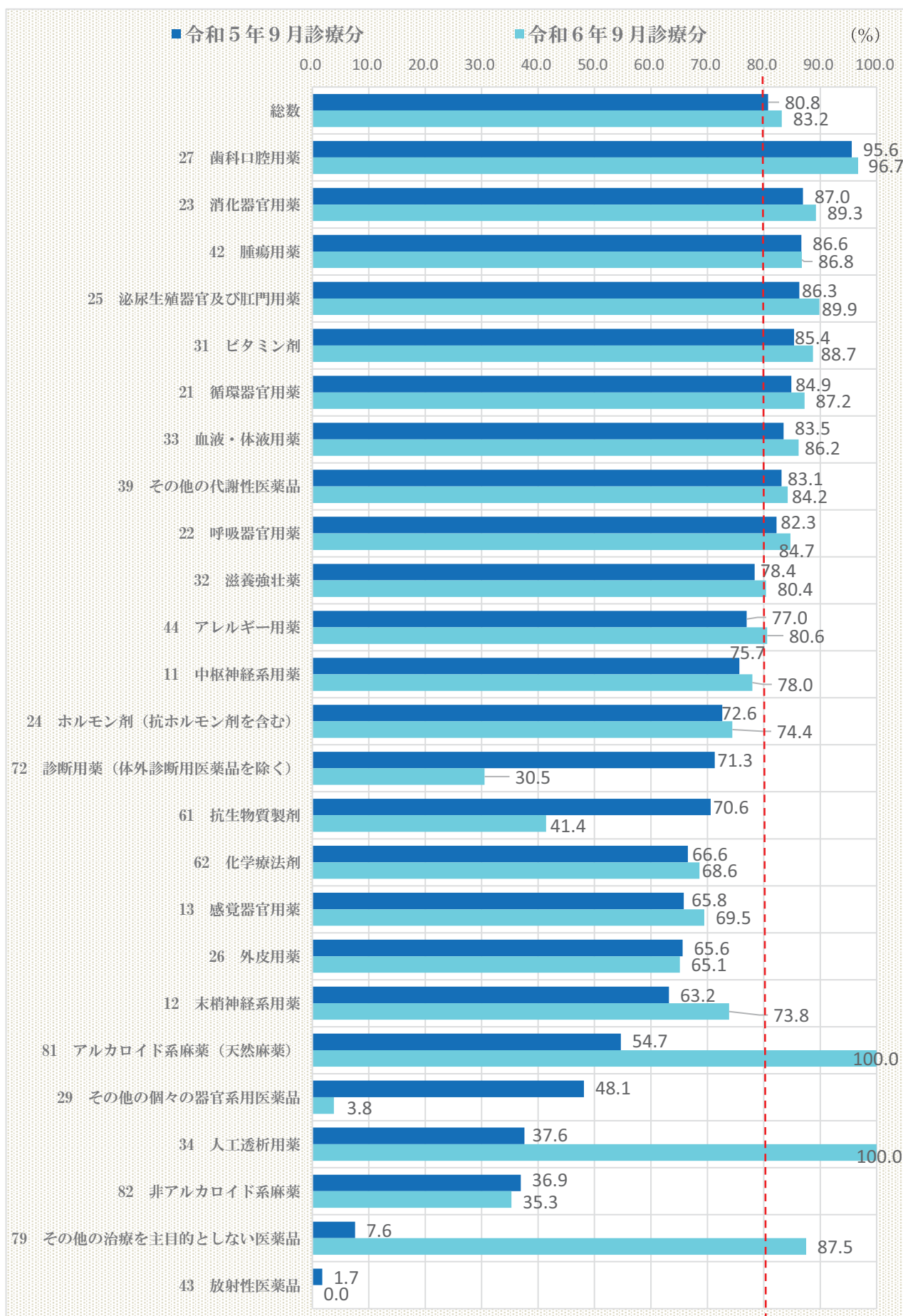
≪昨年度との比較≫

○昨年度から最も伸びたのは、その他の治療を主目的としない医薬品であり、79.9ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.5-2より

薬効分類別	令和5年9月診療分	令和6年9月診療分	差(%pt)
79 その他の治療を主目的としない医薬品	7.6%	87.5%	79.9
34 人工透析用薬	37.6%	100%	62.4
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	54.7%	100%	45.3



協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.5-2

薬効分類別	令和5年9月診療分			令和6年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	80.8	48,196,523	38,931,569	83.2	45,061,099	37,494,582
27 歯科口腔用薬	95.6	1,682	1,608	96.7	2,065	1,997
23 消化器官用薬	87.0	7,418,798	6,451,496	89.3	7,013,257	6,260,383
42 腫瘍用薬	86.6	161,237	139,703	86.8	165,732	143,777
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	86.3	932,159	804,546	89.9	894,845	804,026
31 ビタミン剤	85.4	1,997,548	1,705,298	88.7	1,953,077	1,733,185
21 循環器官用薬	84.9	13,145,379	11,157,612	87.2	12,765,743	11,133,205
33 血液・体液用薬	83.5	3,597,506	3,004,345	86.2	3,473,281	2,993,509
39 その他の代謝性医薬品	83.1	3,628,167	3,016,701	84.2	2,924,028	2,463,463
22 呼吸器官用薬	82.3	1,710,488	1,407,257	84.7	1,690,618	1,432,590
32 滋養強壮薬	78.4	335,105	262,618	80.4	357,064	287,063
44 アレルギー用薬	77.0	1,740,041	1,339,245	80.6	1,765,996	1,423,643
11 中枢神経系用薬	75.7	7,373,725	5,579,946	78.0	6,974,011	5,437,739
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	72.6	372,221	270,417	74.4	401,203	298,636
72 診断用薬(体外診断用医薬品を)	71.3	7,490	5,342	30.5	921	281
61 抗生物質製剤	70.6	355,771	251,116	41.4	90,562	37,511
62 化学療法剤	66.6	188,275	125,304	68.6	162,349	111,378
13 感覚器官用薬	65.8	685,327	451,003	69.5	665,958	462,573
26 外皮用薬	65.6	4,034,595	2,647,796	65.1	3,335,115	2,172,083
12 末梢神経系用薬	63.2	468,124	295,751	73.8	397,712	293,659
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	54.7	10,966	5,996	100.0	196	196
29 その他の個々の器官系用医薬品	48.1	9480	4563.5	3.8	6802	260.25
34 人工透析用薬	37.6	141	53	100.0	146	146
82 非アルカロイド系麻薬	36.9	9,723	3,591	35.3	9,278	3,273
79 その他の治療を主目的としない医薬品	7.6	738	56	87.5	8	7
43 放射性医薬品	1.7	11,836	207	0.0	11,133	0

4. 統計分析 (6) 山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合

(資料No.6-1、6-2、6-3)

1. 使用データの概要

- 厚生労働省ホームページに掲載された、保険者別の後発医薬品の使用割合(数量シェア)を使用する。 ※毎年度、9月・3月診療分が掲載される。
- 今回使用するデータは令和4年3月分～令和6年3月分となる(令和7年3月時点掲載)

※以下、2. ～3. については、「データに係る留意点」より抜粋

2. 集計に当たっての保険者の単位等

(1)全保険者種別の共通事項

- 原則として、レセプトに記載された保険者番号ごとに集計・算出する。
- 保険者番号・保険者名は、データ抽出の対象月時点のものを用いる。

(2)保険者種別ごとの個別事項

①国民健康保険

- 保険者番号ごとに集計し、同一市町村の「国民健康保険」と「退職者医療」は合算して集計する。

②国民健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計する。

③健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計することを原則とし、支部や特例退職被保険者などにより複数の保険者番号をもつ健保組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該健保組合の本部のものを用いる。

④全国健康保険協会

- 保険者番号中の法別番号が「01(協会一般)」「03(日雇特例一般)」「04(日雇特例特別)」である3区分を合算して集計する。

⑤共済組合

- 保険者番号ごとの集計を原則とし、支部により複数の保険者番号をもつ共済組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該共済組合の本部のものを用いる。

⑥後期高齢者医療広域連合

- 各都道府県の後期高齢者医療広域連合ごとに合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号は、各都道府県の広域連合の番号を用いる。

3. 抽出データの算出方法等

(1)保険者別の後発医薬品使用割合(数量シェア)の計算方法

- ONDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出している。

○使用割合(数量シェア)

$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]})$$
で算出している。

(2)抽出対象のレセプト

○医科入院、DPC(出来高払い部分は対象。包括払い部分は対象外)、医科入院外、
歯科、調剤

(3)その他の主な留意点

○ONDBの性質上、審査支払機関の支払請求に係るレセプトのうち電算処理に係るもの(電子レセプト)が算出対象となり(紙レセプトに係るものは対象外)、また、記載の不備等によりNDBに集約されないレセプトは対象外となること。なお、保険者が審査支払機関に差し戻したレセプトは、既にNDBに集約済みであるため算出の対象となる。

○集計の対象月の診療に係るレセプトであっても、医療機関からの請求の遅れ等によりデータ抽出時に審査支払機関からNDBへ格納がなされていないレセプトは抽出の対象外となる。

4. 統計分析

(1)山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合 (資料No.6-1、6-2、6-3)

《使用割合の状況(令和6年3月診療分)》

○使用割合が高い保険者は、小菅村 89.6%、鳴沢村 88.8%、身延町 87.8%という状況である。

○使用割合が低い保険者は、医師国保組合 67.9%、丹波山村 77.2%、富士吉田市 79.1%という状況である。

【使用割合の上位・下位5保険者】

※資料No.6-1 より

上位		下位	
保険者名	使用割合	保険者名	使用割合
小菅村	89.6%	医師国保組合	67.9%
鳴沢村	88.8%	丹波山村	77.2%
身延町	87.8%	富士吉田市	79.1%
早川町	86.9%	山梨中央銀行健康保険組合	79.2%
南部町	86.7%	山中湖村	79.5%

《前年度同月との比較(令和5年3月診療分、令和6年3月診療分)》

○前年度同月の使用割合を比較し、最も伸びたのは、小菅村の 12.9 ポイントである。

【前年度同月比較上位3保険者】

※資料No.6-1 より

保険者名	令和5年3月診療分	令和6年3月診療分	差
小菅村	76.6%	89.6%	12.9
鳴沢村	81.1%	88.8%	7.7
丹波山村	71.3%	77.2%	5.8

山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-1

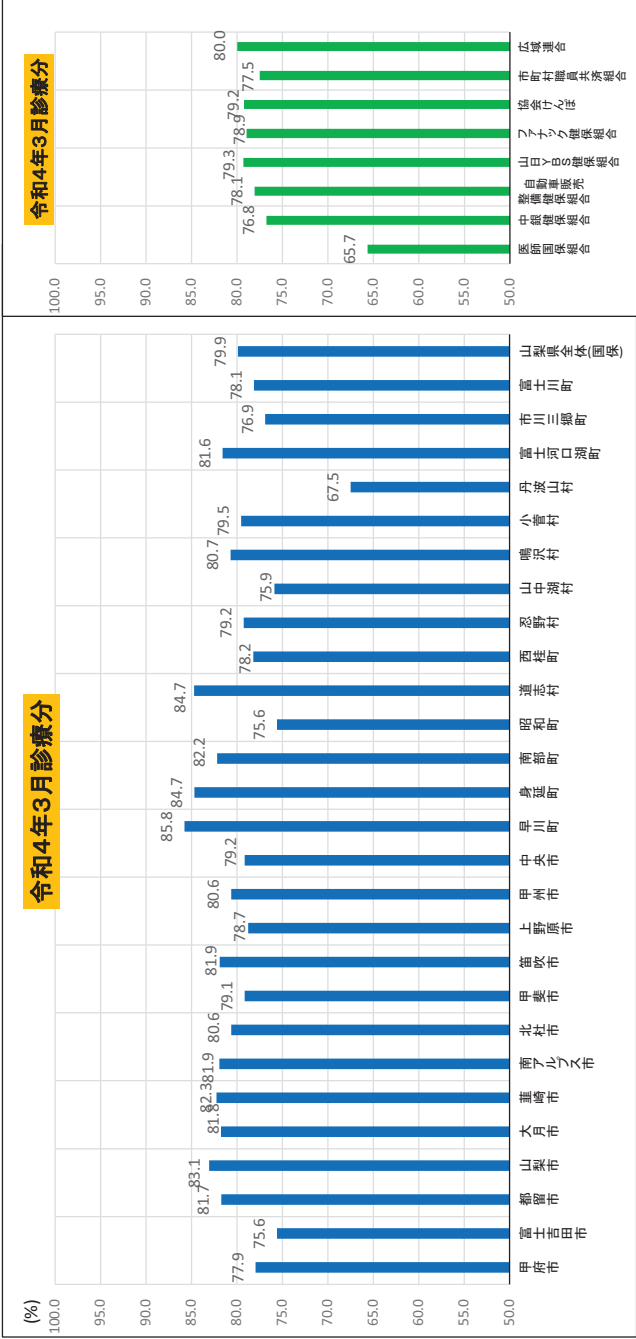
保険者 種別	保険者 番号	保険者名	診療月				
			令和4年3月分	令和4年9月分	令和5年3月分	令和5年9月分	令和6年3月分
			使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
国民健康 保険	190017	甲府市	77.9%	79.9%	79.9%	80.6%	81.6%
	190025	富士吉田市	75.6%	76.2%	76.8%	77.9%	79.1%
	190041	都留市	81.7%	82.2%	83.1%	84.7%	84.2%
	190058	山梨市	83.1%	83.1%	83.3%	85.0%	84.3%
	190066	大月市	81.8%	81.5%	82.8%	84.1%	84.4%
	190074	韮崎市	82.3%	83.0%	84.3%	84.4%	85.4%
	190082	南アルプス市	81.9%	82.6%	82.9%	84.1%	85.1%
	190090	北杜市	80.6%	81.1%	81.4%	81.8%	83.0%
	190108	甲斐市	79.1%	80.0%	80.4%	81.9%	82.3%
	190116	笛吹市	81.9%	82.7%	82.6%	84.3%	84.2%
	190124	上野原市	78.7%	80.2%	79.8%	80.9%	81.6%
	190132	甲州市	80.6%	82.4%	81.7%	83.2%	82.8%
	190140	中央市	79.2%	79.6%	80.9%	81.3%	82.7%
	190728	早川町	85.8%	84.9%	87.2%	85.2%	86.9%
	190736	身延町	84.7%	86.6%	87.3%	87.4%	87.8%
	190744	南部町	82.2%	84.0%	84.5%	84.2%	86.7%
	190793	昭和町	75.6%	76.4%	75.7%	78.2%	81.4%
	190975	道志村	84.7%	84.4%	80.7%	85.5%	82.8%
	190983	西桂町	78.2%	79.8%	80.2%	82.6%	82.4%
	190991	忍野村	79.2%	81.7%	81.8%	83.4%	84.5%
	191007	山中湖村	75.9%	77.1%	78.8%	79.0%	79.5%
	191049	鳴沢村	80.7%	79.3%	81.1%	83.9%	88.8%
	191064	小菅村	79.5%	84.8%	76.6%	80.8%	89.6%
	191072	丹波山村	67.5%	63.0%	71.3%	68.8%	77.2%
	191080	富士河口湖町	81.6%	81.7%	84.1%	84.6%	84.8%
191098	市川三郷町	76.9%	78.3%	78.6%	79.3%	81.3%	
191106	富士川町	78.1%	80.7%	81.9%	80.9%	83.2%	
		山梨県全体(国保)	79.9%	80.9%	81.3%	82.3%	83.0%
国民健康 保険組合	193672	山梨県医師国民健康保険組合	65.7%	64.7%	67.7%	66.8%	67.9%
健康保険 組合	06190037	山梨中央銀行健康保険組合	76.8%	78.1%	77.0%	81.8%	79.2%
	06190086	山梨県自動車販売整備健康保険組合	78.1%	81.3%	79.8%	82.8%	82.6%
	06190136	山日YBS健康保険組合	79.3%	81.0%	79.9%	81.9%	80.6%
	06190144	フェナック健康保険組合	78.9%	78.3%	80.7%	80.9%	81.4%
全国健康 保険協会	01190016	全国健康保険協会山梨支部	79.2%	80.6%	80.4%	82.5%	82.8%
共済組合	32190415	山梨県市町村職員共済組合	77.5%	80.6%	79.6%	82.0%	82.7%
後期高齢 者医療広 域連合	39190004	山梨県後期高齢者医療広域連合	80.0%	80.5%	81.6%	82.2%	83.0%

※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合(毎年度公表)より」

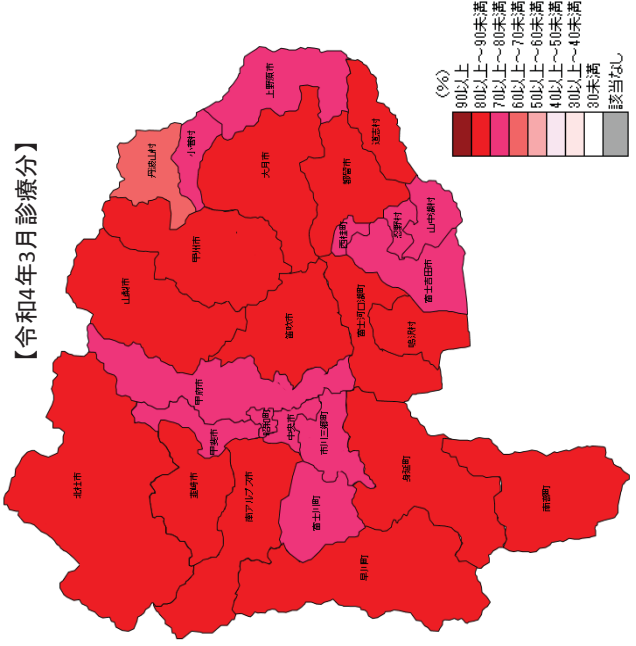
※毎年度、9月・3月の診療分のデータが厚生労働省ホームページに掲載される

※NDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出されている
 使用割合(数量シェア) = 後発医薬品の数量 ÷ (後発医薬品がある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)

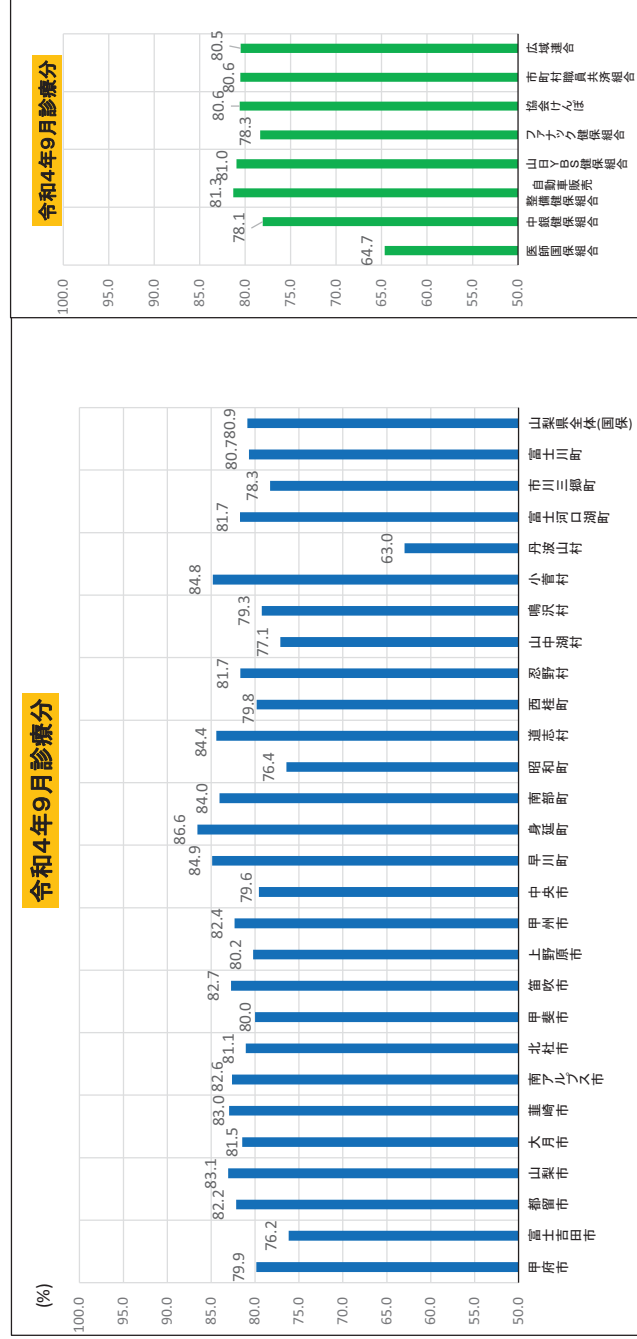
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ



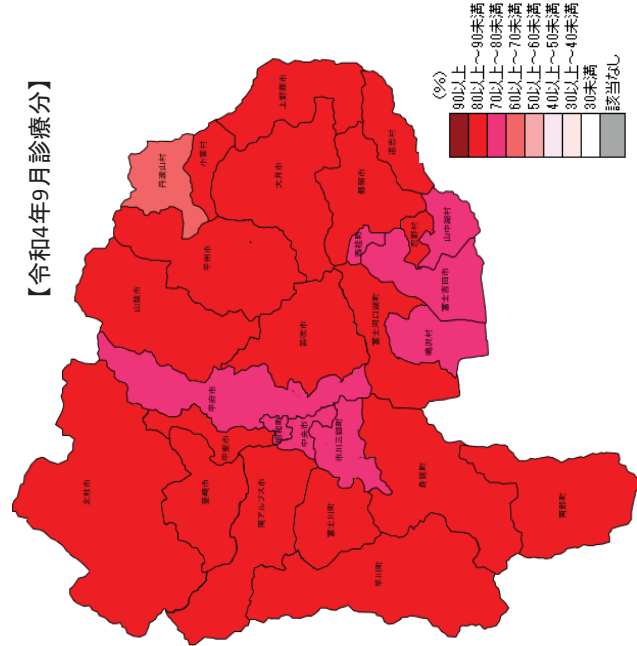
山梨県国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



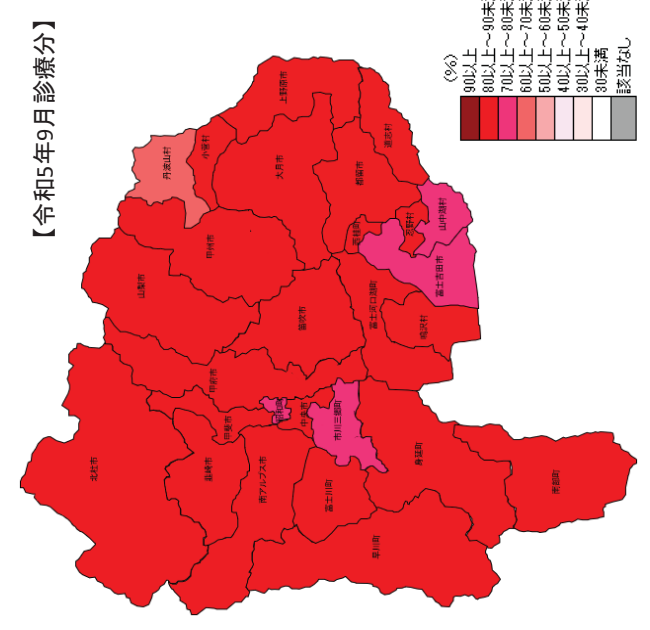
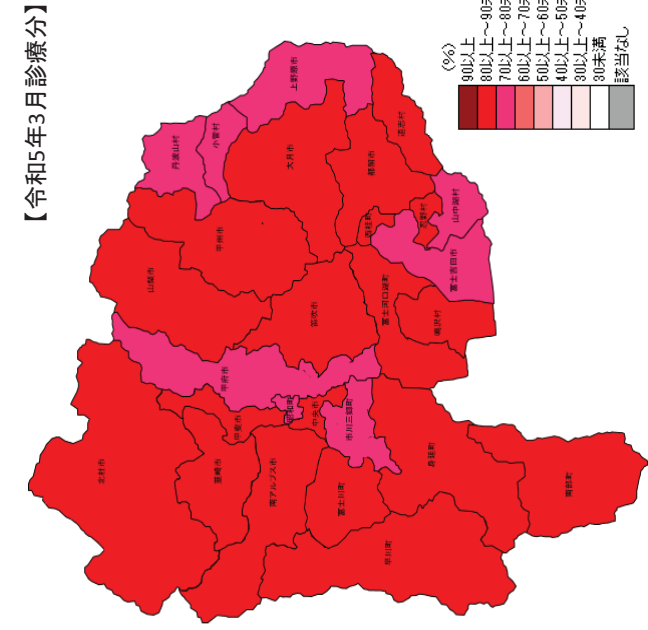
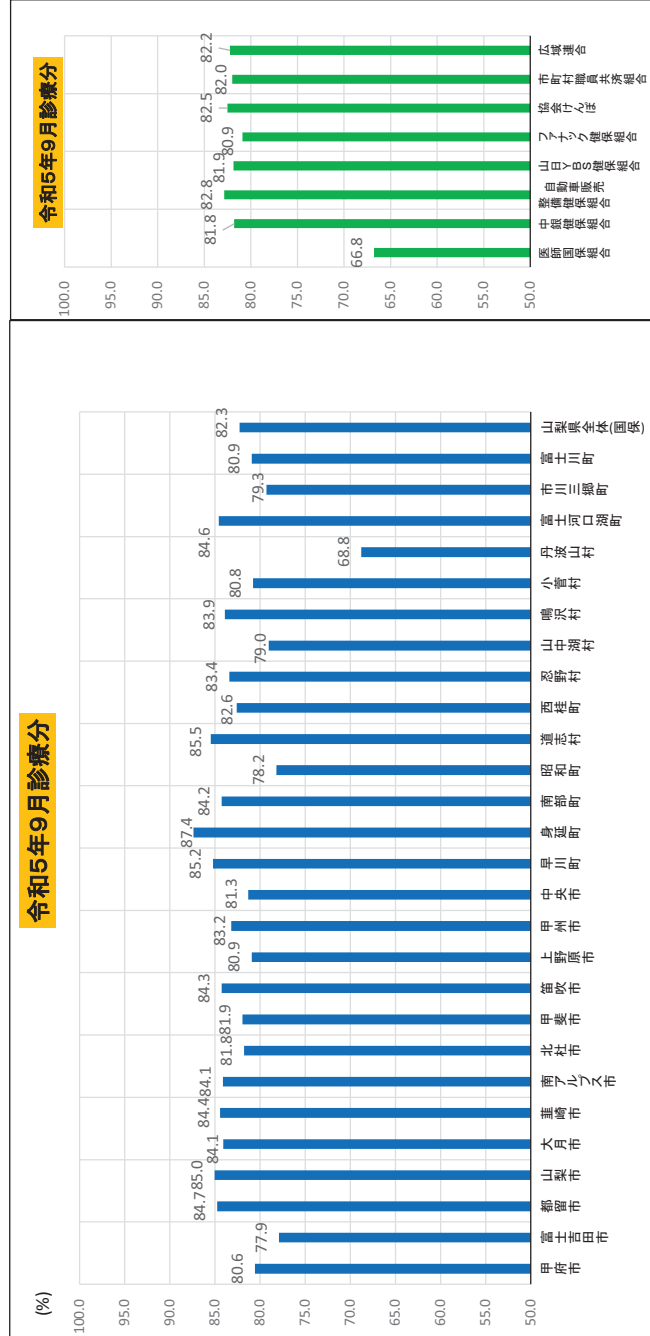
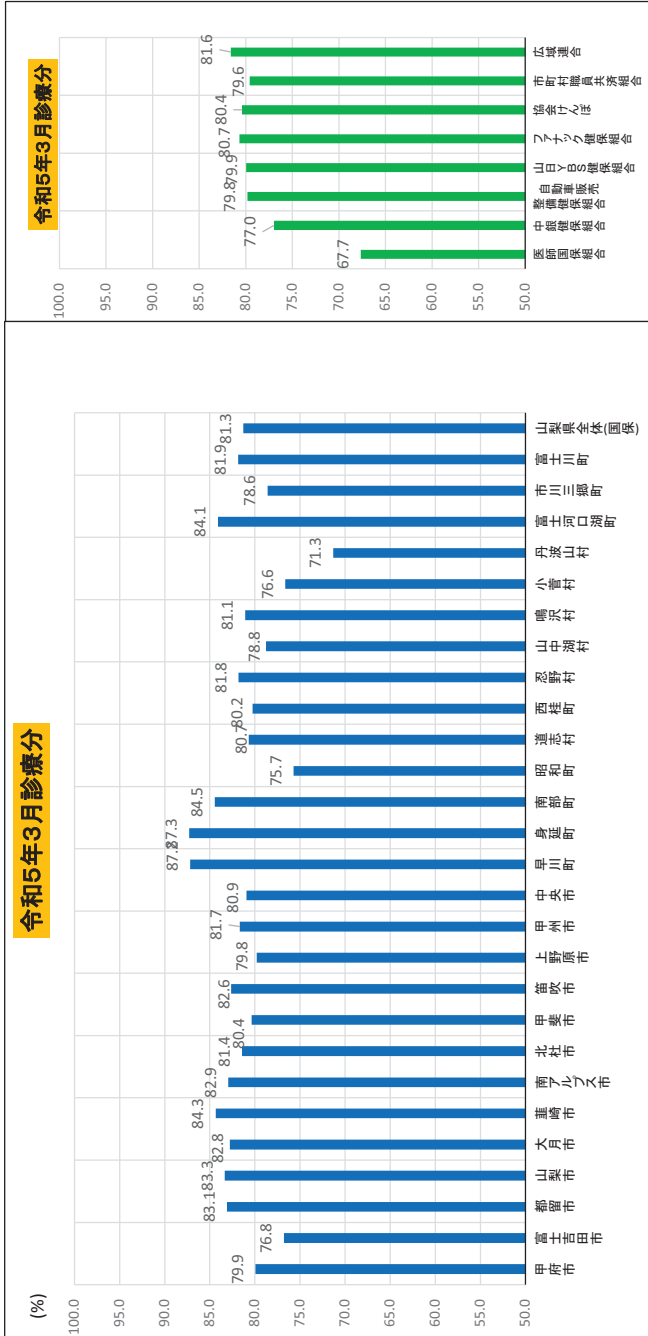
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合(グラフ・マップ)



【令和4年9月診療分】

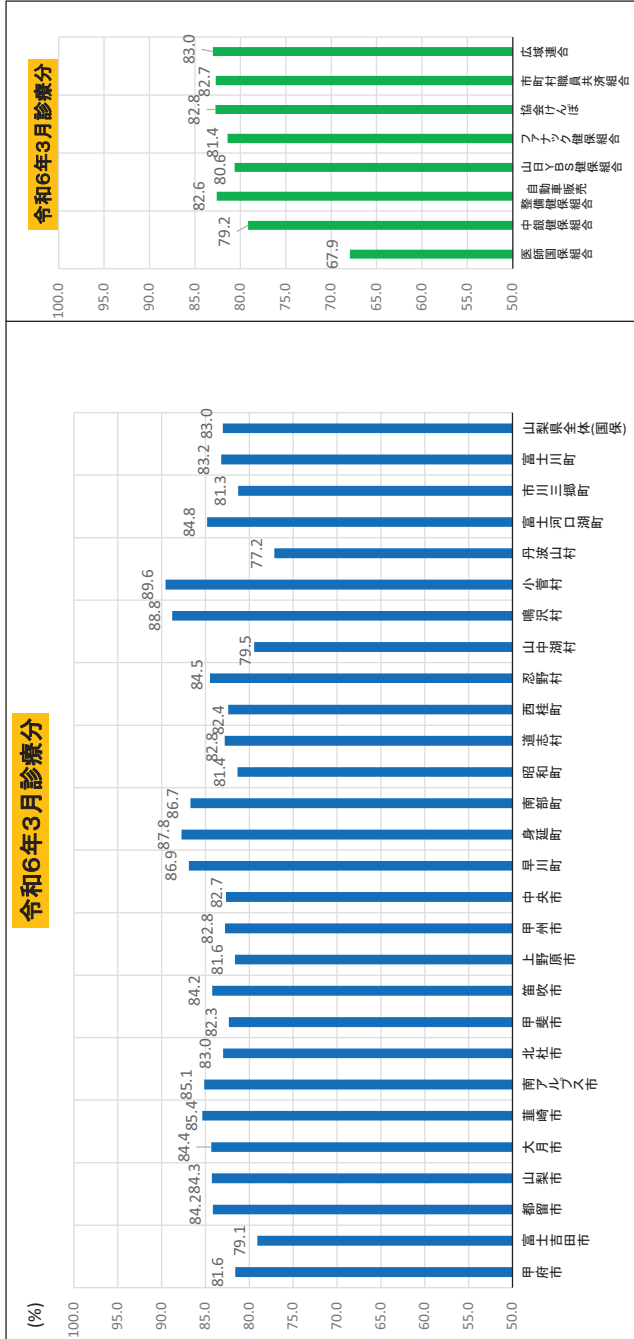


山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ

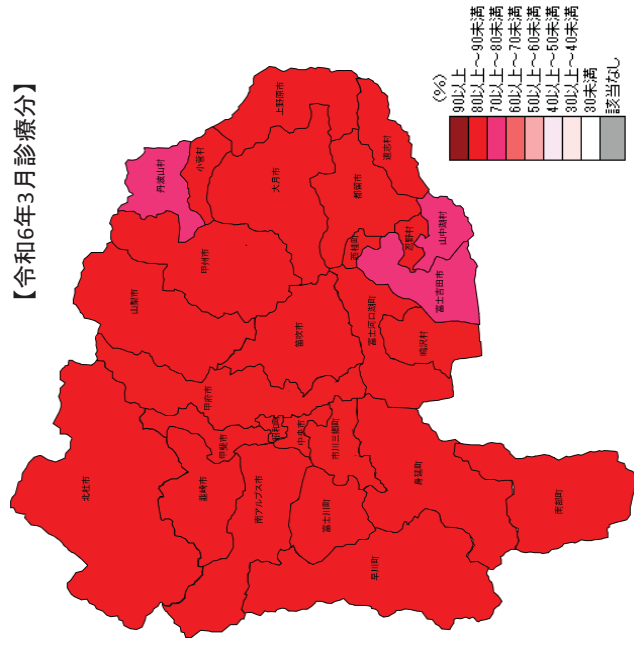


山梨県_国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ

山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ

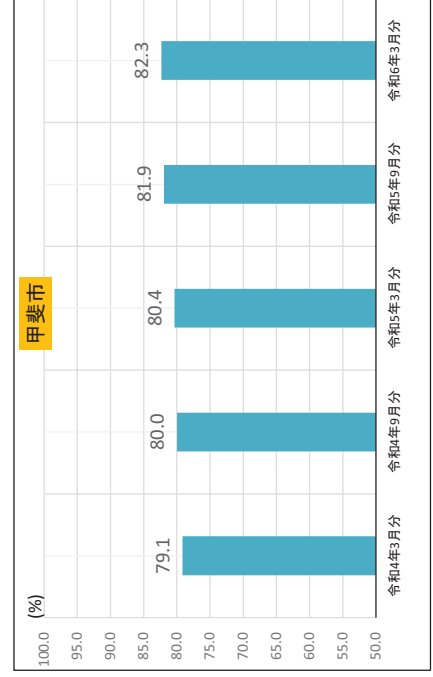
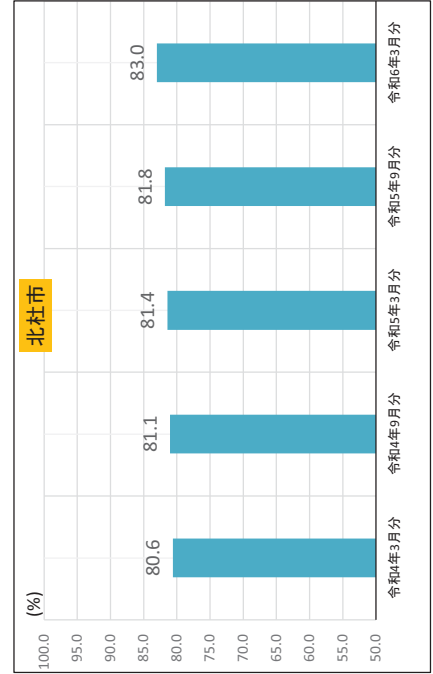
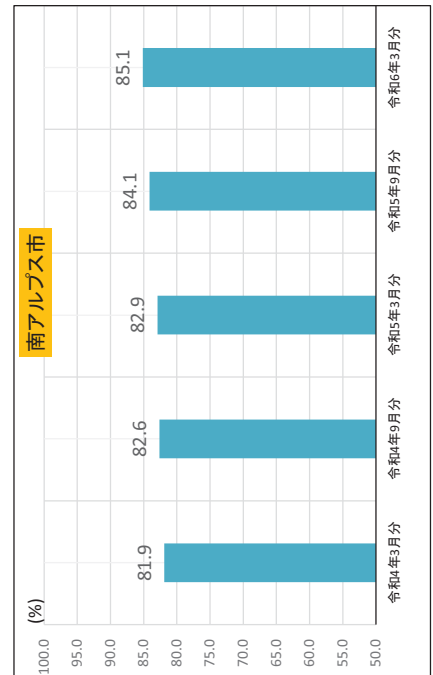
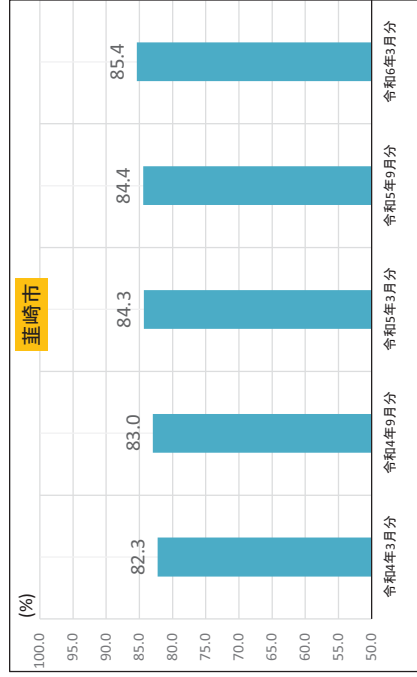
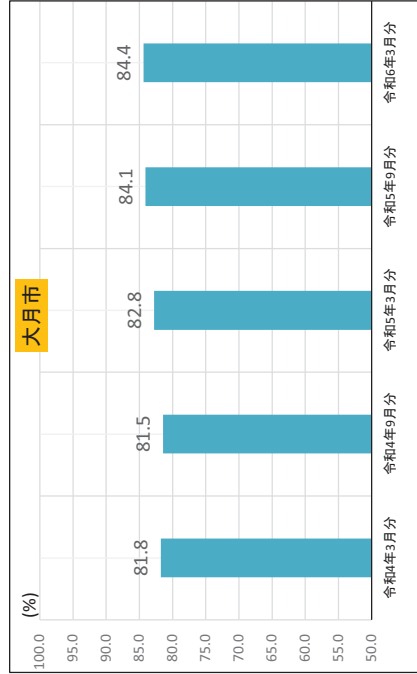
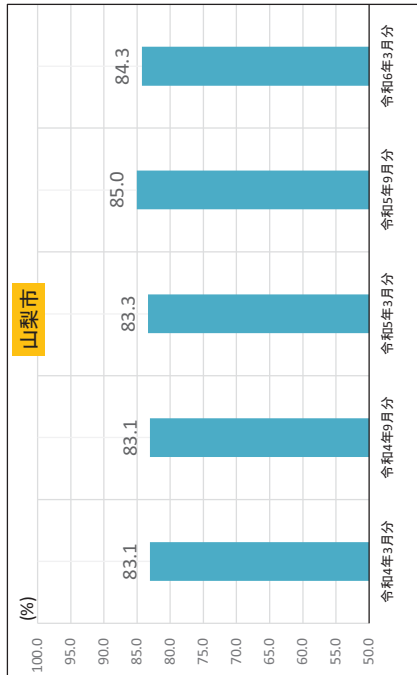
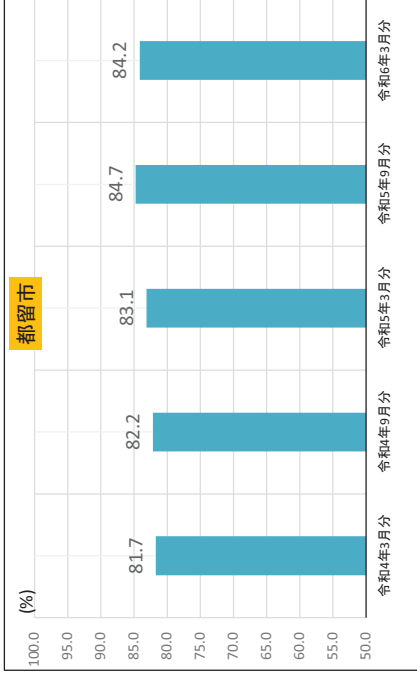
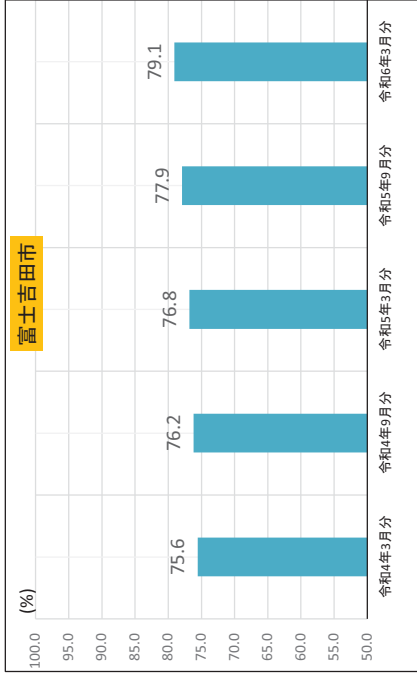
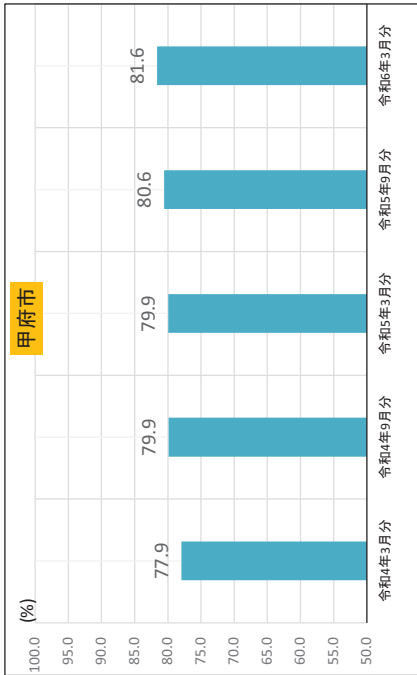


山梨県国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



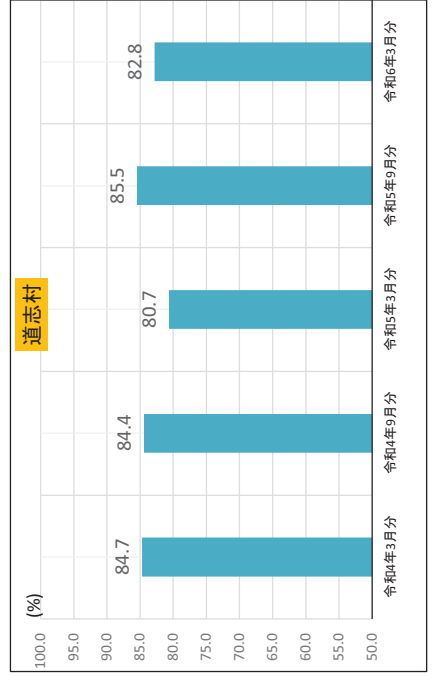
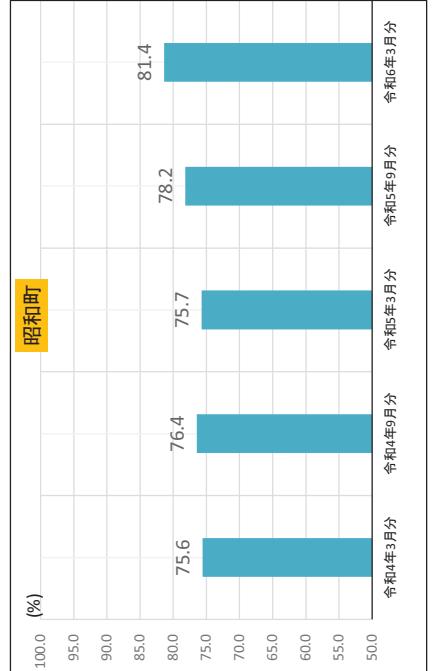
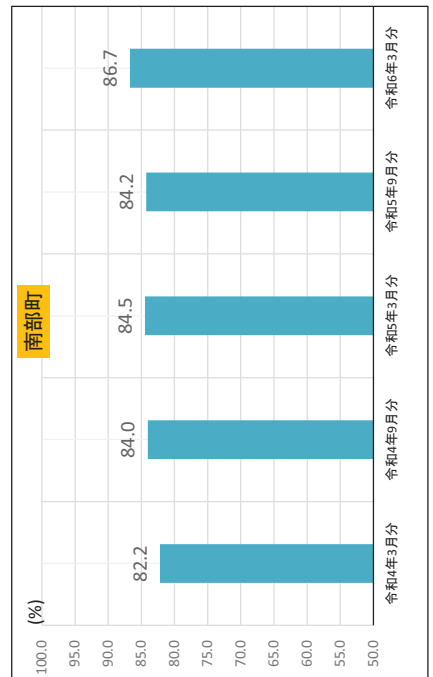
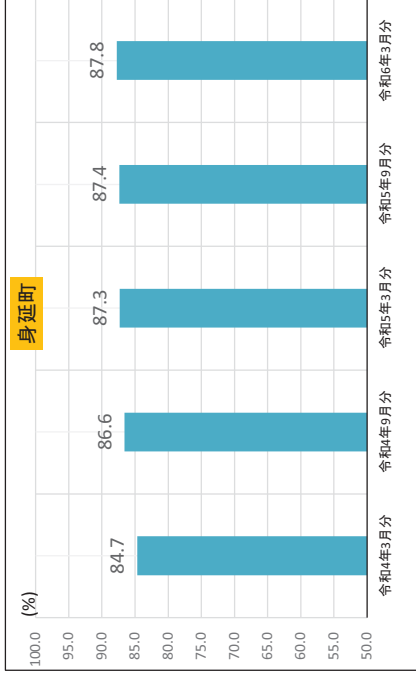
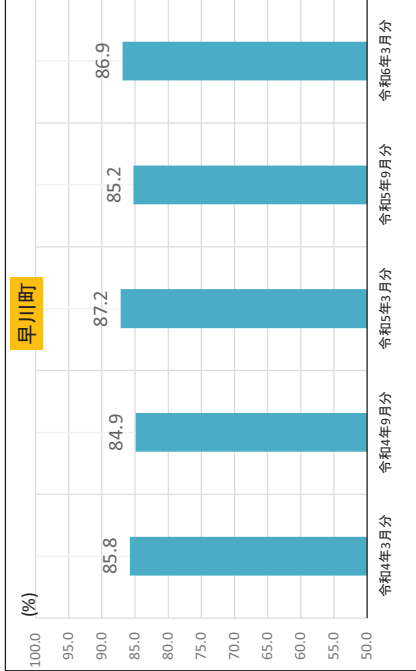
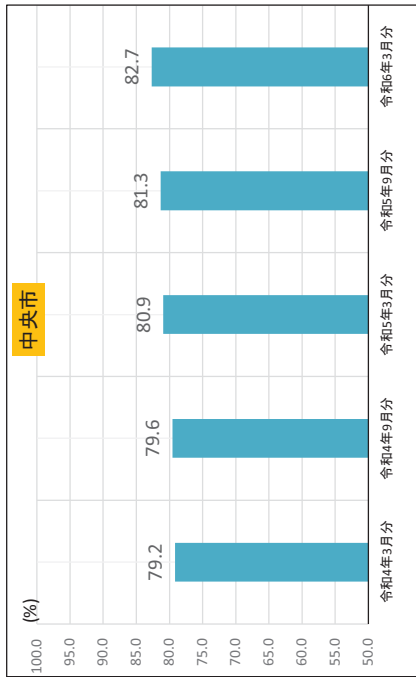
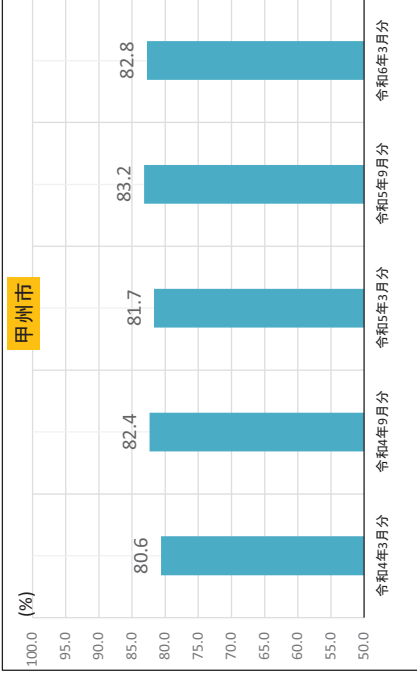
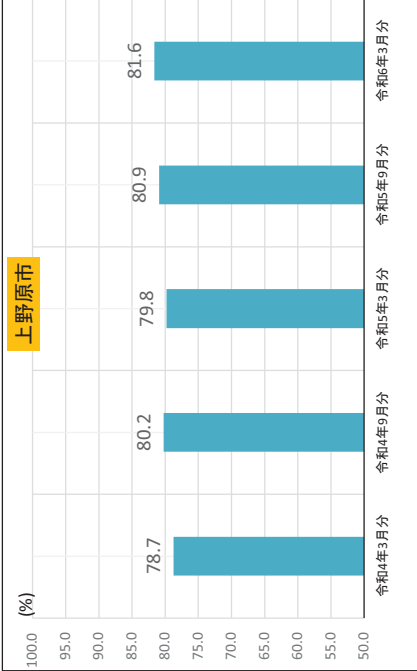
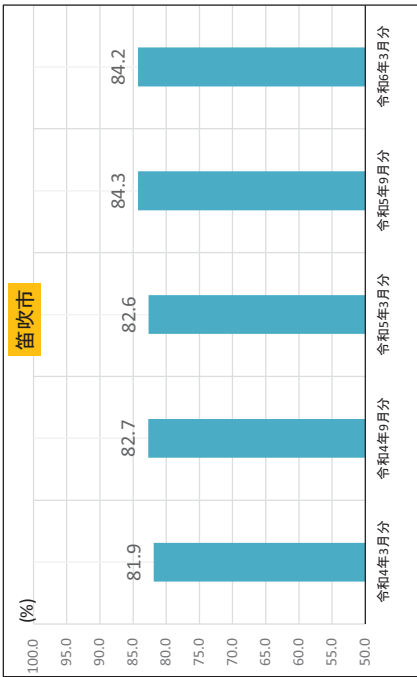
山梨県_保険者別、診療年月別シネネリック医薬品使用割合

資料№6-3



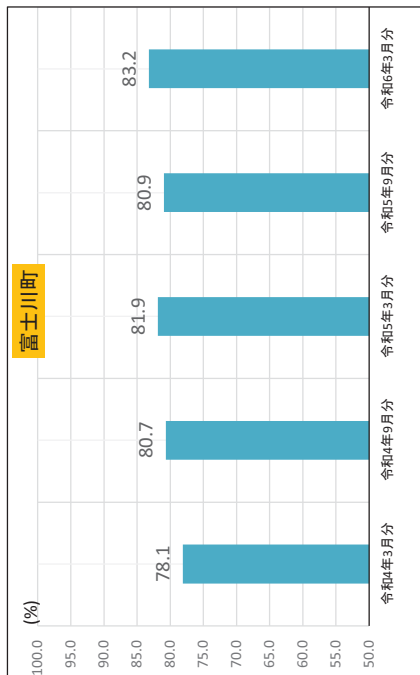
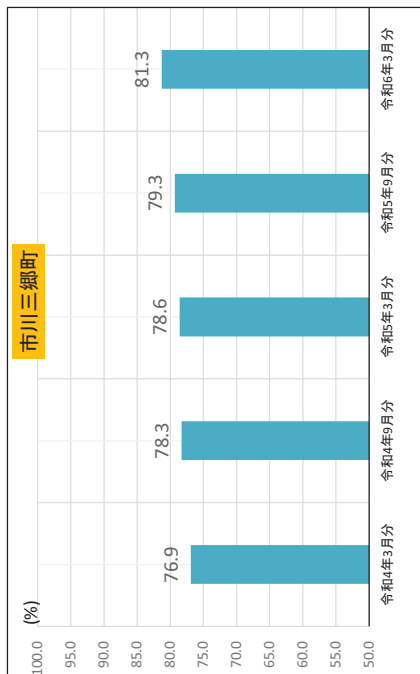
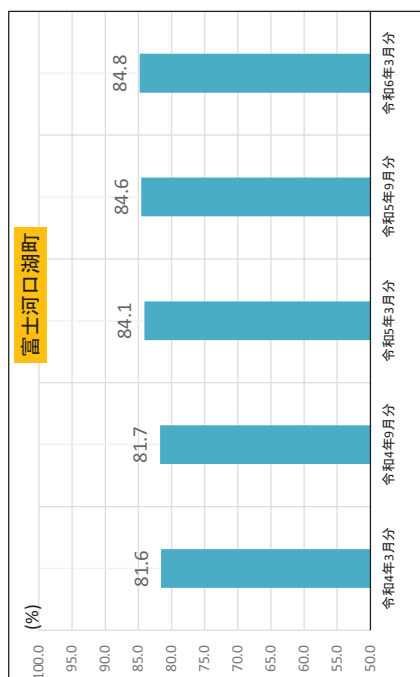
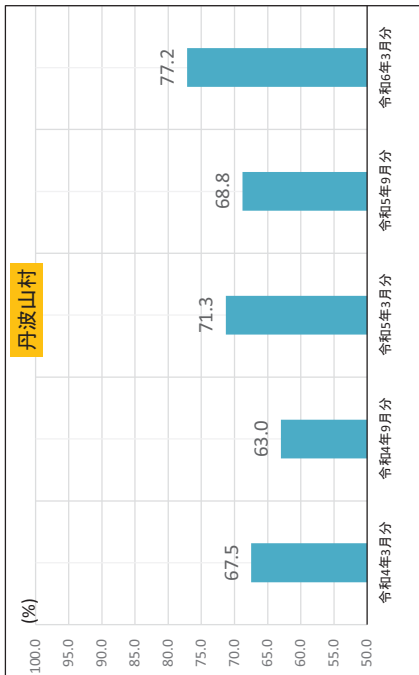
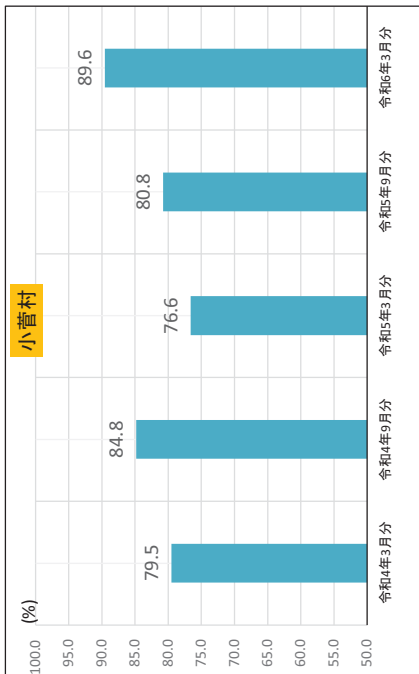
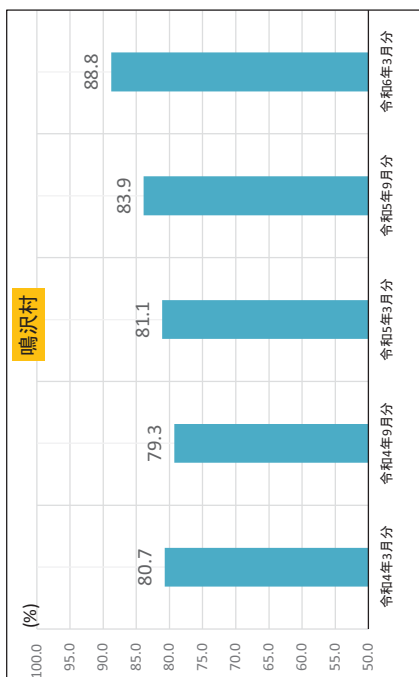
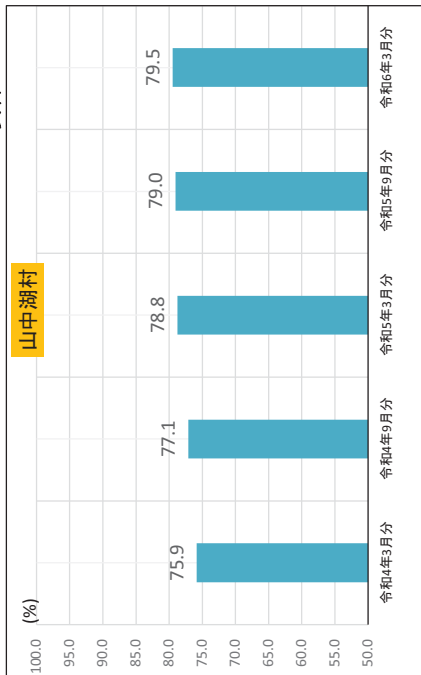
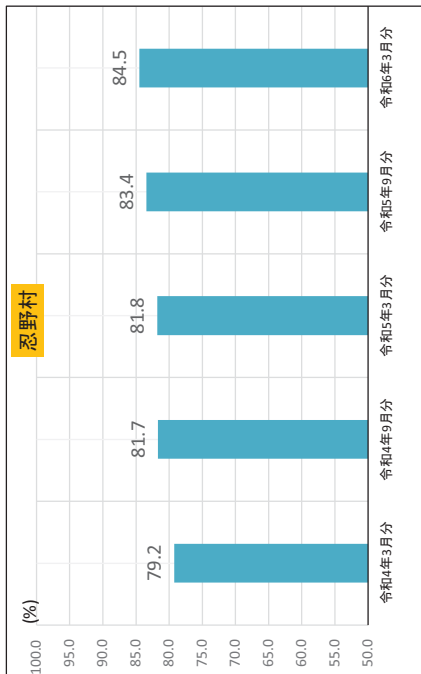
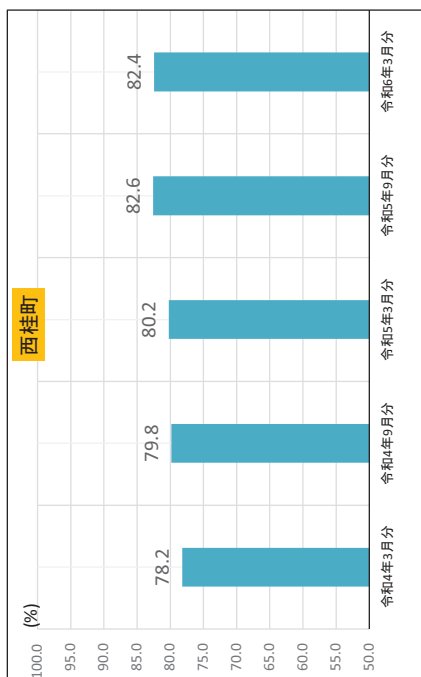
山梨県_保険者別、診療年月別シネネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



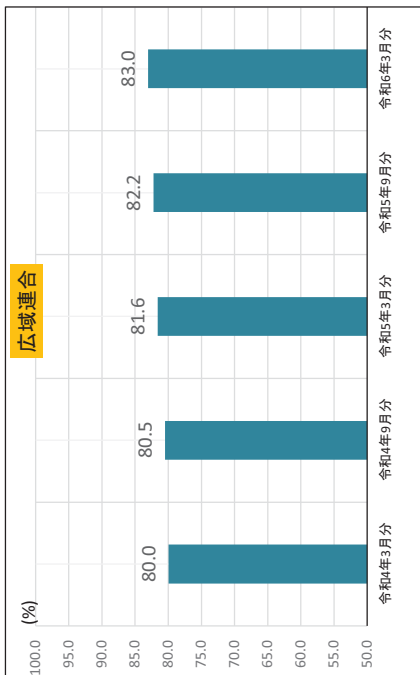
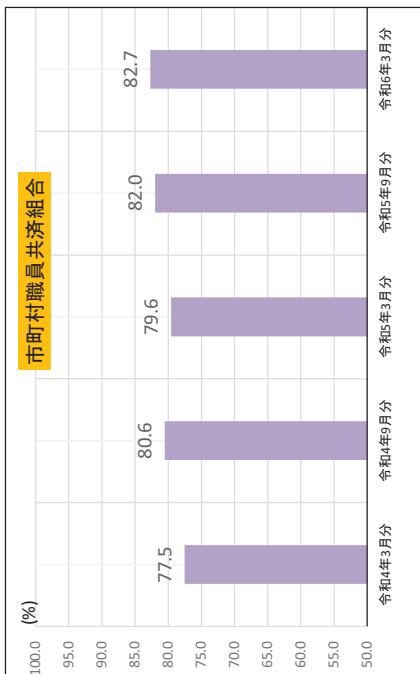
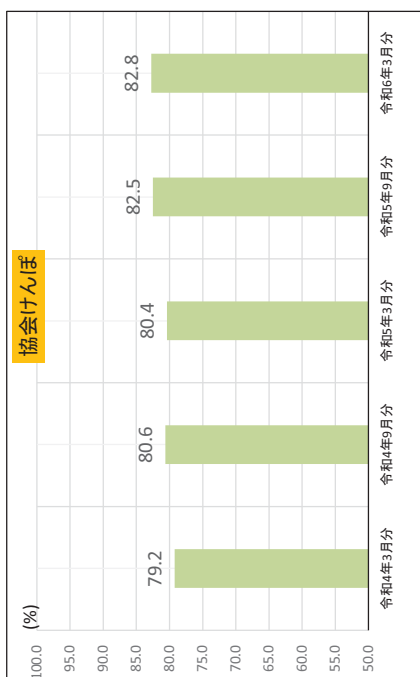
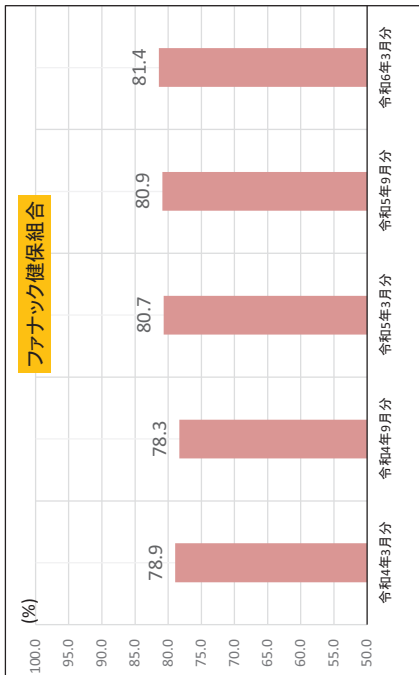
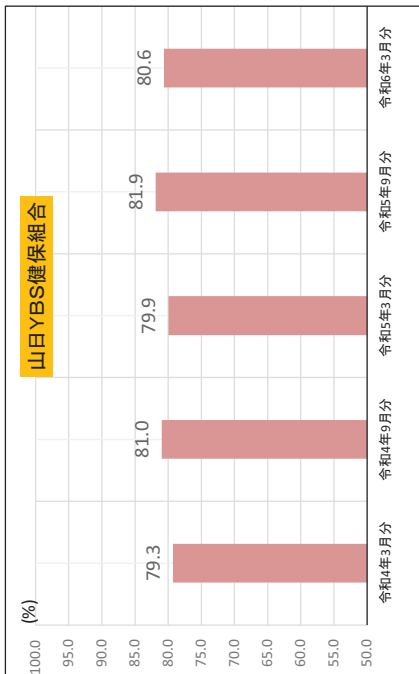
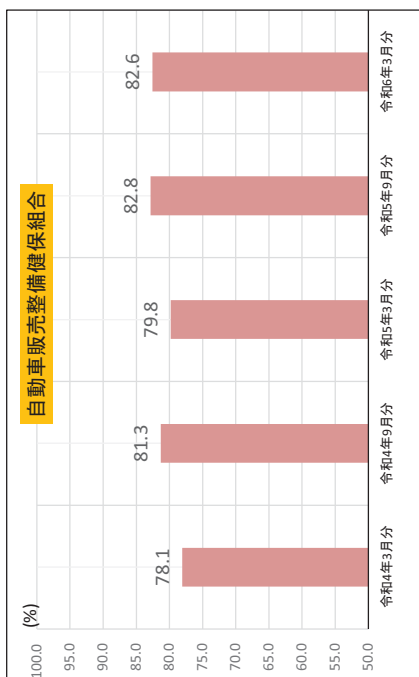
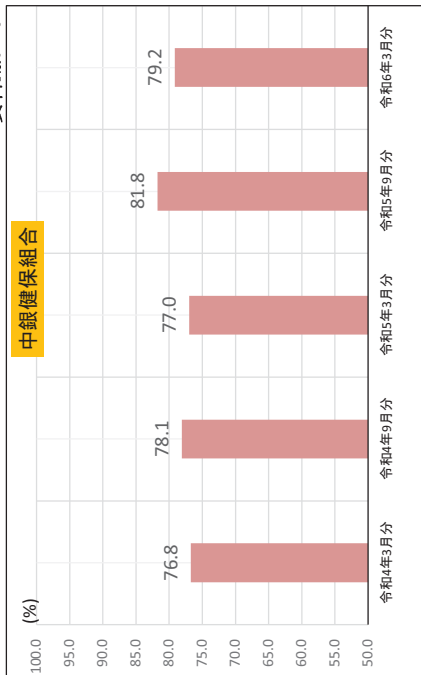
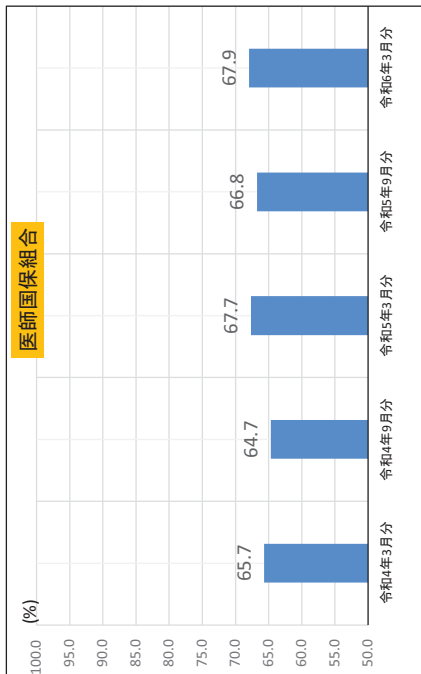
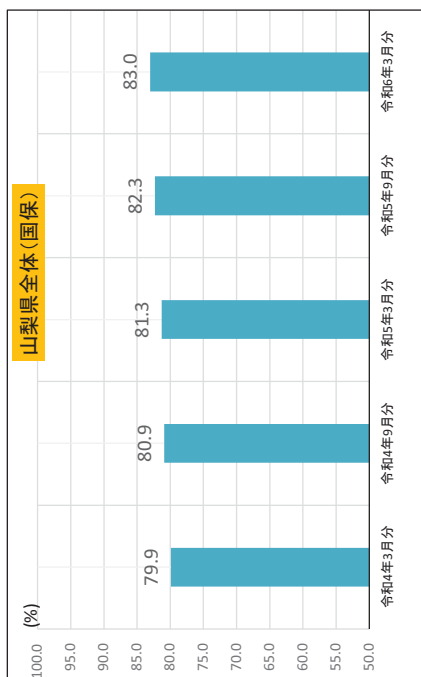
山梨県_保険者別、診療年月別シエネリック医薬品使用割合

資料№6-3



山梨県 保険者別、診療年月別シネネリック医薬品使用割合

資料№6-3



5. まとめ

《後発医薬品の使用促進について》

今回の統計結果から、本県では若い世代(5歳から19歳)の使用割合が低いことが分かった。

0歳から74歳までの使用割合は83.3%(昨年度より2.2ポイントの伸び)、75歳以上の使用割合は83.2%(昨年度より2.7ポイントの伸び)であり、国及び山梨県で掲げた目標値80%を超えていることが分かった。

また、保険者(地域)ごとにみると、80%に届いていない保険者もあることが分かった。

このことより、保険者協議会は、若い世代を含め、幅広い年代の方々に対し、ジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していく。